

官報

號外 昭和十年三月八日

○第六十七回衆議院議事速記録第二十四號

帝國議會

昭和十年三月七日(木曜日)

午後一時二十分開議

議事日程 第二十三號

昭和十年三月七日

午後一時開議

第一 (第一號) 昭和九年度歳入歳出總豫算追加案

第二 (特第一號) 昭和九年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

第三 關稅定率法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會

第四 大正十三年法律第二十四號中改正法律案 (贅澤品等ノ輸入税ニ關スル件) (政府提出) 第一讀會

第五 昭和七年法律第四號中改正法律案 (輸入税ノ從量税率ニ關スル件) (政府提出) 第一讀會

第六 關稅法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會

第七 鐵ノ輸入税ニ關スル法律案 (政府提出) 第一讀會

第八 治安維持法改正法律案 (政府提出) 第一讀會

第九 不法團結等處罰ニ關スル法律案 (政府提出) 第一讀會

第十 公立學校職員年功俸國庫補助法中改正法律案 (政府提出) 第一讀會

第十一 肥料業統制法案 (政府提出) 第一讀會

昭和八年度第一豫備金支出ノ件

昭和八年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和八年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和八年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

昭和九年度第二豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算超過支出ノ件

〔左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス〕

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

昭和六年法律第四十號廢止法律案 (重要産業ノ統制ニ關スル件)

提出者 森田 福市君 鷲野米太郎君

提出者 田中祐四郎君 本田彌市郎君

提出者 竹田 儀一君 内藤 正剛君

提出者 私立大學經費國庫補助ニ關スル建議案

提出者 牧山 耕藏君 一松 定吉君

坂東幸太郎君 荒川 五郎君

永田善三郎君 内藤 正剛君

濱野徹太郎君

私立大學總長學長及教職員優遇ニ關スル建議案

提出者

提出者 牧山 耕藏君 一松 定吉君

坂東幸太郎君 荒川 五郎君

永田善三郎君 内藤 正剛君

濱野徹太郎君

國有鐵道ト島原鐵道並島原三角間航路連帶運輸開始ニ關スル建議案

提出者

提出者 中村不二男君 牧山 耕藏君

島原鐵道買收ニ關スル建議案

提出者

提出者 中村不二男君 牧山 耕藏君

私立大學經費國庫補助ニ關スル建議案

提出者

提出者 安藤 正純君 板野 友造君

山村豐次郎君 水島彦一郎君

私立大學總長學長及教職員優遇ニ關スル建議案

提出者

提出者 板野 友造君 水島彦一郎君

山村豐次郎君 安藤 正純君

肢體不自由者救済教育令制定ニ關スル建議案

提出者

提出者 永井柳太郎君 安藤 正純君

岩崎幸治郎君 若宮 貞夫君

野田文一郎君 福田 虎龜君

松田竹千代君 牧山 耕藏君

母子ホームニ關スル建議案

提出者

提出者 山本 市英君 星島 二郎君

田子 一民君 松尾 孝之君

篠原 義政君

關門海底トンネル鐵道敷設速成ニ關スル建議案

提出者

提出者 西岡竹次郎君 佐保 畢雄君

宮川 一貫君 竹下 文隆君

綾部健太郎君 水久保甚作君

藤生安太郎君 村田虎之助君

永田 良吉君

喜々津浦上間鐵道敷設ニ關スル建議案

提出者

提出者 西岡竹次郎君 佐保 畢雄君

長崎市ニ鐵道運輸事務所及保線事務所新設ニ關スル建議案

提出者

提出者 西岡竹次郎君 佐保 畢雄君

長崎中央電信局設置ニ關スル建議案

提出者

提出者 西岡竹次郎君 佐保 畢雄君

一昨日六日常任委員補選選舉ノ結果左ノ如シ

一昨日六日特別委員理事補選選舉ノ結果左ノ如シ

府縣制中改正法律案 (政府提出) 外三件委員

理事船田 中君 (理事簿本太吉君昨

日委員辭任ニ付其ノ補闕)

理事船田 中君 (理事簿本太吉君昨

日委員辭任ニ付其ノ補闕)

理事船田 中君 (理事簿本太吉君昨

日委員辭任ニ付其ノ補闕)

理事船田 中君 (理事簿本太吉君昨

日委員辭任ニ付其ノ補闕)

理事船田 中君 (理事簿本太吉君昨

日委員辭任ニ付其ノ補闕)

理事船田 中君 (理事簿本太吉君昨

日委員辭任ニ付其ノ補闕)

一昨六日議長ニ於テ選定シタル委員左ノ如シ

地方財政調整法案(富田幸次郎君外二十名提出)外一件委員

熊谷 直太君 出井 兵吉君

鈴木 英雄君 八田 宗吉君

田邊 熊一君 大野 伴睦君

清水 銀藏君 小林 絹治君

西村 茂生君 須之内品吉君

上塚 司君 田尻藤四郎君

前田 米藏君 加藤久米四郎君

岡田喜久治君 小川郷太郎君

前田房之助君 池田 秀雄君

齋藤 直橘君 小山 松壽君

川淵 洽馬君 末松借一郎君

加藤 鯛一君 由谷 義治君

中村 繼男君 戸田 由美君

飯村 五郎君

一昨六日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
政府貸付金處理ニ關スル法律案(政府提出)委員

辭任大神田軍治君 補闕平川松太郎君
營業收益稅法中改正法律案(中谷貞賴君外二名提出)委員

辭任飯村 五郎君 補闕小池 四郎君
府縣制中改正法律案(政府提出)外三件委員

辭任箸本 太吉君 補闕石坂 豐一君
札幌軌道株式會社及矢作水力株式會社所屬軌道ノ經營廢止ニ對スル補償ノ爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)外一件委員

辭任平井信四郎君 補闕佐竹直太郎君

○議長(濱田國松君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、日程第一及第二ハ豫算案デアリマスカラ、一括シテ議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、昭和九年度歲入歲出總豫算追加案、日程第二、昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案、右兩案ヲ一括シテ議題ト致シマス、豫算委員長ノ報告ヲ求メマス

〔海軍大臣方居ラスト呼フ者アリ〕

○砂田重政君 海軍大臣ノ出席ヲ要求シテアリマス

○議長(濱田國松君) 今要求シテアリマスカラ、其中出席サレマス 砂田重政君

第一(第一號)昭和九年度歲入歲出總豫算追加案

第二(特第一號)昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

報告書

一(第一號)昭和九年度歲入歲出總豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年三月六日

豫算委員長 砂田 重政

衆議院議長濱田國松殿

報告書

一(特第一號)昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年三月六日

豫算委員長 砂田 重政

衆議院議長濱田國松殿

報告書

一(特第一號)昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年三月六日

豫算委員長 砂田 重政

衆議院議長濱田國松殿

報告書

一(特第一號)昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年三月六日

豫算委員長 砂田 重政

衆議院議長濱田國松殿

報告書

一(特第一號)昭和九年度各特別會計歲入歲出豫算追加案

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十年三月六日

候此段及報告候也
昭和十年三月六日
豫算委員長 砂田 重政
衆議院議長濱田國松殿

〔砂田重政君登壇〕

○砂田重政君 只今議題ニ供サレテ居リマス、昭和九年度一般會計追加豫算案、昭和九年度特別會計追加豫算案、豫算委員會ノ經過並結果ヲ御報告申上ゲタイト思ヒマス、豫算委員會ノ質問應答ハ多岐ニ互リマスルカラ、願クハ速記録ニ依ッテ御諒承ヲ仰ギタイト思ヒマスルガ、大體一般會計ニ於キマシテハ、總額千二十餘萬圓デアリマシテ、其中大部分ハ義務費ニ屬スル各省ノ事務的經費デゴザリマス、又特別會計ニ於キマシテハ、朝鮮總督府特別會計ニ於テ千五百餘萬圓、臺灣總督府特別會計ニ於テ二百萬圓前後ノ追加豫算デアリマスルガ、是亦悉ク事務的且ツ義務費ニ屬スル問題デアリマシテ、多クノ質問應答ハナカッタノデアリマス、其中ニ最モ新シク計上サレマシタモノトシテハ、今春滿洲國皇帝陛下御來訪ニ付キマシテ、之ニ要スル御警衛ニ關スル諸費ガ三、四ノ省ニ互リマシテ計上サレテ居ッタノデアリマス、此滿洲國皇帝ガ、我國ニ御來訪ニ相成リマスルト云フコトハ、吾吾滿洲國ノ獨立以來、最モ國ヲ譽ゲテ御歡迎申上ゲベキ時機デアルト云フコトニ付キマシテハ、各黨各派ノ諸君ヨリ此事ヲ明瞭ニサレタノデアリマス、殊ニ此滿洲國皇帝陛下ノ御來朝ヲ機トシテ、御歡迎ヲ申上ゲルト云フ、此經費ハ昭和十年度ノ追加豫算ニ於テモ、更ニ要求ラスル旨ノ總理大臣ノ言明ガアッタノデアリマス、是ニ於テ政友會

ノ大口君等ヨリ、斯様ナ經費ハ追加豫算トシテ計上ラスル場合ニ於テモ、我が國民ノ代表ノ府デアアルベキ所ノ貴衆兩院ニ於キマシテハ、斯様ナ御歡迎ノ經費ノ如キモノハ、特ニ慎重ニ且ツ最モ熱意ヲ表明スル爲ニ、即決可決ヲ要スベキモノデアアル、然ルニ之ヲ一般ノ追加豫算ノ中ニ混同サレテ提案ヲサレル結果、諸種ノ論議ノ後ニ於テ、此問題ヲ決スルガ如キコト、ナリ、吾々眞ニ滿洲國皇帝陛下ヲ御歡迎申上ゲル精神ニ副ハザル憾ミアルニ依リ、來ルベキ十年度ノ追加豫算ヲ計上サレル場合ニハ、一般普通ノ追加豫算ト切離シテ、此追加豫算ヲ提案セラレントラ望ムト云フ、強キ意味ノ御希望ヲ申述ベラレタノデゴザリマス(拍手)是ハ此追加豫算會議中ニ於ケル最モ強イ意味ニ於テ、政府ニ於テモ御聽取ニナツタコト、考ヘラレタノデアリマス

次ニ此追加豫算ノ審議ニ移リマシテ、議題ノ中心ニナリマシタ問題ハ、木村正義君ヨリ質問ニナリマシタ、今回ノ昭和九年度ノ追加豫算ニ依リマスル、陸海軍兩省ノ精米及麥ノ買入價格ニ於テ、兩省ノ各自明細書ノ間ニ非常ナ差異ノアルコトヲ發見ヲ致シタノデアリマス、殊ニ精白米ノ如キハ、殆ド同一品種ノ物ヲ給與サレテ居リマスルニ拘ラズ、其價格ハ百疋ニ付テ陸海軍兩省ノ間ニ六圓以上ノ差ノアルコトヲ發見サレマシテ、之ヲ質問サレタノデアリマス、其結果段々ニ質問ハ深刻ニ、微ヲ穿テ細ニ互ッテ御質問ニナリマシタ結果、海軍大臣ハ、此各目明細書ノ中ニ記載サレタル單價ニ付テハ、實際ノ實情ニ副ハザルモノガアル、他ノ食料品ノ經費ヲ以テ流用スル意味ニ於テ、長イ間ノ習慣ニ依ッテ斯様ニ記載シタコ

トハ洵ニ遺憾デアルカラ、將來ハ各日明細ノ内容ノ記載ニ付テ、之ヲ改善シタイト云フ考ヲ有テ居ルト云フコトヲ明瞭ニサレタノデアリマス、陸軍大臣モ、亦陸軍省買入數量其他ニ付テ種々ノ御質問ガ出マシタ結果、此各日明細ノ記載方ニ付テハ、將來改善ヲスル考ヲ有ツコトヲ明瞭ニサレタノデアリマス、此事ハ木村君ガ委員會ニ於テ屢々述ベラレマシタ點デアリマスガ、大體今日ノ日本ノ豫算ヲ審議スル議院ニ提案ヲサレマスル各省ノ各日明細ハ、御承知ノ如ク非常ナ大部ナモノデアリマス、而モ衆議院ニ於テ、又貴族院ニ於テ、豫算ヲ審議致シマスル上ニ於ケル唯一ノ資料トシテ見ルベキモノハ、此各日明細書ニ依ラナケレバ他ニ方法ハナイノデアリマス、併ナガラ此三万頁ニ餘ル各日明細、而モ非常ニ難解ナル豫算ノ明細書ニ依リ、且ツ此各日明細書ハ、各省毎ニ各、其内容ヲ異ニ致シテ、同一事項ニ對スル明細書ニ於テモ、非常ニ簡疎ノ別ガアルノデアリマス、斯様ナモノヲ統一シテ出シテ貫ハナケレバ、眞ノ審議ハ出來ナイト云フコト、之ヲ今際提案ヲサレマシタ追加豫算ト云フ、小サナ一ツノ各日明細書ニ依ッテスラ、是ダケノ事實ガ出テ來ルノデアリマス、是ハ即チ政府提案ノ各豫算全體ニ互ル縮圖トシテ之ヲ見テモ、斯様ナ非常ナ過チノアルコトヲ發見スル以上ハ、獨リ陸海軍省ニ止マラズ、各省ノ各日明細書ヲ今少シク理解シ易ク、又眞實ニ吻合シテ、議員全體ガ豫算ノ内容ヲ明瞭ニ知ルコトノ出來ルヤウニ、改革ヲ望望スル意味ノ旨ヲ述ベラレマシタ、又民政黨ノ中村三之丞君カラモ、同様ノ事ヲ希望サレタノ

デアリマス、政府ハ此趣旨ハ十分ニ體サレタコト、吾々ハ解釋ヲ致シタノデゴザイマス
尙ホ民政黨ノ中村君ヨリハ、今回ノ豫算中百二十万圓ノ收入ヲ、刑務所收入トシテ計上サレ、更ニ之ニ對シテ百二十万圓ノ刑務所行刑費ノ追加要求ヲサレテ居ル、而シテ是ノ計畫ハ、刑務所工業ノ投資デアルト云フ意味ニ於テ、刑務所工業ガ、安イ勞銀ト強制的ニ長イ勞働時間ト利用シテ、是ガ一般商工業者ニ多大ノ打撃ヲ與ヘルト云フ點ニ付テ、詳細ニ互テ御質問ガアリマシタ、政府ハ此點ニ付テハ、一般商工業者ヲ壓迫セザルコトニ最善ノ注意ヲ拂フト云フコトノ答ガアリマシタ、斯様ニシテ大體ニ於テ、此豫算全體ハ、討論ニ入りマシテ、致友會ヲ代表シテ清瀬君ヨリ、民政黨ヲ代表シテ中村君ヨリ、贊成ノ御表明ガアリマシタ、而シテ滿場一致ヲ以テ、此追加豫算ハ、認ムベキモノトシテ可決サレタ次第デゴザイマス

此際委員長ハ一言前同ノ豫算委員會ノ報告ニ付キマシテ、補足スルコトヲ御許ヲ得タイト思ヒマス、只今マデ私ガ申上ゲマシタ此報告ニ誤リガアリマスルナラバ、政府ハ直チニ此壇上ニ於テ、明瞭ニ其誤リノアルコトヲ指摘シテ戴キタイ、前同ノ豫算委員長ガ報告ヲ致シマシタ報告ニ對シ、政府諸公ハ此席ニ御列席ニナッテ居リナガラ、此誤レルコトヲ一言モ反駁ヲサレタコトガナカッタ、然ルニ翌日ノ新聞ヲ見マスルト、委員長ガ、滿洲國國防費分擔ノ問題ニ對スル質問ハ、日本ノ士氣ニ影響ガアル虞ガアル意味ノ質問ノアリタルコトヲ御報告申上ゲマシ

タニ對シ、軍部ノ名ヲ以テ全國ノ新聞紙ニ、當コソリヲ言ウテ卑怯千萬ダト云フ記事ヲ出サレテ居ル、又委員長ハ此委員會ノ經過竝ニ委員會ニ於ケル實情ヲ、其儘ニ御報告申上ゲルコトガ責任ナリト考ヘテ居リマス（ヒヤ／＼）之ヲ明瞭ニ此席ニ於テ御報告申上ゲルコトガ何ガ卑怯ナノデアリマセウカ（拍手）若シ之ニ誤リガアルナラバ、堂々ト此壇上ニ立ッテ之ヲ攻撃サレナケレバナラヌ（拍手）茲ニ一言ノ發言モナサラズシテ、翌日ニナッテ、新聞紙ヲ以テ卑怯千萬デアルト云フ蔭口ヲ叩カレルト云フコトハ、何タル事デアアルカ（拍手）若シ本日述べマシタ私ノ報告ニ誤リガアルナラバ、此壇上ニ於テ御正シテ願ヒタイ、委員長ハ出來得ル限り豫算ノ審議ヲ滑カニ進メタイト云フノデ、最善ノ努力ヲシテ積リデゴザイマス、然ルニ此問題ハ滿洲國國防費分擔金ト云フ、此金ヲ受入レルノハ適當ノ費目ガアルデアラウ、斯様ナ名前ノ費目ノ金ヲ入レルト云フコトハ、陛下ノ軍人ヲ恰モ傭兵ノ如ク誤解サレル危險ガアルト云フ意味ヲ、簡單ニ御報告ヲ申上ゲテ、政府ノ反省ヲ促シタ積リデアッタ（拍手）之ヲ細カク申上ゲレバ國交ノ上ニモ、軍機ノ上ニモ、重大ノ關係ガアルト云フコトヲ考ヘマシタガ故ニ、極メテ簡單ナ言葉ヲ以テ政府ノ反省ヲ促ス意味ノ一言ヲ附加ヘタ、是ハ議場ニ於ケル光景ヲ其儘御報告申上ゲタ、此内容ニ深く立入ッテ論議ヲ重ネマスナラバ、是ハ陛下ノ軍人——滿洲國ニ出テ居リマス此寒氣ト闘ヒ、窮乏ト闘ヒツ、アル陛下ノ軍人ヲ、恰モ傭兵ノ如ク誤解サレル危險ガアルト云フコトハ、帝國軍人ノ爲ニ取ラザ

ル所デアルト云フ老婆心デアルト云フコトヲ御諒承願ヒタイ（拍手）委員長ハ此意味ニ於キマシテ御報告申上ゲタノデアアル、私ラシテ言ハシムルナラバ、誤マレルモノナラバ、此壇上ニテ直チニ堂々ト反駁ヲ加ヘラレ——政府ハ何時デモ發言ノ機會ガアルノデアリマスカラ、此處ニ出テ反駁サレルノガ當然デナケレバナラス、ソレヲ翌日ニナッテ新聞紙ニ斯様ナ報道ヲ爲サルト云フコトハ、是レ位卑怯未練ノヤリ方ハナイト私ハ信ズルノデアリマス（拍手）甚ダ貴重ナル時間ヲ委員長ノ報告ニ附加ヘマシタコトヲ恐縮ニ存ジマスガ、此點一言附加ヘマシテ、委員會ハ此九年度豫算ニ付テ全部賛成ト云フコトデ、滿場一致決議致シマシタカラ、茲ニ之ヲ御報告申上ゲマス（拍手）

○議長（濱田國松君） 別ニ質疑竝ニ討論ノ通告ハアリマセヌ、直チニ採決ニ入りマス、第一號、昭和九年度歳入歳出總豫算追加案、特第一號、昭和九年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、右兩案ノ委員長報告ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

〔議員起立〕
○議長（濱田國松君） 起立總員（拍手）兩案ハ何レモ委員長報告通り可決サレマシタ——日程第三乃至第七ハ、關聯セル議案デアリマスルカラ、一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長（濱田國松君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第三、關稅定率法中改正法律案、日程第四、大正十三年法律第二十四號中改正法律案、日程第五、昭和七年法律第

四號中改正法律案、日程第六、關稅法中改正法律案、日程第七、鐵ノ輸入稅ニ關スル法律案、以上五案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——高橋大藏大臣

第三 關稅定率法中改正法律案（政府提出）
第一讀會

第四 大正十三年法律第二十四號中改正法律案（贅澤品等ノ輸入稅ニ關スル件）（政府提出）
第一讀會

第五 昭和七年法律第四號中改正法律案（輸入稅ノ從量稅率ニ關スル件）（政府提出）
第一讀會

一三二〇 人造麝香
一 ムスクキシロール
二 其ノ他

第二百九十九號第四項ヲ削リ第五項ヲ第四項トシ第六項ヲ第五項トス
第四百十二號ヲ左ノ如ク改ム

四一二 貴石
一 機械用又ハ工業用ニ供スル爲形ツクリタルモノ
二 其ノ他

第四百六十三號ノ二中「マグネシウム」ヲ「マグネシウム及マグネシウム合金」ニ改ム
第六百二十號ヲ左ノ如ク改ム

六二〇 白金、ヴァナヂウム又ハ其ノ化合物ヲ含ム觸媒
第六百三十一號ヲ左ノ如ク改ム

六三一 ヴァルカナイズドファイバー（竿、板及管ノ類）
每百斤 一二六・〇〇

第六 關稅法中改正法律案（政府提出）
第一讀會
第七 鐵ノ輸入稅ニ關スル法律案（政府提出）
第一讀會

關稅定率法中改正法律案
關稅定率法中左ノ通改正ス

第九條第二項中「茶鉛、」ヲ「機械用若ハ工業用ニ供スル爲形ツクリタル貴石、茶鉛、」ニ改ム

別表輸入稅表中左ノ如ク改ム
第二百二十號ヲ左ノ如ク改ム

每百斤 一二五・〇〇
從價 三割五分

從價 五分
從價 一割

從價 五分
從價 一割

無稅

每百斤 一二六・〇〇

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年法律第二十四號中改正法律案

大正十三年法律第二十四號中左ノ通改正ス

第二項中「貴石若ハ」ヲ削ル

別表輸入稅表番號第六十六號ノ項ヲ左ノ如ク改ム

六六 別號ニ掲ケサル酒類（燒酎類ヲ除ク）

同第四百十二號ノ項ヲ削ル

同第六百十二號ノ項一ヲ左ノ如ク改ム

一 單ニ切り、挽キ又ハ割リタルモノ
甲ノ二 鐵刀木、紅木、紫檀及黑檀（縞黑檀ヲ除ク）

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第四號中改正法律案
昭和七年法律第四號中左ノ通改正ス

別表輸入稅表番號第七十六號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

二二〇 人造麝香

一 ムスクキシロール

同第四百六十三號ノ二ノ項ヲ左ノ如ク改ム

同第四百六十三號ノ二ノ項ヲ左ノ如ク改ム

四六三ノ二 マグネシウム及マグネシウム合金

同第六百十二號ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

六三一 ヴァルカナイズドファイバー（竿、板及管ノ類）

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

關稅法中改正法律案

關稅法中左ノ通改正ス

第七十五條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ犯罪ニ係ル貨物カ關稅定率法別表輸入稅表第四百十二號第二項ニ掲クル貴石ナルトキハ罰金又ハ科料ハ其ノ原價ノ三倍ニ相當スル金額トス

第七十五條ノ二ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ犯罪ニ係ル貨物カ前條但書ニ掲クル貴石ナルトキハ罰金ハ五千圓以下トシ其ノ原價カ五千圓ヲ超ユルトキハ原價ニ相當スル金額以下トス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

鐵ノ輸入稅ニ關スル法律案

關稅定率法別表輸入稅表第四百六十二號ニ掲グル物品ニシテ本法別表ニ掲グルモノノ輸入稅ハ本法施行ノ日ヨリ昭和十二年三月三十一日迄同輸入稅表ニ依ラズ本法別表ニ依ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ヲ施行スル期間ハ政府特ニ必要アリト認ムルトキハ勅令ニ依リ之ヲ短縮スルコトヲ得

(別表)

鐵(別號ニ掲ゲタル特殊鋼ヲ除ク)

品名	單位	稅率
一 塊及錠	每百斤	〇・一八
甲 鉄鐵	每百斤	〇・三四
丙ノ一 シートバー(ティンバーヲ含ム)	從價	七分五厘
丙ノ二 其ノ他	每百斤	〇・七四
二 條及竿(テ-形、アングル形等ノ形狀ヲ有スルモノヲ含ム)	每百斤	〇・六四
三 レール(フィッシュプレートヲ含ム)	每百斤	〇・六五
四 ワイヤロッド(卷キタルモノ)	每百斤	〇・六五
五 板		
甲 金屬ヲ鍍セザルモノ		
甲ノ一 厚〇・七ミリメートルヲ超エザルモノ	每百斤	一・三二
ロ 其ノ他	每百斤	〇・九五
甲ノ二 厚三ミリメートルヲ超エザルモノ	每百斤	〇・七四
甲ノ三 其ノ他	每百斤	〇・七四
十三 筒及管(別號ニ掲ゲザルモノ)		
甲 金屬ヲ鍍セザルモノ		
甲ノ二 其ノ他		
ロノ一 内徑百五十ミリメートルヲ超エザルモノ	從價	九分
ロノ二 其ノ他	從價	七分五厘

備考 從量稅率ノ單位ハ圓トス

(國務大臣高橋是清君登壇)

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリマシタ關稅定率法中改正法律案外四件ヲ一括シテ、今回ノ關稅改正ノ趣旨ヲ説明致シマス、鐵ノ關稅ハ昭和七年ニ於キマシテ其稅率ノ引上ヲ行ツタノデアリマス、其後我國ノ製鐵業ハ順調ヲ發達ヲ遂ゲテ參ツタノデ

アリマスガ、最近鐵ノ需要ガ急激ニ増加致シマシテ、鉄鐵ニ付テハ我國ノ生産額ヲ以テ致シテハ、到底之ニ應ズルコトガ出來マセヌ、又鋼材ニ付キマシテモ十分ニハ參ラヌト云フ狀態ニ相成ツテ來マシテ、而モ又之ニ伴ヒ價格モ一般的ニ騰貴致シタノデアリマス、ソレデ當面ノ處置ト致シテハ、鉄錢

及重要ナ鋼材ノ稅率ヲ低減シ、以テ供給ノ圓滑ヲ圖ルト共ニ、市價ノ適當ナル調節ヲ行フ必要ガアルト思ハレマス、而シテ稅率引下ノ程度ニ付キマシテハ、現在ノ關稅ヲ全廢スルト云フヤウナ急激ナ方法ハ避ケマシテ、先ヅ之ヲ一律ニ半減スルト云フコトガ適當デアルト考ヘマス、尙ホ右ノ關稅引下ハ、一時的ノ處置トシテ行フノデアリマシテ、我國ニ於ケル生産設備ノ擴張計畫モアリマスカラシテ、其期間ハ大體二年間ヲ最長限度トスルノガ妥當デアルト認メタ次第デアリマス、貴石ニ付キマシテハ、現在從價十割ノ關稅ヲ課シテ居ルノデアリマスガ、何分ニモ容積極メテ小ニシテ、價格甚ダ高價ナル品物デアリマス、サウ云フ關係上、稅率ヲ從價一割ニ引下ゲマス同時ニ、

密輸入等ノ犯則者ニ對スル罰則ヲ重クスルコトニ致シタノデアリマス、其他人造麝香等數品ニ付キマシテモ、此際適當ニ稅率ヲ改正セントスル考デアリマス、政府ハ關稅率ノ點ニ關シマシテハ、曩ニ關稅調查委員會ニ諮問致シマシタノデアリマシテ、其答申ニ基キマシテ各法律案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、尙ホ詳細ナル點ニ關シマシテハ、適當ナル機會ニ於テ御説明ヲ致ス考ヘデアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御協贊ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマス、通告順ニ從ヒ順次之ヲ許シマス――陸山貞吉君

陸山貞吉君登壇

○陸山貞吉君 私ハ只今上程セラレマシタル關稅ニ關スル法律案中、特ニ鐵ノ輸入稅ニ關聯致シマシテ、製鐵國策ノ根本方針ノ二三ニ付テ、總理大臣、商工大臣、陸海軍大

臣、大藏大臣、其他關係ノ諸大臣ニ質疑ヲ試ミタイノデアリマス 製鐵國策ノ重要ナルコトハ申ス迄モアリマセヌ、鐵鋼ガ産業ノ進展ト、國防ノ整備充實ニ必須ナル材料ト云フコトハ、申ス迄モナイコトデアリマシテ、是ガ需要供給ノ圓滑ヲ圖ルコトハ、一日モ忽セニスベカラザルコトデアリマス、然ルニ最近ノ鐵鋼ノ需要供給ノ増加ハ洵ニ急激デアリマシテ、金額ニ致シマス、既ニ四億圓ヲ突破スルト云フ狀況ニ在ル、從來政府ガ執リ來ツタ所ノ鐵鋼ノ自給策ハ、洵ニ現在ハ行詰リノ狀態ニナツテ居ル、今日此鐵ノ輸入稅ニ關スル單行法ヲ發布セラレタト云フコトハ、洵ニ政府ノ從來ノヤリ方ガ惡カッタガ爲ニ、斯様ナ暫定的ノ法案ヲ出サナケレバナラヌト云フコトニナツタ、即チ其原因ハ種々アリマシガ、第六十二議會ニ於テ製鐵國策、製鐵ノ合同國策ヲ定メラレマシタガ、中途半端デアアル、又其指導機關即チ日本製鐵會社、或ハ傍系會社タル所ノ鉄鐵共販會社、其監督ガ惡カッタ、殊ニ其監督ノ方ハ共販會社ニ任サレタヤウナ形デアリマシテ、過度ノ統制ヲ行ツタ反面、前途ノ見越ガ非常ニ惡カッタ、是ハ明ニ政府ノ執リタル方針ガ誤リデアルト云フコトヲ證明スルノデアリマス、當時ノ政府ノ執リタル方針ハドウデアツカト云フト、中島商工大臣ハ第六十二議會ニ於テドウ云フコトヲ申サレタカト云フト、鉄鐵ノ市價ハ現在二十二圓乃至二十五圓デアアル、之ニ六圓ノ關稅ヲ掛ケナイト、製鐵業者ヲ保護スルコトガ出來ナイ、市價ガ上ツテモ先ヅ二圓程度デアアル、又中小工業ニモ影響セヌ、又需要ガ増加スルケレドモ、ソレモ十五萬噸位ダラウ、斯ウ云フ風ニ仰セラレ

タノデアリマルガ、銑鐵ノ二十五圓ノ市價ガ、現在ニ於テハ四十五圓近クニナリ、商工大臣ノ言明ノ十倍ニナツタ、又十五萬噸位ノ需要ト云フ豫想ガ七、八十万噸ニナツタ、是ハ明ニ政府當局ガ如何ニモ無定見デアッタト云フコトヲ想像スルニ餘リアルノデアリマス、本年ノ銑鐵ノ飢饉状態ヲ茲ニ簡單ニ申上ゲマスト、一月渡ノモノガ、二月ニ入ルモ手ニ入ラナイ、建値ヲ喧マシク申シテモ、ソレガ定マラナイ、政府モ非常ニ努力ヲサレタケレドモ、一箇月有餘掛ッテ、漸クニシテ其建値ガ決ツタ、當時新聞紙ニモ書イテアリマシタガ、銑鐵ノ値上問題ハ全ク宙ニ迷フ、或ハ又商工當局ハ首鼠兩端ヲ持シテ居ル、銑鐵ハ關稅ノ引下ヲ大藏省デ否定ラシテ居ル、斯ウ云フ風ニシテ、銑鐵ノ値下問題ニ關シマシテハ、非常ニ紛糾ラシテ居ッタト云フコトヲ茲ニ證明出來ルノデアリマス、ソレガ爲ニ民間ノ中小工業者ハ非常ニ困リマシタ、小サナル鑄物屋或ハ機械屋、斯ウ云フモノハ原料ガ無イ、三日ノ原料モ無イ、斯ウ云フ状態デアリマシテ、名古屋市ノ機械商ノ如キハ、海外ニ輸出スル小機ノ原料ガ無イ、或ハ金澤市ノ如キハ銑鐵ノ材料ガ驛ニ著クト、號外ヲ發行スルト云フヤウナ、非常ナル飢饉状態デアッタノデアリマス、是ハ中小工業ヲ指導スル上ニ於テ、由々シキ重大ナル問題デアリマス、私ハ此重大ナル銑鐵飢饉ニ關シマシテ、總理大臣ハ能ク其認識ラシテ貰ヒタイ、又商工大臣、大藏大臣ハ、特ニ此點ヲ反省シテ戴キタイノデアリマス

次ニ政府ガ怠慢ト認ムベキ件ガアリマス、ソレハ此銑鐵飢饉ヲ招來シテ居ル今日ニ於キマシテ、政府ニ銑鐵ヲ造ルベキ願ヲ

出シテ居ル、例ヘバ日鐵ノ方ガ千噸熔礦爐ノ新設ノ願ヲ出シテ居ルニ拘ラズ、昨年八月カラ今日ニ至ル迄、半年ノ間商工當局ハジツト握ッテ居ル、大藏省ノ方モ亦調査ニ時日ヲ費シ、中々許可シナイ、漸ク此鐵ノ輸入關稅ニ關スル法律案ガ日程ニ上ツタ五日ノ日ニ、許可シタト云フコトガ、書イテアリマシタガ、果シテサウデアアルカドウカ、斯ウ云フヤウナ銑鐵ノ非常ナル飢饉デアアル此際ニ、一日モ早ク之ヲ許サナイト云フコトハイケナイ、熔礦爐ヲ許シタ所ガ直グ出來ルモノデナイ、斯様ナコトヲ十分ニ認識シテ居ラヌト云フコトハ、是ハ商工當局及大藏省ノ方面ニ於キマシテモ、十分ニ注意シナケレバナラヌコトデアリマス、斯様ナ状態デアリマシテ、今日銑鐵ノ不足ト云フモノハ七、八十万噸デアアル、又豫備ノ若干ヲ加ヘルト云フト、百萬噸ニモ近い、果シテ本年ノ需要ガ、商工當局ハ之ヲ幾ラデアルト見積ッテ居ラレルカ、或ハ又此躍進日本ノ今日ノ状態カラ考ヘルト云フト、國防ノ充實ノミナラズ、産業ノ發展ニ伴ウテ、幾ラ程ノ鐵ガ要ルト云フ算定セラレテ居ルカ、之ニ鑑ミマシテ政府ハ製鐵増産計畫ノ所見ハドウデアアルカ、殊ニ熔鑄爐ヲ新設スル計畫ガアルト聞イテ居リマスガ、逐次許サレルヤウナ形デアリマスガ、ドウ云フ風ナ順序ヲ以テ此増産計畫ヲスルカ

又一律ニ銑材迄全部引下ゲタノハ如何ナル

理由デアアルカ、是ハ特ニ大藏大臣ニ御伺スルノデアリマス、又大藏省ハ銑鐵及鋼材ノ關稅收入見積ヲ幾ラニ見積ッテ居ルカ、續イテ關稅ノ引下後ノ市價ノ調査デアリマス、政府ガ關稅ヲ引下ゲテ、而シテ其市價ハ幾ラヲ適當ト考ヘテ居ルカ、實際ニ於テ日鐵ノ生産原價ト云フモノハ三十三、四圓程度ト伺ッテ居ル、諸種ノ費用ヲ入レマシテモ、相當ノ安價ヲ供給シ得ルト思フ、此點ヲ商工當局ハ餘程能ク留意サレヌト云フト、幾ラ關稅ヲ引下ゲテモ亦飛上ルノデアアル、殊ニ今回ハ勅令ヲ以テ適當ナ時期ニ引下ゲルト云フノデアリマスガ、是ハ生産業者又需要者ノ間ニ於キマシテ、非常ニ重大ナル問題デアリマスカラ、其時期ハ中小工業及一般消費者ノ關係ヲ十分ニ考慮シテ貰ヒタイ

テ實施サレルト、直グニ印度銑鐵ノ輸入防

退ノ目的デヤラレタ此關稅ノ引下、所ガ此引下デ市價ガ騰ガルト云フト、ソレヲ好イコトニ致シマシテ、其市價デ矢張其自分ノ有ッテ居ル品物ノ價格ヲ上ゲテ居ル、印度銑鐵ト妥協シテ、十萬噸バカリノ輸入ノ特約ヲ毎年行フヤウニシテ居ル、斯様ニ致シマシテ、洵ニ不合理ナル暴利ヲ貪リツ、アルト云フコトハ、今日ハ業界ニ明カデアリマス、殊ニ此特殊會社ハ、大資本ヲ擁シテ居ル會社デアリマスガ、斯ウ云フコトハ資本家ノ横暴ト云フ譏リヲ免レ得ナイノデアリマス、是ハ商工當局ノ監督宜シキヲ得ナカッタト云フコトニナリマス、又共販會社ガ横暴デアルト云フ實例ヲ示シマス、ト云フト、需要者ニ對シマシテ使用量ヲ非常ニ制限スル、又販賣ヲ三箇月ニ限定スル、或ハ古鐵ノ輸入ヲスルト云フヤウナ者ニハ中渡サナイ、又中間ニ販賣機關ガアル、其販賣機關ヲ通スノデアアルカラ、其販賣開屋ト云フモノガ、又非常ニ各方面ニ横暴ヲ働ク、斯ウ云フヤウナ状態デアリマス、此監督ニ付テハ、政府ハ十分ニ承知シテ居ルカ、斯ウ云フヤウナ状態デアリマスカラ、今後日本製鐵ノ國家的運用ハドウスルカ、國策上鋼材其他鐵鋼業者ノ、此根本材料タル所ノ銑鐵ノ供給ヲ中心トシテ、サウシテ需要供給ヲ圓滑ニヤラセル方法ガナイカ

二月ニナルト提案スルト言ハレテ居ル、

案が出來ナイト云フヤウナコトヲ言ウテ居
ラレル、製鐵國策が再ビ立直ルト云フコト
ハ、商工大臣が一個ノ考デ仰シヤルコトハ、
非常ニ重大ナ問題デア、大藏省ニモ關係
ガアル、國家全般ニ關係ガアル重大ナ問題
デアリマス、此獎勵法ハ臨時利得稅、其他
今回ノ關稅ノ引下、色々ナコトニ關係ガア
ルノデアリマス、此種々ナル言明ヲナ
サルコトハ、大ニ不安ヲ増ス所以デア、
ダカラ商工大臣ハ此際明瞭ニ、明年改メ
ナラ改メ、斯ウ云フ風ニ、アツサリシタ
聲明ヲサレタラドウデア、

又製鐵合同問題、此合同問題ヲ持續スル
カセヌカ、此問題モ非常ニ重大ナ問題デア
リマス、只今ノ製鐵業者ハ、此合同ニハ五
〇乃至五五%シカ加ハツテ居ラスノデア
カラ、後ノ殘リヲドウスルノカ、何時ノ時
期ニドウ云フヤウニヤルノカト云フコトヲ、
此處デ明ニ申述ベテ戴キタイノデアリマス
次ニ國防上ニ於ケル鐵鋼ノ自給自足ノ問
題デアリマス、鐵鋼或ハ石炭、或ハ屑鐵、
斯ウ云フモノハ有事ノ際ニ非常ニ必要ナ
ノデアリマス、勿論現在ノ日本製鐵或ハ昭
和製鐵ハ、重要ナル任務ニ服スルノデア
マセウガ、又商工大臣ト致シマシテハ色々
ナ方寸モアリマセウガ、陸海軍大臣トシテ
國防上、此有事ノ際鐵鋼ノ自給自足ノ問題
ヲ如何ニ考ヘルカ、又平時ニ於ケル鐵鋼ノ
使用量ヲドウ云フヤウニシテ居ルカ、
今後數年間ハ勿論、此以前ノ數年間ノ
使用量ハ如何デア、又陸軍大臣ハ
在滿事務局長ト致シマシテ、滿洲ニ於ケ
ル鐵ノ製造高、此所謂生産高ハ現在ハドレ
位カ、將來ハドレ位ノ見込デア、殊ニ
滿洲國ト致シテ鐵道ヲ敷ク、或ハ軍備ヲス

ル、ソレニ相當要リマス、其殘リヲコチラ
ニ廻スト致シマシテモ、其關係ハドウナル
カ、又鐵道大臣、逕信大臣ニ於キマシテハ、
此鐵道船舶ニ非常ニ多量ノ鐵ガ要リマス、
之ニ對シ平時戰時ニ於テ、其用意ハドウ云
フヤウニシタラ宜イカ、拓務大臣ニ特ニ御
伺シマスガ、拓務省ノ所管内ニ於テ、鐵鋼
自給上ニ於テ貢獻シ得ル程度ハ如何、殊ニ
朝鮮ノ茂山ニ鐵礦ガアルト云フコトヲ聞イ
テ居ル、殊ニ昭和製鐵所ヲ設ケル際ニ、新
義州ニ設ケルトカ、或ハ又滿洲ニ持ッテ行
トカ、色々議論ガアツタト云フコトニ依ッテ、
其間ノ消息ヲ明ニシ得ルト私ハ思フノデア
リマスガ、此點如何デアリマセウカ、外務
大臣ニ御伺シタイノハ、帝國ノ鐵鋼ニ乏シ
キコトハ申ス迄モアリマセ、外務大臣ハ
外交上ニ付テハ非常ニ御熱心デアリマス
ガ、併シ此鐵ノ問題ニ付テ、海外ノ鐵ヲ利
用スル、資源ヲ利用スルト云フ方針ニ付テ
ハ、如何ナル考ヲ有ッテ居ラレルカ、只今殊
ニ中華民國、或ハ滿洲ニ向ッテ、或ハ露西亞
ノ鐵、或ハ南洋ノ鐵、濠洲ノ鐵ト云フヤウ
ニ、隨分各方面ニアリマス、其資源ノ程
度ハ如何デア、又之ヲ利用シ得ル方法
ハドウシタラ宜イカ、殊ニ有事ノ際ノ外交
關係ト取引ノ關係ハドウナツテ居ルカ、最近
ニ於キマシテハ印度ニ向ッテ四十二萬噸ノ
鉄鐵輸入ノ豫約ヲシテ居ル、或ハ露西亞ニ
對シテ二十一萬噸、濠洲ニ一萬噸ノ豫約ヲ
シテ居ルト云フコトヲ、共販會社ハ聲明シ
テ居リマス、斯ウ云フヤウナ問題ハ
ドウナルカ、又製鐵品ノ輸出獎勵ニ關スル
外務省ノ方針ハドウデアリマスカ、要スル
ニ製鐵國策ハ産業ノ進展ト國防ノ充實上頗
ル重要ナルモノデアリマス、然ルニ單ニ商

工大臣或ハ大藏大臣ト云フヤウナ、一二ノ
閣僚ニノミ之ヲ任セテ、從來抛擲シテアツ
ト云フコトハ、重大ナル過失デアリマス、
總理大臣ハ斯様ナ問題ヲ十分ニ認識ラシ
テ、サウシテ内閣ノ統一ヲ圖リ、各閣僚モ
能ク鐵鋼國策ニ付キマシテ十分ナル考慮ヲ
拂ッテ、今迄ノヤウニ鐵鋼國策ガ宙ニラ
浮クヤウナコトノナイヤウニシテ貫ヒタ
イ、此點ニ付テ總理大臣ノ明瞭ナル御答辯
ヲ伺ヒタイノデアリマス、之ヲ以テ第一ノ
質問ヲ終リマス

〔國務大臣町田忠治君登壇〕
○國務大臣(町田忠治君) 蔭山君ノ我國ノ
鐵ノ國策ニ對スル各方面ニ互ッテ御質問ガ
アリマシタ、御尋ノ事柄ハ、何レモ我國目下
ノ鐵國策ノ根本ニ觸レタ重大ナ問題ト思ヒ
マス、蔭山君ノ御尋ハ多方面ニ互ッテ
リ商工省ノ關係シテ居ル方面ヲ申上ゲテ、
或ハ更ニ大藏大臣其他ヨリ御答スルコト、
致シマス、蔭山君ノ御尋ハ多方面ニ互ッテ
居リマシタノデ、順ヲ逐ウテ一々申上ゲ
方ガ宜カラウカ、或ハ大體ノ考ノ中ニ申上
ゲテ御諒解ヲ得テ方ガ宜カラウカト、實ハ
考ヘテ居リマシタガ、便宜上我國ノ鐵國策
ノ根本ニ對スル御尋ヲ主ナルモノトシテ是
ヨリ申上ゲマス、鐵國策ハ二年前皆サンノ
御協賛ニ依ッテ製鐵合同法律ガ出來テ居
ルデアリマス、此目的ハ私カラ今更申上
ル迄モナク、經營ヲ單純ニシ、組織ヲ改良
シテ、出來ルタケ豊富ニ、最モ安イ値ヲ供給
スルト云フ事柄ガ、御協賛ノ趣意デアツ
ウニ思ヒマス、爾來其合同ノ實行ニ取掛リ
マシテ、昨年ノ初ニ日本製鐵合同會社ガ出
來タノデアリマスガ、當初提案シタル當局
者ガ豫期シタル如ク、十一會社全部合同ニ

至ラスシテ、現在ハ六社ガ合同シテ、現在
ノ日本製鐵會社ガ出來テ居ルノデアリマス、
之ニ對シテ蔭山君ノ御尋ノ御心持ニモアツ
タヤウデアリ、世ノ中デモ或ハ私ノ公開ノ
席デ申述ベタコトヲ、相當強ク解釋セラレ
テ、茲ニ多少ノ惑ヲ生ジテ居ルヤウニ見
ルノハ、蔭山君ガ御指摘ノ如ク遺憾デア
リマス、私ハ製鐵大合同ノ方針ニハ、今ノ法
律ノ現存シテ居ル限り、之ヲ追ウテ行ク考
デアリマス、同時ニ當初十一會社ヲ全部合
同スルト云フ、其大方針ノ實現ガ、今日ノ
經濟界ニ於テ直チニ之ヲ現ハスコトハ容易
デハナイ、或ハ當局者ガ此間ニ何等カノ工
作ヲ加ヘテ、所謂「アウトサイダー」ヲ無理
ヤリニ合同セシムルト云フ考ハ、私ハ有ッ
テ居ラス、今ノ合同法ハ、國家ノ力ヲ以テ強
制的ニ合同セシムルト云フ趣意デハナイト
解釋シテ居ル、故ニ將來ノ經濟界ノ變遷ニ
依ッテ、更ニ是ガ一層合同スルト云フ氣運ガ
來タ時ニハ、是ハ合同スルノガ當然デア
ルガ、併シ無理手段ヲ以テ、或ハ事務的ニ之
ヲ強テ合同サセルト云フ考ハ、私ハ有ッテ居
ラスト同時ニ、經營ヲ單純ニシ、組織ヲ改良
シテ、低廉ナル價格ニ依ッテ豊富ニ供給ス
ト云フ、此方針ニハ何等私ハ異ツク考ヲ有
テ居ラス、斯様ナ趣意デアルト云フコトヲ
申述ベテ置キマス、私ノ考ハ時々世間ニハ
誤解サレテ居ルヤウデアリマスカ、此處
デ蔭山君其他諸君ノ御了解ヲ得テ置キマ
ス、蔭山君ノ御話ノ如ク、昨年ノ春出來
シタ製鐵合同法ニ依リマス、日本ノ鐵ノ供
給ガ豊富ニシテ且ツ低廉ニ參ルト云フ趣意
ニ出來テ居ルノハ、今日ノ事情ハ左様ニ參
テ居ラスデハナイカ、是ハ當局者ガ處置ヲ
怠リ、若クハ處置ヲ誤リ、若クハ又其處置

ヲ執ルコトヲ躊躇シ、又ハ遲延シテ居ル結果アルト云フ御非難デアリマス、此事ニ對シテハ、現レタル事實カラ申シマス、當局者モ相當責任ヲ負ハナケレバナラヌカトモ思ヒマス、併シ實際ノ事情カラ考ヘマスト、一昨年ニ於キマシテ民間ノ意見ヲ問ヒ、當局者ガ立テマシタ鐵ノ——假ニ鉄鐵ヲ以テ申シマスレバ、當時ノ事情ニ依テ推測シテ立テマシタ鉄鐵ノ需要ハ、一般經濟界ノ好景氣、竝ニ軍需品ノ需要増加等ニ依リマシテ、當初立テマシタヨリ三十萬噸以外ニモ殖エテ居ツタ、一昨年ノ暮ニ於テ推算致シマシタ鉄鐵ノ分量ガ、凡ソ是ダケノ手當デ宜カラウト、年ノ初メニ考ヘテ居タコトガ、經濟界ノ好轉ノ結果、色々ナ方面デ鉄鐵ノ需要ガ殖エタガ爲ニ、當初ノ豫定カラ見レバ五十萬噸殖エテ、是ガ爲メ此手當ヲスルコトニ相當困難ヲシタ、之ヲ當局者竝ニ當局者ト協議ヲシテ居ル民間ノ協會、其他共販會社、製鐵會社等ガ見込ヲ違ヘタ、其責任ガアルト仰セラレ、バ、私ハ之ヲ強テ避ケルトハ申シマセヌ、併シ實際經濟界ニ於テ需要スル分量ハ、豫メ是レ位ト想像シタ所ガ、意外ニ多カッタ爲ニ、手違ヲ生ジタト云フノハ事實デアリマス、唯此手違ガ生ジタ原因ハ、經濟界好轉ノ結果デアルト云フコトニ考ヲ置キマス、私共ノ前任者ガ左様ナ計畫ヲ立テ、私ガ之ヲ襲テ責任ヲ負ツテ居ル立場カラ見レバ、其責任ノ御咎メヲ蒙ルコトハ甘ンジテ受ケマスガ、スル需要ノ増加ヲ來シタ經濟界好轉ノ點カラ見レバ、私ハ喜ンデ其責任ヲ受ケテ然ルベキデアルト、斯様ナ考モ致スノデアリマス、ソコデ御尋ハ澤山アリマシタガ、斯様ナ好轉ヲシテ、鐵ノ需要ガ増シテ居ル

ニ拘ラズ、増産計畫ヲ意ツテ居ルト云フヤウナ御咎デアリマス、是モ指導監督ノ責任ニアル私ノ立場トシテハ相濟マスコトデアラガ、結果カラ見マスレバ、指導監督獎勵ノ責任ヲ意ツタト御咎ヲ下サツテモ已ムヲ得マセヌ、併シ前申シマス次第デ、此増加ノ趨勢ガ豫期以上デアッタ爲ニ、斯様ニナツタノデアリマスガ、現ニ日本製鐵會社ニ千噸ノ認可ヲ先日致シマシタノハ、何カ愈、鐵ノ需要ガ増加シテ、供給ガ之ニ伴ハナカッタ結果、已ムヲ得ズ今日之ヲヤッタヤウニ、或ハ御認メデアルカモ知レマセヌガ、此計畫ハ昨年來現レタ計畫デ、事務當局ハ技術上ニ於キマシテモ慎重ニ考慮シテ、先日之ヲ許シタノデアリマス、併シ之ヲ許ス前ニ、既ニ日本製鐵會社ハ、大抵許可ニ相成ルモノトノ考ノ下ニ、準備ヲ怠ラズヤツテ居リマスガ故ニ、此許可ガアツテ初メ増産計畫ノ準備ニ著手スルト云フ譯デナク、凡ソ其準備ハ今日出來テ居ルコト、思ヒマス、又「アウトサイダー」ニ於テモ相當澤山ノ計畫ガアリマス、之ニ對シテ一言申添エルコトノ御許ヲ願ヒタイノハ、「アウトサイダー」ガ恐クハ一昨年頃カラデアリマセウ、相當大キナ某會社ガ熔礦爐ヲ作ツテ、鉄鐵カラ鋼材ヲ造ルマデノ一貫作業ヲスル計畫ヲ、商工省ニ申請サレテ居ツタガ、種々ナル技術的關係カラ、其調査ニ吸取リマシタ點モアリマセウガ、私ガ就任致シ、三代ノ大臣ニ此問題ガ懸ツテ居ツタ程ニ、相當長イ時間ヲ要シタノデアリマス、若シ製鐵合同ト云フ當初ノ考カラ言ヘバ、或ハ之ヲ許サズシテ、合同シタ後ニ増産計畫ヲスルノモ一ツノ方法デアリマセウ、併シ私ハ製鐵合同ハ結構デアラガ、國家ガ強テ無理ニ之ヲ合同セシメルト云フ態度ハ面

白クナイ、又諸君ガ製鐵合同法ニ賛成サレタ趣意ハ、國家ノ力ニ依ツテ強制的ニ合同サセルト云フ御趣意デハナカッタノデアリマス、故ニ經濟界ノ趨勢ニ依ツテ、他日適當ナ時ニハ合同スル機會ガマダアラウ、併シ各會社ガ經濟界ノ好景氣ニ際シテ、營業ガ盛ンニ行ハレテ、自ラ増産計畫ヲヤルト云フノデ、基礎鞏固ナル計畫ノ下ニ、技術的ニモ遺憾ナイト云フコトデアラナラバ、之ヲ許スガ宜カラウト云フノガ私ノ考方デアリマス、之ヲ許シタガ爲ニ、或者ハ現商工大臣ハ製鐵合同ノ方針ヲ變ヘタト非難スルノデアリマス、批評ハ勝手デアリマスガ、私ハ方針ハ變ヘマセヌ、變ヘナイト同時ニ、當初ノ目的ハ一社全部ヲ合同サセル趣意デアツタノガ、經濟界ノ變化ニ依ツテ、其合同ガ力ニ依ルニ非ザレバ、行ハレスト云フ時ニ、政府ガ、其力ナイモノガ、無理ニ力ヲ以テヤルトスレバ、茲ニ無理ガ生ジマス、其無理ハ私ハ避ケル、斯ウ云フ考方デ今日モ進ミツ、アルノデアリマス、蔭山君モドウノ其趣意ヲ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、又私ノ此考ニ對シテ、當初此法律ニ御贊同セラレタ諸君ニシテ、私ノ考方ガ違テ居ルト云フコトナラバ、此席デモ、亦議會ガ終ツテカラデモ、御厚情ヲ以テ御高見ヲ承ルコトヲ切望シテ置キマス、又當年ハドンナ按排ニ増産計畫ガ成立ツテ居ルカト云フコトニ對シマシテハ、或ハ詳細ニ委員會デ申上ゲマスガ、大體今日ノ所デハ、十年度ノ所要見込ハ鉄鐵ガ三百萬噸、其中輸入ハ六十萬噸ト云フ見込ヲ以テ其手當ヲ致シテ居リマス、鋼材ノ方ハ三百九十萬噸デ、此中輸入ハ四十五萬噸、斯ウ云フ推測ノ下ニ手當ヲシツ、アルノデアリマス

次ニ此法案ノ實體ニ係リマス鉄鐵ノ關稅引下五割、鋼材モ亦均シク五割、此點ハ新聞等ヲ拜見致シマシテモ、相當御意見ノアル方ガ多イヤウニ承ツテ居リマスガ故ニ、私共ハ出來ルナラバ委員會ニ於テ、私共ガ立テマシタ鉄鐵五割ト鋼材五割ト此點ニ對シテ、御諒解ヲ得ルコトニ努メマスルガ、此席ニ於テ一言申上ゲタガ御便利ト考ヘマスノハ、鉄鐵五割ニ對シテ鋼材ノ五割ト云フノハ、同ジ率ニ引下ゲタイト云フ、率ハ基礎ヲ置イテ鋼材ヲ五割ニ下ゲタノデハナクシテ、實際市場ノ狀況カラ見マスレバ、鋼材ニ對シテモ多クノモノニハ五割ノ引下ラ致シテモ、今ノ製鐵鋼材會社等ノ、昨年から今日迄ノ値上リ、又今日ノ實際ノ市價ニ微シマシテ、五割位ノ大體引下ラ致シテモ、今ノ鋼材製造會社ニ、彼等ガ豫期シテ居ツタ利益ヲ與ナイノダト云フ考デハナクテ、昨年ニ比レバ相當大キナ利益ガ鋼材會社ニアルモノトシテ、今後はレ以上ニ上レバ、一般消費階級ニ相當大キナ迷惑ヲ與ヘルト云フ、今後ノ暴騰、若クハ價格ノ著シキ變化ヲ防グコトヲ目的ト致シマシタノデアツテ、今ノ價ヲ引下ゲルト云フ見地カラ致シマシタコトデナイト云フコトヲ一言申上ゲテ、委員會等ニ於テ詳シク申上ゲタイト思ヒマス

ソレカラ甚ダ相濟マヌガモウ少シ——大變多岐ニ互ツテ居リマシタカラ——モウ一ツ共販會社ノコトデアリマス、成程共販會社ハ製鐵合同ノ前ニハ、内地ノ數會社、朝鮮、滿洲ノ會社ノ主トシテ鉄鐵ヲ造ルモノガ相寄ツテ、一ツノ組合見タヤウナモノヲ組織シテ、内地ノ鉄鐵ヲ賣捌クコトノ建値、及外國カラ印度鉄鐵其他ヲ輸入スルコトニ對シ

テ、一手ノ獨占ノ形ヲ成シテ居タコトハ事實デアリマス、先般新聞等ニ現レマシタ蔭山君ノ御批評モ、大體ニ於テ事實デアリマス、私ハ日本ノ鐵ノ需要供給、竝ニ出來ルダケ市價ヲ低廉ニスルコトハ、殆ド内地ノ鉄鐵ノ全部ヲ引受テ居リ、鋼材ノ半バヲ引受ケテ居ル日本製鐵會社ハ、日本全國ノ鐵ノ市價ヲバ統制スル力ハ十分アルト斯様ニ考ヘテ居リマス、唯此共販會社ガ、一種ノ所謂販賣會社トナツテ、「カルテル」ノヤウナ弊ガアリハセヌカト云フ御心配ノアル方モ相當アリマス、蔭山君モ其御一人ト考ヘマスガ、私ハ今ノ共販會社ヲ直チニ解散スルト云フ考ハ有ツテ居ラス、之ヲ指導シ監督シテ當初ノ目的ニ副ハセルヤウニ努メタイト、只今ハ考ヘテ居リマス、併シ從來ノ關係ガアツテ、此共販會社ガ一般民間ノ鐵鐵ヲ買入レテ、鋼材ヲ造ル所ノ澤山ノ會社ガ、共販會社ノ一擧一笑ニ重キヲ置イテ居ルト云フ意味合ガアルト、時時鋼材會社ノ方々カラ、サウ云フヤウナ訴モ受ケマス、是ハ果シテ其非難、訴ガ事實ト致シマスレバ、是ハ一日モ早ク矯正シナケレバナリマセヌ、故ニ商工省トシテハ之ヲ適當ナル指導、獎勵、訓戒ヲ加ヘテ、尙ホ吾々ノ希望シテ居ルヤウナ理想的ナ働キガ出來ヌ時ニ、初メテ是ガ改造スルコトニ躊躇致サヌト、是ダケヲ申上ゲテ置キマス、ソレカラ御尋ノ中ニ、モウ一ツ合同問題ヲ繼續スルカ否カトノ言明ニ對シテハ、先刻申上ゲタコトデ大體ノ御諒解ヲ願フテ置キマス

正スル時期ニ達シテ居ルト、私ハ斯様ニ考ヘテ居リマス、議會ニ於テモ此質問ガアリマシタガ、私ノ信念ハ左様デアアル、併シ今大藏事務當局ト商工事務當局トノ間ニ協議中デアアルト、斯様ニ申シテ置キマシタ、其事務當局ノ協議中ノ問題ハ、ドウ云フ問題デアアルカト云フヤウナコトハ、税ノ細カイ點ニモ關係致シテ居リマスカラ、此席デハ省イテ委員會デ申シマス、唯御尋ノ最モ重大ナル點ハ、商工大臣ガ從來ノ言明ノ通り、此議會ニ之ヲ提出スルカ否ヤト、是ガハツキリセヌト民間デモ相當ナ疑惑ヲ生ジテ居ル、是ハ御尤ナ御尋ト私モ考ヘマス、私ノ信念ハ斯様ニ信念デス、適當ナル保護ヲ致ス必要ハナイ、併シ製鐵業ト云フ重大ナル國策ニ屬スルモノニ對シテ、政府ガ從來獎勵ラシテ居タモノヲ、直チニ之ヲ取ルト云フ考デハナク、資本金、積立金ノ總體ニ對シテ一割ニ達セヌ間ハ、之ニ保護ヲ加ヘテ免稅ノ特點ヲ與ヘル、恐クハ他ニナイ程ノ是デ餘程大キナ特點ト考ヘテ居ルノデ、殊ニ獎勵法始ツテ以來相當ナ長イ年數ガ經チマシテ、凡ソ基礎ガ鞏固ニナツタ見ラル、節ガ相當多イノデアリマスカラ、一般産業ニ較ベテ、國策ト言ヒナガラ、國策ノ根本ヲ覆サヌダケノ適當ナ獎勵ハスルガ、ソレ以上ノ獎勵ラシテ、或ハ三割五分ノ純益トカ、四割ノ純益ト云フヤウナコトデナイガ、世間カラ見マスレバ如何ニ國策トハ言ヒナガラ、既ニ根本ガ成立シタモノニ向ツテ、何割ノ配當ヲスルト云フモノニ向ツテ、今後又數十年ノ保護ヲスルト云フノハ、餘計過ギルト云フ考方モ相當アルノデアリマス、此點ニ對シテ私ハ相當考慮ラ

致シマシタガ、茲ニ率直ニ申上ゲマス、技術ノ關係モアリマスルシ、種々ナル或ハ滿洲鐵ノ關係、色々ナ點カラ考慮致シマシテ、之ヲ議會ニ提出シテ御協賛ヲ得ルコトガ、或ハ困難デナイカト思ハル、節モアリマス、又此獎勵法ノ改正ヲ考ヘマシタ時ハ昨年ノ暮デアリマシテ、マダ鉄鐵等ノ需要不足ガ斯ク迄ニ參ラズニ、共販會社ヲ通ジテ關稅ノ引下ヲ行ハズトモ、日本ノ需要供給ガ相當參ラウカト折角努力中デアリマシタガ、ソレモ見込ガ立タズ、茲ニ關稅ノ引下ト云フ問題モ加ツタノデアリマス、臨時利得稅、關稅ノ引下、獎勵法ノ改正、此三ツ相重ナルコトハ如何デアラウト云フ、老巧ナル考モ關係中ニアルヤウデアリマスカラ、私ハ當年ノ議會ニ之ヲ提出スルコトハ困難ト思ヒマス、併シ私ノ考方ハ今ノヤウナ考方有ツテ居ルガ、蔭山君ガ當年出スカト云フコトニ對シテハ、私ハ種々ナル事情カラ、私ノ考方ガ實際ニ今年行ハレヌノハ遺憾ト思ヒマスガ、之ヲ提出スルコトハ困難デアアル、斯様ニ率直ニ申上ゲテ置キマス(拍手)

〔國務大臣大角岑生君登壇〕
○國務大臣(大角岑生君) 蔭山君カラノ海軍ニ對スル御質問ニ御答ヲ致シマス、戰時鐵ノ所要量ガ激増致シマスコトハ、是ハ申ス迄モナイコトデアリマシテ、是ガ對策ニ付キマシテハ、慎重ニ各方面ニ互ツテ考慮シテ居ル次第デアリマス、唯此戰時ノ所要額ガ幾何デアルカ、斯ウ云フ御尋ニ對シマシテハ遺憾ナガラ御答ヲ差控ヘタイト思ヒマス、次ニ御尋ニナリマシタノハ、平時ノ所要量ハドウデアアルカ、最近兩三年ノ所要量ヲ御尋ニナリマシタ、ソレニ對シテ御答ヲ致シマス、海軍カラ日鐵(註文致シマシタ分量ハ、昭和七年度約五萬二千噸、昭和八年度約五萬九千噸、昭和九年度約九萬八千噸ニナツテ居リマス、昭和十年度以後モ大體此計數ヲ續ケルコト、考ヘテ居リマス)

〔國務大臣岡田啓介君登壇〕
○國務大臣(岡田啓介君) 蔭山君ニ御答致シマス、私ヘノ御尋ノ第一點ハ、製鐵國策デアッタト思ヒマス、製鐵國策ハ自給自足ガ目標デアルト思ヒマス、歷代ノ政府之ニ向ツテ努力シ來タノデアリマス、種々ナル情況ヨリ、近年鐵ノ需要ガ非常ニ激増シタノデアリマスガ、是カラノ製鐵國策モ同ジク自給自足デアリ、此激増シタ需要ニ向ツテハ、政府ハ増産ノ計畫ニ向ツテ進マナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、其次ハ有事ノ際ニ鐵礦ヲ何レニ求ムルカ、斯ウ云フ御質問デアッタカト思ヒマス、是非重要ナル問題デアリマシテ、此爲ニ滿洲及朝鮮ニ於ケル鐵礦ノ埋藏量及其品質ニ付テ一通リノ調査ハ致シタノデアリマス、私ノ承知シテ居リマ所デハ、富礦ハ餘リ多クナイノデアリマス、但シ貧礦ハ相當ナ埋藏量ガアルノデアリマス、此貧礦ヲ處理シテ製鐵ヲ致シマスコトモ、一二ノ會社デハヤツテ居ルノデアリマスガ、是ハ貧礦ト申シマシテモ、其實ノ良イ方デアリマスカラ、滿洲朝鮮竝ニ我國ニモ多數アリマス以下ノ貧礦デ、製鐵ヲスル方法ヲ研究スルコトガ必要デアルト思ヒマス、又砂鐵カラ鐵及鋼ヲ拵ヘルコトノ研究モ必要デアルト思ヒマス、平時ニ於テハ、我國ニ近イ所カラ良質ノ礦石ヲ獲得スルコトモ、是亦努力セネバナラヌコト、思ヒマス、有事ノ際ニハ價格ノ高イコトスラ忍ビマスレバ、相當ナ礦石ハ得ラレルコ

ト、思ヒマス、但シ價格モ高クナラヌヤウニ研究ニ努力スベキモノデアルト考ヘテ居リマス(拍手)

〔國務大臣林銑十郎君登壇〕

○國務大臣(林銑十郎君) 只今陸山君ヨリ陸軍大臣トシテ、又對滿事務局總裁トシテ御尋ニナリマシタコトハ、大體次ノ四箇條ト考ヘマス、第一ハ、陸軍ノ平戰兩時ニ於ケル鐵ノ需要ニ關スル狀態、第二ハ、平時ノ陸軍ニ於ケル鐵ノ使用量、第三ハ、滿洲國ノ鐵ノ生産額、現在ト將來ノ見込、第四ハ、滿洲國ノ鐵ノ使用量、陸軍ト致シマシテハ、國內ノ需要ヲ圓滑ニナラシムルト共ニ、戰時ニ於キマシテモ、此鐵ノ供給ニ支障ナリ不安ノナイヤウナ爲ニ、種々ノ努力ヲシテ居リマスルガ、此見地ニ於キマシテ、只今戰時ノ鐵供給ノ確保ニ關シマシテ、所謂貧礦ノ處理法デアルトカ、或ハ砂鐵ノ精練法デアルトカ、或ハ滿鮮ニ於キマスル探礦ノ實施デアルトカ、或ハ日本製鐵株式會社法第九條ニ基キマスル礦石ノ貯藏等ノ研究準備ニ依リマシテ、只今ノ所國防上平戰兩時ヲ通ジマシテ、著シク不安ヲ感ジナイト云フ狀態ニアリマス、次ニ平時ニ於キマスル鐵ノ使用量ハ、最近一年間約六萬噸内外デアリマシテ、戰時ニ於キマスル使用量ニ關シマシテハ、事機密ニ屬シマスルノデ、此席デハ明言ヲ憚リマス、昭和製鐵所ノ製鐵能力ハ、今年度ノ計畫ガ銑鐵四十五萬噸、鋼塊四十萬噸デアリマシテ、將來十年度ニ於キマシテハ、銑鐵ガ六十五萬噸、鋼塊五十八萬噸ノ豫定デアリマス、ソレカラ滿洲國ノ鐵ノ使用量狀態ヲ申シマスレバ、昭和八年ガ約二十六萬噸、昭和九年度ノ見込ガ約四十六萬噸、大體只今申シマシタ通りニ、十

年度ノ計畫ニ依リマシテ、銑鐵ガ六十五萬噸、鋼塊四十六萬噸ト御承知ヲ願ヒマス

〔國務大臣廣田弘毅君登壇〕

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今陸山君ノ御質問ニ相成リマシタ、日本トシテ海外ノ鐵ノ利用ニ付テノ考ハドウデアアルカト云フ點ニ御答致シタト思ヒマス、日本ノ製鐵事業ノ發達ニ伴ヒマシテ、現在ノ日本ノ國內ノ情勢カラハ、最モ有利ナル外國ニ適當ノ礦石ガアレバ買入レルコトガ必要デアリマスノデ、現在ノ所ハ新嘉坡方面ダケカラ礦石ヲ輸入致シテ居リマスガ、將來ハ更ニ適當ノ場所ガアリマスレバ、無論考慮スベキモノデアルト思フノデアリマス、此製鐵事業ノ發達ニ伴ヒマシテ、又我が鐵製品モ自然ニ増加シテ參リマス、ソレガ總テ海外輸出方面ニモ相當増進スルコトデアラウト思フノデアリマス、現在ニ於キマシテモ、相當ノ鐵製品ハ輸出致シテ居リマスガ、元來此鐵事業ト云フモノハ、歐米ニ於テ最モ發達シタル大キナ事業デアリマスノデ、ソレ等ト日本ノ製品ノ發達ニ伴ッテ總テ又競争ノ事態ガ來ル虞モアリハセナイカ、是ハ餘程注意致サナケレバナラヌト思フノデアリマス、併ナガラ我が製鐵ノ事業ト云フモノハ、國家ノ根本企業ノ一ツデアリマスノデ、假令相當ノ障礙ガ起リマシテモ、是ハ矢張紡績事業ノ發達ト相俟ッテ、將來ハ自然ニ發達セシムベキモノデアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマスルノデ、貿易上ハ出來ルダケ其販路ノ擴張ニモ努力致シタト思フノデアリマス、又一朝有事ノ際ノ問題ニ付キマシテハ、根本ノ點ハ只今總理カラ御述ニナッタ通りデアルト思ヒマスガ、ソレニ致シマシテモ、

尙且ツ海外ニ其礦石ノ供給ヲ俟タナケレバナラヌト云フコトモ起ルデアラウト思フノデアリマス、其點ニ付キマシテハ滿洲國ハ勿論ノコト、日本ノ隣國ニ於ケル鐵礦ノ狀況ニ付テモ十分ノ注意ヲ拂ッテ置イテ、一朝有事ノ際ハ之ヲ利用シ得ルヤウナ狀態ニ、外交ノ工作ヲ進メテ參ルベキモノデアルト思フノデアリマス、何レニ致シマシテモ、外務省ト致シマシテハ當業者竝ニ關係當局ノ趣旨ニ基キマシテ、適宜外交ノ工作ヲ進メテ參リタト思フ次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇〕

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 朝鮮ノ鐵礦ニ付テノ御尋デゴザイマスルガ、朝鮮ノ鐵ノ產地ハ主ニ中部朝鮮以北デアアルノデアリマス、併シ最近ニ於キマシテハ、南鮮ニ於キマシテモ相踵イデ良好ナル鐵礦ガ發見サレツ、アルノデアリマス、現ニ採掘サレツツアリマスル鐵礦ハ、褐鐵礦ト赤鐵礦デアリマシテ、何レモ相當優良種ニ屬シテ居ルノデアリマス、其埋藏量ハ約二千萬噸ト數ヘラレテ居ルノデアリマス、而シテ今日尙ホ採掘セラレテ居ラヌモノデ、而モ重要ナル使命ヲ有ッテ居リマスルモノハ、只今陸山君ノ御指摘ニナリマシタ咸鏡北道ノ茂山ノ鐵礦デアアルノデアリマス、此咸鏡北道茂山ノ鐵礦ハ極ク優良ノ鐵礦トハ申シ兼ネマスガ、平均四〇%位ノ鑛量ヲ含ンデ居ルノデアリマス、而シテ推定埋藏量ハ四億噸ト云ハレテ居リマス、今日鞍山ニ於キマスル鐵礦ニ比シマシテ、其埋藏量ハ之ニ匹敵シ、而モ其品質ハ遙ニ優良ナリト認メラレテ居ルノデアリマス、御承知ノ通りニ今日ハ製鐵原料ガ大部分海外ヨリ其供給ヲ受ケテ居ルノデアリマスルガ、此茂山ノ鐵礦ハ、我

ガ領域内ニアリマスル所ノ最モ大ナル資源デアリマスルノデ、一朝有事ノ日ニ於キマシテハ、最モ重大ナル役割ヲ勤ムベキ所ノモノト考ヘテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスルカラ、當局者ニ於キマシテ、一日モ早ク此茂山ノ鐵礦ヲ開發致シマシテ、軍事上竝ニ産業上ニ適應スルヤウニ致シタイモノト考ヘテ居ル次第デアリマス(拍手)

〔國務大臣高橋是清君登壇〕

○國務大臣(高橋是清君) 陸山君ノ大藏大臣ニ對スル御質問ハ、多クハ主管大臣ノ御答辯ニ依ッテ十分ニ御答ガ出來テ居ル、唯大藏大臣ニ關スル點ニ於テハ、銑鐵鋼材ノ關稅引下ガ歲入ニドウ影響スルカト云フ點デアラウト思フ、是ハ一方ニ於テハ關稅ヲ半減致シマスルガ、豫算ニ計上シテアルモノ今日ト數量ガ大分違ッテ居リマスルカラシテ、先ヅ大藏事務ノ方ノ取調ニ於キマシテハ歲入ニ格別ノ影響ハナイ、斯ウ云フコトニナッテ居リマス(拍手)

○陸山貞吉君 簡單デアリマスカラ、自席デ御許シテ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 簡單ナレバ御許シ致シマス

○陸山貞吉君 今關係各大臣ヨリ色々御答辯ガアリマシタガ、細部ニ互リマシテハ委員會ニ於テ更ニ御尋申上ゲタイト思ヒマス、唯一ツ落シマシタガ、滿洲ニ於ケル鐵ノ輸入ニ關シマシテ、洵ニ此關稅ノ問題ガ障礙ニナッテ、高イモノガ此方ニ入ルヤウニナッテ居リマス、此點ニ關シマシテ對滿事務局總裁トシテ如何ナル考ヲ有ッテ居ラレルカ、又外務大臣ハ此關稅問題ニ關シマシテ、モウ少シ特惠關稅ノヤウ

十六萬噸、大體只今申シマシタ通りニ、十

年度ノ計畫ニ依リマシテ、銑鐵ガ六十五萬噸、鋼塊四十六萬噸ト御承知ヲ願ヒマス

尙且ツ海外ニ其礦石ノ供給ヲ俟タナケレバナラヌト云フコトモ起ルデアラウト思フノデアリマス、其點ニ付キマシテハ滿洲國ハ勿論ノコト、日本ノ隣國ニ於ケル鐵礦ノ狀況ニ付テモ十分ノ注意ヲ拂ッテ置イテ、一朝有事ノ際ハ之ヲ利用シ得ルヤウナ狀態ニ、外交ノ工作ヲ進メテ參ルベキモノデアルト思フノデアリマス、何レニ致シマシテモ、外務省ト致シマシテハ當業者竝ニ關係當局ノ趣旨ニ基キマシテ、適宜外交ノ工作ヲ進メテ參リタト思フ次第デアリマス(拍手)

ガ領域内ニアリマスル所ノ最モ大ナル資源デアリマスルノデ、一朝有事ノ日ニ於キマシテハ、最モ重大ナル役割ヲ勤ムベキ所ノモノト考ヘテ居ルノデアリマス、斯ノ如キ次第デアリマスルカラ、當局者ニ於キマシテ、一日モ早ク此茂山ノ鐵礦ヲ開發致シマシテ、軍事上竝ニ産業上ニ適應スルヤウニ致シタイモノト考ヘテ居ル次第デアリマス(拍手)

ナモノヲ設ケテ、眞ニ日滿協調ノ趣旨ニ合
スルヤウニ何トカ出來ヌモノデアルカ、斯
ウ云フコトハ鐵ノ問題ダケチヤナイ、石炭
ノ問題モアル、滿洲カラ高イ鐵ヤ石炭ヲ買
ハナケレバナラヌト云フ現狀ガ私ハ少シク
不滿ナノデアル、此點ニ付テ關係大臣ノ御
答辯ヲ願ヒタイノデアリマス

〔國務大臣林銑十郎君登壇〕

○國務大臣(林銑十郎君) 只今ノ御尋ニ對
シテ御答ヲ致シマス、陸軍トシマシテ鉄鋼
ノ供給ヲ圓滿ニシ、又價格ノ暴騰ヲ抑止シ
マスコトハ、差支ナイ限リ希望スル所デア
リマスルガ、鉄ノ關稅中止ト云フヤウナコ
トニ依ッテ、果シテ此目的ヲ達シマスルカド
ウカ、ソレ等ノ點ニ付テハ十分全般ノ點カ
ラ研究ヲシテ居ル所デゴザイマス

〔國務大臣廣田弘毅君登壇〕

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今更ニ蔭山君
カラ滿洲國ノ日本ニ輸出スル鐵ノ輸入稅ニ
付テノ御質問ガアツタノデアリマスガ、是ハ
重要ナ問題ノ一ツデアリマシテ、何レ滿洲
國ト日本ノ製鐵業、其他ノ關係ヲ考慮致シ
マシテ、適當ニ決定スベキモノデアルト思
フノデアリマス、尙ホ鐵以外ノ一般ノ滿洲
產品ノ日本ニ於ケル輸入稅ノ點ニ付キマシ
テモ、特別ノ稅金ノ制度ヲ設クルカ、何等カ
ノ方法ニ依ルコトガ適當デハナイカト云フ
點モ、勿論目下研究致シテ居ル點デアリマ
スノデ、是ハ何レ日滿經濟連絡ヲ付ケマス
ル組織ガ出來マシタナラバ、當然研究スベ
キ問題デアルト思ッテ居ル次第デアリマス
○蔭山貞吉君 私ノ質問ハ終リマシタ
○議長(濱田國松君) 次ノ通告者加藤知正
君

〔加藤知正君登壇〕

官報號外 昭和十年三月八日 衆議院議事速記録第二十四號 關稅定率法中改正法律案外四件 第一讀會

○加藤知正君 私ハ只今上程セラレマシタ
關稅定率改正法律案ニ關聯致シマシテ政府
當局ニ對シ極メテ簡單ニ要領ヲ擧グンデ二三
ノ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、先ツ
第一ニ政府當局ニ對シテ御尋申上ダタイノ
ハ、我國ノ貿易政策デアアルノデアリマス、
輒近我國ノ貿易ハ著シク進展致シマシテ、
曾テハ、我國ノ輸出貿易ガ十三億圓臺ニ墜
落致シタノデアリマスルガ、昨年ノ如キハ
二十一億七千萬圓ヲ算スルニ至ツタノデア
リマス、斯様ナ次第デアリマシテ、我國ノ
貿易狀態ハ各國ノ羨望ノ的ト相成ツテ居ル
ノデアリマスガ、併ナガラ此喜ブベキ貿易
ノ情勢ハ、果シテ今後長ク繼續シ得ルデア
ラウカト云フコトヲ考ヘマスル時ニ於テ、
吾々ハ多少不安ノ念ナキヲ得ヌノデアリマ
ス、何トナレバ、諸君御承知ノ如ク、世界
各國トモ或ハ高率ノ關稅政策ニ依リ、或ハ
輸入禁止政策ニ依リ、或ハ互惠主義ニ
則リマシテ、貿易ノ均衡ヲ保タントシ、致々
汲々是レ努メテ居ルノデゴザイマス、然
ルニ我國ノ貿易政策ヲ顧ミマスルト、如何
ニモ微温的ノ政策デアアルノデアリマス、斯
様ナ微温的ノ政策ノ下ニ、果シテ我が貿易
ガ長ク今日ノ情勢ヲ持續シ得ルデゴザイマ
セウカ、此點ニ於テ吾々ハ不安ヲ感ゼザル
ヲ得ヌノデアリマス、寧ロ今日トナリマシ
テハ、我國ニ於キマシテモ、所謂「ブロック」
經濟ニ則リマシテ、或ハ高率ノ關稅ヲ課ケ
ルナリ、或ハ禁止政策ヲ採ルナリ、或ハ互
惠求償政策ヲ採ルナリ致シマシテ、以テ内
地ニ於ケル我が生産業ヲ保護スルニアラザ
レバ、到底今日ノ我國ノ貿易ノ情勢ヲ保ツ
テ行クコトガ出來ナイ、昔年ナラズシテ今日
ノ順調ノ貿易ハ逆調ノ貿易トナルノデア
ルマイカ、此點ニ於キマシテ政府當局ハ如
何様ニ御考デゴザイマセウカ、此點ヲ先以
テ御伺申上ダタイノデゴザイマス

次ニ御尋致シタイノハ、伊太利政府ハ自
國輸入品千五百品目ニ互リマシテ、輸入特
許制ヲ此三月三十一日カラ實施スルコトニ
相成ツテ居ルノデアリマス、而シテ更ニ去ル
二日此輸入統制ニ關シマシテ、最モ峻嚴ナ
ル所ノ具體策ヲ決定致シマシテ、新政府令
トシテ之ヲ發布致シタノデアリマス、今其
輸入統制方法ナルモノヲ茲ニ擧グンデ申上
ゲマスルナラバ、一、中央政府ニ輸入統制ヲ
統一管掌スル一機關ヲ設置スルコト、二、
輸入品各箇別ニ輸入割當ヲ決定シ、割當超
過品ニ對シテハ嚴重ナル統制ヲ行フコト、
三、各國トノ通商交渉ヲ開始シ、求償主義
ニ基キ互惠通商貿易ノ徹底ヲ圖ルコト、
四、輸入割當ハ其國ニ對スル伊太利品ノ
輸入額ニ應ズルモノトシ、簡別的ノ貿易收
支均衡ヲ圖ルコト、云フコトニナツテ居ル
ノデアリマス、併テソコデ廣田外相ニ御尋
致シタイノハ、伊太利政府ハ我國ニ對シテ
今日マデニ右ニ關シ何カ交渉ガアツタカド
ウカ、最近伊太利政府ハ輸入統制ニ關スル
新方針ニ基キ、先ツ波蘭政府ト折衝シ、互惠
主義ノ徹底實現ヲ圖リ、其他各國トモ
順次折衝スルモノト見ラレテ居ルトノ報道
ガ傳ヘラレテ居ルノデアリマス、左様ナ次
第デアアルカラ、或ハマダ我國ニ對シマシテ
ハ何等ノ交渉モナイカモ知レマセウカレド
モ、併ナガラ廳テハ其交渉ガアルモノト思
ハナケレバナラヌノデアリマス、此時ニ於
テ、我が政府當局ニ於テハ、如何ナル方針
ヲ以テ是ガ折衝ニ當ル御考デアアルカ、ソレ
ヲ御尋致シタイノデアリマス、今我國ト伊

太利トノ貿易ヲ見マスルト、一昨昭和八年
度ニ於キマシテハ、日本ヨリ伊太利ニ輸出
致シマシタ金額ハ六百十六萬圓、伊太利カ
ラ日本へ輸入致シマシタ金額ハ六百三萬圓
ニナツテ居ルノデ、殆ド兩國ノ貿易關係ハ、
遣ラズ取ラズトシ、勘定ト云フ狀態デア
リマシタノガ、昨昭和九年度ニ於キマシテ
ハ、伊太利カラ日本へ輸入致シマシタ金額
ガ三百四十六萬圓ト云フ激減振リヲ示シテ
居ルノニ反シ、日本カラ伊太利へ輸出シタ
金額ガ九百五十七萬圓ト云フ一躍倍額以上
ノ輸出超過ニナツテ居ルノデアリマスカラ、
伊太利政府トシテハ、必ズヤ互惠主義
ニ基キ、我國ニ對シ交渉シ來ルニ相違ナイ
ノデアリマス、此時ニ於テ廣田外相ハ、如
何ナル考ヲ以テ之ニ應對折衝セラレントス
ルノデアリマスカ、此點ヲ御尋致シタイノ
デアリマス

次ニ御尋申上ゲルノハ、伊太利ニ於ケル
我國生絲ノ輸入禁止問題デアアルノデアリマ
ス、一昨年十一月十一日ニ、私ハ羅馬ニ於
テ「ムッソリーニ」首相ト會見致シタノデア
リマスガ、其際「ムッソリーニ」首相ハ、伊
太利ノ蠶絲ト日本ノ蠶絲トガ相提携スルコ
トガ出來ルナラバ、洵ニ「仕合」デアルト言ッ
タノデアリマス、彼ガ眞ニ斯様ナ考ヲ有ツ
テ居ルト致シマスルナラバ、日本生絲ノ輸入
禁止ナドハ爲シ得ナイ筈デアルト、私共ハ
考ヘテ居ルノデアリマスガ、ソレニモ拘ラ
ズ舌根未ダ乾カザルニ、昨年五月十四日
ニ、早ヤ既ニ日本生絲ノ輸入禁止ヲ致シテ
居ルヤウナ次第デアリマシテ、其矛盾セル
言動ニ對シマシテハ、吾々唯唯然タラザル
ヲ得ヌノデアリマス、併シ我ガ外務當局
ガ、伊太利政府ノ當局ト誠意ヲ以テ折衝致

大利トノ貿易ヲ見マスルト、一昨昭和八年
度ニ於キマシテハ、日本ヨリ伊太利ニ輸出
致シマシタ金額ハ六百十六萬圓、伊太利カ
ラ日本へ輸入致シマシタ金額ハ六百三萬圓
ニナツテ居ルノデ、殆ド兩國ノ貿易關係ハ、
遣ラズ取ラズトシ、勘定ト云フ狀態デア
リマシタノガ、昨昭和九年度ニ於キマシテ
ハ、伊太利カラ日本へ輸入致シマシタ金額
ガ三百四十六萬圓ト云フ激減振リヲ示シテ
居ルノニ反シ、日本カラ伊太利へ輸出シタ
金額ガ九百五十七萬圓ト云フ一躍倍額以上
ノ輸出超過ニナツテ居ルノデアリマスカラ、
伊太利政府トシテハ、必ズヤ互惠主義
ニ基キ、我國ニ對シ交渉シ來ルニ相違ナイ
ノデアリマス、此時ニ於テ廣田外相ハ、如
何ナル考ヲ以テ之ニ應對折衝セラレントス
ルノデアリマスカ、此點ヲ御尋致シタイノ
デアリマス

シマシタナラバ、之ヲ未然ニ防止スルコト
 何故ニ我ガ外務當局ハ、未然ニ之ヲ防止ス
 ルノ措置ニ出ラレナカッタカト云フコト
 ヲ、頗ル遺憾ニ思フノデアリマス、併シ未
 然ニ之ヲ防止スルコトガ出來ナイト致シマ
 シテモ、輸入禁止後ニ於テ之ヲ撤廢セシム
 ベク努力セラレタナラバ、敢テ之ヲ撤廢セ
 シムルコトモ、亦至難ノコトデモナカラウ
 ト思フノデアリマスガ、我ガ政府當局ハ是
 ガ折衝ニ付テ最善ノ努力ヲ拂ハレタカドウ
 デアルカト云フコトヲ御尋致シタイノデア
 リマス、此輸入禁止後ニ於テ、從來日本生絲
 ヲ常用シ來レル「クレープ」類ヤ絹靴下製造
 業者ハ、自家營業上非常ナ支障ヲ來シタノ
 デ、伊太利政府ニ對シ、日本生絲ノ輸入ヲ
 全然禁止スル時ハ、伊太利機業界ニ由リシ
 キ打撃ヲ與ヘルモノデアルカラ、若干ノ輸
 入ヲ認メラレタイト云フ陳情ヲシタノニ對
 シ、伊太利政府ハ、本年即チ千九百三十四
 年度ハ、日本生絲ハ既ニ多量ニ輸入セラレ
 テ居ルカラ、考慮ノ餘地ガナイ、ケレドモ
 明年度即チ千九百三十五年度ヨリハ、割當
 制ヲ考慮スベシト回答シタト云フコトヲ聞
 イテ居ルノデアリマスガ、我ガ外務當局
 ハ、伊太利政府ニ此割當制ニ對シ何等カノ
 交渉ヲセラレタカドウカ、此點ヲ廣田外相
 ニ御尋致シタイノデアリマス、而シテ私ガ
 誠意ヲ披瀝シ、赤誠ヲ以テ交渉致シタナラ
 バ云々ト申上ゲタノハ、如何ナル意味デア
 ルカト申シマスレバ、即チ私ハ此伊太利政府
 ガ嘗テ、我ガ日本ニ對シマシテ要望致シタ
 コトノアル、日本蠶絲ト伊太利蠶絲トノ提
 携問題ニ對シマシテ、我國ガ之ニ對シ、誠
 意ヲ披瀝シテ之ニ應ジタナラバ、彼必ズヤ

割當制ドコロノ話デハナイ、直チニ我ガ輸
 入生絲ノ禁止ヲ解除デアラウト思フノデア
 リマス、私共ガ羅馬ニ於テ「ムッソリーニ」ニ
 會見致シマシタ其際ニ、彼ガ貴國ノ蠶絲ト
 我ガ伊太利ノ蠶絲トノ提携ガ出來ルナラバ
 云々ト申シマシタノハ、決シテ一片ノ外交
 辭令デハナイノデゴザイマス、多年伊太利
 國民ハ之ヲ要望致シテ居ルノデゴザイマス
 ルカラシテ、其事ヲ「ムッソリーニ」ガ吾々
 共ニ對シテ言ツタモノデアルト思フノデア
 リマス、故ニ若シ我國ニシテ、之ニ對シテ
 誠意ノアル所ヲ披瀝致シマスルナラバ、喜
 シデ彼ハ之ニ應ズルデアラウト思フノミナ
 ラズ、更ニ進ンデ我國ト致シマシテハ、日
 伊ノ蠶絲ノ提携、續イテハ日佛ノ蠶絲ノ提
 携、而シテ更ニ進ンデハ日支ノ蠶絲ノ提携
 ヲ致シ、所謂世界蠶絲ノ同盟ヲ作ツテ、以
 テ人造絹絲ニ對抗スルト云フコトモ、今日
 行詰レル所ノ我ガ蠶絲ヲ救済スル所ノ一ツ
 ノ方法デハナカラウカト云フ議論モアルノ
 デアリマスガ、之ニ對シテ岡田總理大
 臣、廣田外相、其他大藏大臣、町田商相等
 ノ御意見ノ存スル所ヲ御伺スルコトガ出來
 レバ、洵ニ結構ト存ズル次第デアリマ
 ス(拍手)

ナル打撃ヲ與フルコトニナルモノトハ、一
 般ニ考ヘラレテ居ル所デアリマスガ、之
 ニ對シマシテ政府當局ハ如何様ニ御考デア
 リマセウカ、私ハ内地蠶絲業保護ノ意味ニ
 於テ、一日モ速ニ是ガ輸入禁止ヲスルカ、
 然ラザレバ是ガ輸入ニ對シ高イ關稅ヲ課ケ
 ルノガ、當然過ギル程當然ノ處置デアルト
 考ヘテ居リマスガ、大藏大臣ハ此點ニ付
 テ如何様ニ御考デアリマスルカ、又町田商
 工大臣ハ、此點ニ付テ如何様ニ御考デアリ
 マスルカ、大藏省ノ關稅委員會ニ於キマシ
 テハ、是ガ課稅問題ニ對シ贊否兩論ガアッ
 テ、容易ニ決定セヌト云フコトデアリマス
 ガ、何故ニ容易ニ決定セヌノデアリマセウ
 カ、昨午米國(輸入セラレタ日本生絲ハ四
 十四万五千俵デアアルガ、此中ノ六割以上ハ
 婦人用絹靴下トナルノデアリマス、此靴下
 ガドノノ内地ニ逆戻リスルヤウニナツタ
 ラ、我ガ蠶絲業ノ上ニ如何ナル結果ヲ招來
 スルカハ、多言ヲ要セザル所デアリマス、
 ソレヲ何故ニ愚圖々々シテ放任シテ置クノ
 デアリマセウカ、苛斂誅求ニ於テ最モ拔目
 ノナイ大藏省ノ役人ガ、斯様ナ結構ヲ財源
 ヲ見遁スト云フコトハ、日本七不思議ノ一
 ツデアルト言ハネバナラナイト思フノデア
 リマスガ、之ニ關スル政府當局ノ御所見
 ノアル所ヲ御伺致シタイノデアリマス、尙
 ホ色々御尋申上ゲタイコトガアリマスルケ
 レドモ、私ノ質問ハ是デ打切ルコトニ致シ
 マス(拍手)

産業ノ發展ニ伴ヒマシテ、海外トノ輸出入
 ガ非常ニ増進致シテ居リマス今日、又將來
 益、増進セントスル傾向ニアリマス今日、我
 ガ輸出入貿易ニ付テ、特ニ一定ノ一ツノ方
 針ヲ以テ當ツテ行クト云フコトハ如何カト
 思フノデアリマス、日本ノ貿易相手國ガ
 色々國情ヲ異ニ致シテ居リマスノデ、之ニ
 處スル方法ハ、ソレレノ國ニ依テ考テ變ヘ
 ナケレバナラヌ必要ガアリハセヌカト思フ
 居ル次第デアリマス、伊太利トノ關係ニ付
 キマシテハ、只今御述ニナリマシタヤウ
 ニ、現在ニ於キマシテハ、日本ノ輸出ガ伊
 太利ノ輸入ノ約三倍ニモ當ツテ居ルト云フ
 ヤウナ狀態デアリマスノデ、伊太利政府ト
 致シマシテモ、是ガ貿易ノ「バランス」ヲ取
 ルヤウナ風ニ進メタイト云フ考ハ無論アル
 デアラウト思フノデアリマスガ、サウ云フ
 根本ノ點ニ付キマシテハ、マダ交渉ヲ受ケ
 テハ居ナイノデアリマス、併ナガラ伊太利
 ニ於キマシテハ、御承知ノ通り對日本關係
 ノミナラズ、世界各國トノ貿易狀況ガ非常
 ニ不權衡ニナツテ居リマスノデ、之ニ對ス
 ル必要上輸入禁止、輸入統制、又ハ最近ニ
 於キマシテハ特許制度ヲ設ケテ、貿易ノ「バ
 ランス」ヲ維持スルヤウニ努力致シテ居ル
 ノデアリマス、其中特ニ日本ニ關係致シマ
 シタ部分ト致シマシテハ、最近起リマシタ
 輸入禁止又ハ特許制ニ依ル大ナル制限ガア
 リマス、就中生絲ニ對スル輸入ノ制限ハ、
 日本ニ最モ大ナル影響ヲ及ボス問題デア
 タノデアリマス、隨ヒマシテ外務省ト致シ
 マシテハ、生絲ノ輸入禁止ト云フコトハ、
 非常ニ重大ナル問題デアルト認メマシテ、
 早速之ニ關スル交渉ヲ開キマシテ、出來ル
 コトナラバ、最近三年間ノ輸入量ヲ標準ト

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今加藤君ヨリ
 我ガ貿易ノ將來ニ付テ、政府ノ方針ノアル
 所ヲ御尋ニナツタノデアリマスガ、私ノ關
 係ノ方面カラ申シマスレバ、日本ノ今日ノ

シテ許可割當ヲスルヤウニト云フ交渉ヲ致シタノデアリマスガ、伊太利政府ノ方モ、相當日本ノ要求ニ耳ヲ傾ケマシテ、結局ノ所千九百三十一年、二年及三年ノ平均輸入量ヲ日本ニ振當テスルヤウニ相成タノデアリマス、其他ノ日本ノ輸出品ノ相當ノ價格ノ物ガアリマスノデ、ソレ等ニ付テモ矢張同ジヤウニ交渉ハ致シテ居ルノデアリマス、曩ニ加藤君カラ、政府ガモウ少シ努力ヲスレバ、此禁止ヲ豫メ豫防スルコトヲ得タデハナイカト云フ御話モアリマシタ、其點ハ遺憾ナガラサウ云フ運ニ參ラナカッタコトハ、私モ残念ニ思フ次第デアリマス、實情ハ只今申上ゲマシタヤウナコトデアリマスノデ、生絲ノ點ハ大體之ニ依ツテ御満足ヲシテ戴クノ外ハナイカト存ジテ居ル次第デアリマス

〔國務大臣高橋是清君登壇〕

○國務大臣(高橋是清君) 加藤君ニ御答致シマス、私ヨリハ寧ろ商工大臣トカ、農林大臣ノ方カラ御答シタ方ガ宜イカトモ思ヒマスケレドモ、大藏大臣ニ御質疑ノヤウデシタカラ、一應御答致シマス、要ハ貿易關係ニ於テハ、今日ハ最早我國ノ國內産業ヲ盛ニスル爲ニハ、保護貿易制度ヲ用ヒテヤル政策ニ改メル時機ガ來タノデハナイカト云フヤウナコトカラ出發シテ、各國ニ行ハレテ居ル輸入防遏ノ手段ヲ講ズルコトニ付テ、伊太利ノ例ニ及バレタノデアリマス、結局我國ノ貿易政策ト云フモノハ、今日ハ甚ダ微温ノデアアル、寧ろ高率ノ關係政策ヲ採用シテ、國內ノ産業ヲ盛ニシナケレバ、前途甚ダ憂慮ニ堪ヘス、斯ウ云フ御意見ノヤウデアアル、ソレハ豫テ覺悟シテ居ルノデアアル、今日ノ世界ノ通商狀態ト云フモノハ、

少シモ油斷ガナラナイ、各國共ニ自給自足ノ政策ヲ採ツテ居リマスカラシテ、我國ノ輸出入貿易ガ、何時ドノ國カラ妨ゲラル、カト云フコトハ見透シガ付カナイ、始終變テ行クノデアアル、ソレ故ニ昨年貿易ノ調節ヲ計リ、或ハ通商擁護ノ爲ニ必要ナル手段ヲ執ル爲ニ、關稅ニ關スル法律ノ制定ヲ見タ譯デアリマス、故ニ一朝其必要ヲ生ジタル場合ニハ、直チニ適當ナル手段ヲ執ルダケノ準備ハ既ニ出來テ居ルノデアリマス、故ニ今後ニ於テモ、海外ノ情勢ニ始終注意ヲ致シマシテ、必要ナ場合ニハ何時デモ關稅ノ政策ガ行ハレルコトニナツテ居リマス、併シマダ今日總テノ國々ニ向ツテ同ジ政策ヲ執ツテ、關稅ノ制度ヲ定メルト云フ譯ニハ行カヌノデアアル、其點ニ付テハ今外務大臣カラモ御話ガアッタヤウデアリマス、次ハ近頃外國カラ絹ノ靴下ノ古物ガ來ル、古物ガ入ッテ來テ、其爲ニ我國ノ生絲ニ惡影響ヲ及ボス憂ハナイカ、斯ウ云フコトデアリマス、是ハ農林省デモ、大藏省デモ、既ニ問題ニナツテ研究ヲシテ居タ、然ルニ此外國カラ入ッテ來マス絹ノ古靴下ナルモノハ、是ガ又我國ニ於テ商品トシテ再製スル工夫ガ付キマシテ、今日デハ農村ノ副業トシテ相當ノ勢力ヲ占メテ居ルノデアリマス、此古イ靴下ガ入ッテ來マシテ、ソレガ新タニ生絲ト交織ニサレテ使用セラル、ノダサウデアリマス、故ニ其方カラ言ヘバ、又生絲ノ需要ヲ増進スルトモ言ハレルノデアアル、又外國ニ於テ人絹ノ靴下ヲ履ク者——我國カラ出ル生絲ヲ材料トシテ拵ヘタ靴下ヲ使フ、其使ヒ古シガ、生絲ノ靴下ハ再ビ輸出品トナルノデアツテ、相當ノ價ヲ有ツ、古クナツテモ價ヲ有ツト云フコトニナルノデアリマスカラ、

其方カラ言ツテモ、世人ハ人絹ヨリモ生絲ノ方ヲ好クノデアリマスカラ、生絲ノ需要ヲ妨ゲルト云フコトニハナルマイト思フ、要スルニ此靴下ノ古イモノ、輸入ノ得失ニ付テハ、尙ホ調査スベキ點ガアルト考ヘルノデアリマス、故ニ先ツ暫ク其事情ノ推移ヲ見計ツテ決メテ宜シカラウト云フコトニ、大體農林省ノ大藏省トノ事務當局ノ間ニ相談ガ付イテ居ルヤウデアリマス、是ダケ御答致シテ置キマス(拍手)

〔國務大臣岡田啓介君登壇〕

○國務大臣(岡田啓介君) 加藤君ニ御答致シマス、私ハ伊太利、佛蘭西、支那ノ蠶絲業ニ付テハ何ノ知識モ有ツテ居リマセヌ、隨テ其製品ノ種類、用途、販路等ニ於テモ承知致シテ居リマセヌノデ、遺憾ナガラ、是等各國ノ蠶絲業者ガ提携スルト云フコトガ出來マシタナラバ、甚ダ結構デアラウト思フト云フ以外ニ御答ハ出來マセヌ(拍手)

○加藤知正君 簡單デアリマスカラ此席カラ御許シテ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○加藤知正君 只今廣田外相ハ、此程度デ満足シテ呉レト云フ御話デアリマシタガ、遺憾ナガラ廣田外相ノ御答辯デハ満足ガ出來ナイノデアリマス、實ハ此事ニ付テ詳ク申上ゲテ見タイト思ヒマスケレドモ、何レ他ノ機會ニ於テ御質問申上ゲルコトニ致シ、唯、一言此處デ申上ゲテ置キタイコトハ、世界中ニ於キマシテ日本生絲ニ課稅——輸入禁止ヲ致シテ居ル國ハ、伊太利唯、一箇國アルノミデアリマス、從來無稅デ輸入致シテ居タ、其日本生絲ニ對シテ殆ド抜討的ニ輸入禁止ヲ致シタヤウニ吾々ハ考ヘテ居リマスカラ、其點ニ於テ或ハ外務省トシテモ十

分ノ手ヲ盡スコトガ出來ナカッタカモ知レマセヌ、サリナガラ左様ナ場合ニ於テ今少シク能ク向フノ事情ニ通ジテ居ラレマシタナラバ、假令抜討的ニヤリマシテモ、之ニ處スルノ途ハ自ラアッタデアラウト思フノデアアル、ソレハ即チ外デハアリマセヌガ「ムツソリ」首相ガ日本ノ蠶絲ト伊太利ノ蠶絲ノ提携說ヲ頻ニ主張致シテ居ル、一寸會ツタ吾々ニサヘ主張シテ居ルノデアアルカ、伊太利ノ大使館ノ人達ニ對シマシテハ、必ズヤ其事ヲ申シテ居タニ違ヒナイ、是等ノ點ニ對シマシテ、誠意ヲ披瀝シテ折衝致シテ居ラレマスルナラバ、斯様ナル抜討的ノヤリ方ハセナカッタデアラウト思フノデアリマス、此點ニ於キマシテ伊太利大使館ノ怠慢ハ、是ハドウシテモ免レルコトガ出來ナイト思フノデアリマスガ、併ナガラ今日ニ及ンデハ何トモ致シ方ハゴザイマセヌニ依ツテ、ドウカ今一段一ツ伊太利蠶絲業ノ事情、而シテ此生絲ノ輸入禁止ヲ致シマシタ頭末ヲ十分ニ御調査ニ相成リマシテ、以テ一日モ速ニ是ガ撤廢セラルルヤウニ御努力アラント切望致シマス(拍手)而シテ更ニ高橋大藏大臣ノ答辯ニ對シ、尙ホ色々申上ゲテ見タイケレドモ、之レ亦他日ノ機會ニ讓ルコトニ致シマスガ、併シ絹靴下ニ付テノ御認識——甚ダ失禮ナガラ高橋大藏大臣、ドウモアナタノ御認識ガ足ラナイト申上ゲタイノデアリマス、之ヲ要スルニ、屬僚ノ藏相ニ對シテ御話申上ゲルコトガ徹底セナイ結果或ハ左様ニ認識不足ノコトヲ仰シヤルノデハナカラウカトモ思フノデアリマスルガ、只今ノ御話中ニ此絹靴下ノソレハ農村ノ副業云々ト仰シヤッタガ、農村ト云フヨリモ、是ハ寧ろ都會ノ人達ガ主ニヤツ

テ居ルノデアリマス、而シテ此絹靴下其モノガ、生絲ト混ゼ織物等ニナツテ、却テ生絲ニ利益ヲ増進スルト云フガ如キ御話ガアリマシタガ、是ハ大變ナ間違デアリマス、是ハ何ト云ヒマシテモ、此絹靴下ハ、下等ノ絹織物ニドシク使用セラレルノデアリマスカラ、ソレガ廣ク利用セラレルノデアリマス結果ト致シマシテハ、即チ自然此屑

質問ハ是デ打切ルコトニ致シマス
○議長(濱田國松君) 次ノ通告者畑桃作君(畑桃作君登壇)

何故私ガ此關稅問題ニ力ヲ入レルカト申シマスルト、我方帝國ノ對外關係中、先ツ最近ニ於キマシテモ日印會商ニ失敗ラシテ居リマス、更ニ日蘭會商ニ於テモ失敗ラシテ居リマス、サウシテ我國ノ貿易モ、昔日ノ隆盛ノ佛ガ段々最近ニ於テハ消エテ行クヤウナ傾向ガアルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ場合ニ直面致シマシテハ、此關稅問題ニ對スル政府ノ認識ト、之ヲ發動シテ――通商貿易擁護法ト共ニ、此關稅問題ニ付キマシテ適宜最モ效果的ニ之ヲ發動シテ、攻

種ノ嫉ミヲ持ツタ所ノ外國ガ、虎視眈々トシテ、對支貿易ニ於テ優勝ノ地位ヲ得ントスル所ノ前提デアアルト私ハ思フノデアリマシテ……
○議長(濱田國松君) 畑君、成タケ議題ニ觸レタ質問ヲ聽ヒタイ

論只今ハ其數量ハ極メテ僅カデアリマスルケレドモ、之ヲ其儘ニ放任致シテ置キマシタナラバ、ドン／＼是ガ輸入セラレルニ違ヒナイ、輸入セラレル結果ハ、只今申上ゲマシタ屑生絲或ハ内地用生絲等ニ大ナル影響ヲ及ボスコトニ相成リマス、惜テ其時ニ於テ、ソラ關稅ダノ輸入禁止ダノト云ヒマシテモ及バヌ、嫩葉ノ中ニ之ヲ千切ラナケレバ、悔ユトモ及バザルコトヲ考ヘマスガ故ニ、敢テ此質問ヲ發シタノデアリマスルガ、不幸ニシテ高橋大藏大臣ハ十分ニ此點ニ御認識ガナイヤウニ思ヒマス、此間私ハ段々聞イテ見マスルト云フト、大藏省ノ此關稅調査委員會ニ於キマシテハ先刻申上ゲタヤウニ贊否兩論ガアルノデアアル、其贊否兩論ト云フモノハ、要スルニ其調査ガ不十分ナ結果左様ナコトニナルノデアラウト云フモノハ、又蠶絲業ニ對スル所ノ認識ガ不十分ノ結果左様ナコトニナルノデアラウト云フモノハ、此蠶絲業ニ對スル所ノ認識ガ缺ケテ居ルヤウニ思ヒマスカラ、希クハ高橋大藏大臣ニハ十分屬僚ヲ御督勵アツテ、今少シク、其認識ヲ確カメラレンコトヲ切ニ希望致シマシテ、私ノ

○畑桃作君 私人本議場デ先日某議員カラ御注意ヲサレマシタガ、御覽ノ通り病氣ヲシテ居リマシテ、長イ間病氣ヲシテ、最近モ議會ヘ押シテ來テ居ルヤウナ譯デアリマス、隨テ咽喉ノ工合ガ悪ウゴザイマスカラ、徹底シナイ點ハ御同情ヲ願ヒタイト思ヒマス(拍手)此關稅問題ハ、世界ニ於ケル通商貿易、即チ經濟戰爭ガ今日ノ如ク熾烈ナル時勢ニ於キマシテハ、武力ニ代ルベキ一種ノ武器デアアルノデアリマス、其意味ニ於キマシテ世界貿易戰ニ備ヘル爲メノ平和的武器ト云フコトニ於キマシテハ、此關稅ト云フモノガ唯一ツノモノデアルト私ハ思フノデアリマス、今ヤ世界ハ此激甚ナル經濟戰ニ於テ、關稅ノ障壁ヲ堡壘トシテ、虎視眈々トシテヤツテ居ル、之ニ對シテ我方ガモ、場合ニ依レバ攻ムル武器トシテ此關稅改正問題ヲ取扱ヒ、或ル場合ニハ守ルベキ武器トシテ、此關稅問題ヲ取扱ヘナケレバナラスノ

防宜シキヲ得ルコトガ必要デアラウト思フノデアリマス、就中對支問題、對米問題、對滿問題ニ付テ然リトスルノデアリマス、最近日支關係ガ好轉セリトカ、或ハ日米關係ガ好轉セリトカ新聞ニモ出テ居リマスシ、又外務大臣ノ先日ノ言葉ニ於テモ好轉シテ居ル、殊ニ日米關係ナドモ親和ノ度ヲ日々ニ増シテ居ルト云フコトヲ申シマスケレドモ、遺憾ナガラ此新聞ノ報道ト、外務大臣ノ意見トハ、是ハ空宣傳デアリマシテ、日支間ニ於テ、日米間ニ於テ――殊ニ日米間ニ於テ、親善ノ事實ガ何處ニ展開シテ居リマスカ、事實ハ此處ニ申上ゲルマデモナク、或ハ勢ノ赴ク所、重大ナル結果ヲ生ズルニ至ルヤモ知レナイト云フ程度マデ、私ハ惡イ方ニ發展シテ居ルト思フノデアリマス、對支問題ニ致シマシテモ、無條件ニ好轉ヲ言フ譯ニハ行カナイ、昨日ノ新聞ニ依リマシテモ、駐支英國大使ハ支那ノ要望ニ依ッテ二十萬磅ノ對支「クレヂット」ノ設定ニ付テ計畫シテ居ルトカ、或ハ今朝ノ新聞ニ依ッテハ、之ヲ否定シテ居リマスガ、斯ウ云フヤウナ傾向ハ日支直接交渉ヲ妨害セントスル所ノ、又日支直接交渉ニ向ッテ一

ハアリマセヌ、是ハ古イ頭ノ政治家ノ錯覺デアリマス、云高橋大藏大臣ハ農村ノ自力更生ヲ要望シテ居ル、自力更生ヲスルダケノ力ガアリサヘスルナラバ、コンナコトニハナラス、自力更生ヲスル所ノ力、立上ル所ノ力ガナイカラ、斯ウ云フコトニナツタ、其自力更生ヲスルニ必要ナル原動力ヲ與ヘヨウト云フノガ、吾々政治家ノ憂慮シテ居ル所デアアル、對支問題デモ然リデアリマス、支那ニ自力更生ヲスル所ノ力ハ絶對ニ無イ、無イカラシテ、日支ノ地理的ナ特殊關係ニ依リマス所ノ日本トシテハ、支那ニ自力更生ヲ與ヘル所ノ原動力ヲ提供ヲスル、協力シテ自力更生ノ原動力ヲ培フト云フ所ニ、

ハ、一國ニ取リマシテハ重大ナル切札ノ一ツデアリマスルニ依ッテ、私ハ此際此關稅ヲ取扱フ上ニ於キマスル政府ノ國內ニ對スル認識ト、更ニ相手國ニ對スル認識、及根本對策ニ付キマシテ政府ノ所見ヲ聽キタイノデアリマス、隨テ總理大臣、大藏大臣、外務大臣ハ勿論ノコト、陸海軍大臣ノ出席モ私ハ希望シテ居ルノデアリマス、陸軍大臣ハ今居ラスヤウデアリマスカラ、議長ハ速ニ書記ヲシテ陸軍大臣ヲ此處ニ呼ンデ來テ貰ヒタイ

ハ、一國ニ取リマシテハ重大ナル切札ノ一ツデアリマスルニ依ッテ、私ハ此際此關稅ヲ取扱フ上ニ於キマスル政府ノ國內ニ對スル認識ト、更ニ相手國ニ對スル認識、及根本對策ニ付キマシテ政府ノ所見ヲ聽キタイノデアリマス、隨テ總理大臣、大藏大臣、外務大臣ハ勿論ノコト、陸海軍大臣ノ出席モ私ハ希望シテ居ルノデアリマス、陸軍大臣ハ今居ラスヤウデアリマスカラ、議長ハ速ニ書記ヲシテ陸軍大臣ヲ此處ニ呼ンデ來テ貰ヒタイ

ハ、一國ニ取リマシテハ重大ナル切札ノ一ツデアリマスルニ依ッテ、私ハ此際此關稅ヲ取扱フ上ニ於キマスル政府ノ國內ニ對スル認識ト、更ニ相手國ニ對スル認識、及根本對策ニ付キマシテ政府ノ所見ヲ聽キタイノデアリマス、隨テ總理大臣、大藏大臣、外務大臣ハ勿論ノコト、陸海軍大臣ノ出席モ私ハ希望シテ居ルノデアリマス、陸軍大臣ハ今居ラスヤウデアリマスカラ、議長ハ速ニ書記ヲシテ陸軍大臣ヲ此處ニ呼ンデ來テ貰ヒタイ

ハ、一國ニ取リマシテハ重大ナル切札ノ一ツデアリマスルニ依ッテ、私ハ此際此關稅ヲ取扱フ上ニ於キマスル政府ノ國內ニ對スル認識ト、更ニ相手國ニ對スル認識、及根本對策ニ付キマシテ政府ノ所見ヲ聽キタイノデアリマス、隨テ總理大臣、大藏大臣、外務大臣ハ勿論ノコト、陸海軍大臣ノ出席モ私ハ希望シテ居ルノデアリマス、陸軍大臣ハ今居ラスヤウデアリマスカラ、議長ハ速ニ書記ヲシテ陸軍大臣ヲ此處ニ呼ンデ來テ貰ヒタイ

日本ハ特ニカヲ入レナケレバナラヌト同時ニ、其點ニ於キマシテ列國ヨリモ日本ガ特ニ重大ナル關係ヲ有テ居ルノデアリマス、極東ニ於ケル九箇國條約規定外ニ於キマシテ……

○議長(濱田國松君) 畑君、再度ノ注意ヲ致シマス、成ベク議案ニ觸レタル質疑ノ範圍内ニ於テ述ベラレンコトヲ希望致シマス

○畑桃作君(續) 是ガ關稅法ヲ適宜ニ使分ケテ致シマスル前提デアリマスカラシテ、議長ニ於テモ特ニ御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス——極東ニ於ケル九箇國條約規定外ノ日本ノ任務ト云フコトヲ我が帝國ハ自覺シ、列國モ之ヲ自覺シナケレバナラナイノデア

ル、即チ日支ガ本當ニ協力ヲ致シマシテ、支那ノ中央政權ガ強化サレ、地方政權ガ強化サレ、農民ガ安定シ、財界ガ安定シ、治安ガ維持サレニ於キマシテハ、支那四億ノ大衆ノ持ツ購買力ト云フモノハ非常ナモノデアリマス、此購買力ニ向ッテ、我國ハ適當ニ關稅ヲ改正シテ、此購買力ヲ迷ガサナイヤウニシナケレバナラナイ、恐ラク日支ガ本當ニ協力致シマシテ、只今私ガ申シマシ

タヤウニ、支那ノ安定状態ガ出現スルニ於キマシテハ、此支那四億ノ大衆ノ購買力ガ、一人當リ一年ニ十圓ツ、世界ノ物ヲ買ヒマシテモ、四十億圓ノ茲ニ購買力ガアル、斯ウ云フヤウナ事態ヲ造ルコトガ出來マスルナラバ、日支間ノ幸福ハ無論ノコト、現ニ行詰ッテ居ル世界經濟界ノ不況ヲ打開スルコトモ出來ルノデアリマス、此點ニ於テ吾

吾ハ特ニ支那ニカヲ入レナケレバナラナイ(拍手)隨テ政府ハ此支那ニ向ッテ實際上如何ナル工作ヲ行フベキ具體的方法ヲ執ッテ居ルカ、殊ニ此關稅改正ニ於テ、日支間ニ

如何ナル特殊ノ工作ヲ講ジテ居ルカ、而シテ日本ニ無クテ支那ニ有ル所ノ物ハ、是ハドシノ輸入ヲ獎勵スル所ノ關稅改正ニ出ナケレバナラヌ、又支那ニ無イ所ノ物ハ、日本ヨリ之ヲドシノ支那ニ入レルベク、支那ノ關稅ノ改正、日本品ニ對スル關稅率ノ引下ヲ要求シナケレバナラナイ(支那ノ議會ヂヤナイ)ト呼フ者アリ)即チ此支那ノ關稅中日本品ニ對スル稅率ガ高イ、之ヲ引下グベク日本トシテハ外交交渉ヲ行フ必要ガアル、支那ノ議會ヂヤナイト申シマスケレドモ、冗談ヂヤナイ、支那ニ對スル認識ガナイ、何ダ參與官トモ云フベキ者ガ——支那ガ多年ノ開排日運動ヲ續ケテ居ル其結果、日貨ニ對スル關稅ヲ引上ゲテ、日貨ヲ排斥シテ居ル、此歷々タル事實ヲ御承知ナイノデアリマスカ、是ニ於キマシテ私ハ外務大臣ニ御問フ致シマス、只今申シマシタ日支間ノ關稅問題ニ致シマシテモ、之ヲヤルニハドウシテモ日支直接交渉ヲ必要トスルノデアリマス、所ガ日支直接交渉ヲシテ、日支間ノ幾多ノ懸案ヲ解決シ、更ニ支那ノ經濟市場開發ノ爲ニ、日本ガ努力ヲ致サウト致シマスルナラバ、必ズ其場合ニ於テハ列國ハ日本ノ眞意ヲ誤解ヲ致シマシテ、日本ノ行動ニ對シマシテ妨害ノ行動ヲ、今日マデ列國ハ執ッテ來タノデアリマス、現ニ英米ハ九箇國條約ト云フモノヲ極メ付ケテ、日支間ノ直接交渉ヲ妨ゲントシテ居ルデハアリマセヌカ、此處ガ問題ナンデアル、日本ト支那トノ關係ハ、ソナナ簡單ナモノヂヤナイ、支那ノ災害ハ直チニ其隣國ノ日本ニ影響スル、ソレニモ拘ラズ九箇國條約ヲ以テ、列國ト御同様ノ意味ニ於テ日本ヲ取扱ハレテ居ッタノデハ、是ハ日支ノ爲ニナラ

スト思フ、日支間親善ノ爲ニナラヌト思フ、是ニ於テ私ハ日支直接交渉ニ依リマシテ東洋ノ平和ヲ保持シ、極東日支兩民族ノ繁榮ヲ希フニ必要ナル日支直接交渉ヲヤル上ニ付テ、妨害トナルベキ此九箇國條約ト云フモノハ、私ハ今日ノ場合、我が政府ニ於テハ廢棄スル方ガ適當デアルト思フデアリマス、外務大臣ノ所見ハ如何デアリマスカ、吾々ガ「ゼネバ」ニ於テ舉國一致松岡全權ヲアノ當時援ケ、國際聯盟カラ脱退シタ、更ニ最近ニ於テ華府條約ヲ廢棄シタト云フコトハ、何ノ爲ニ致シタノデアルカ、即チ國際聯盟ヲ脱退シタト云フノハ、日本ノ外交上ノ自由權、自主權ヲ獲得スル爲ニ脱退シタ、華府條約ヲ廢棄シタノハ何デアルカト云ヘバ、日本ノ國防上ノ自主權、自由權ヲ確保スル爲ニ廢棄シタノデアル、之ヲ廢棄致シマシタナラバ、之ヲ廢棄致シタケノ覺悟ガアリ、之ヲ實行致シマシタ政府ト致シマスルナラバ、日支直接交渉ヲ妨害スル所ノ、而モ其條約ヲ日本ノ爲ニ、支那ノ爲ニ列國ハ曲解シ、惡用シテ居ル、サウ云フヤウナ障礙トナルベキ九箇國條約ハ、此際速ニ廢棄スル方ガ、將來ノ禍根ヲ胎サヌト云フコトニナリマシテ、極東ハ朗カニナル前提デアルト思フ、ドウシテモ此九箇國條約ノ廢棄ハ必要デアルト思ヒマスガ、外務大臣ハ如何ニ御考デアリマスカ、殊ニ此九箇國條約ハ、支那ヲ不平等ノ立場ニ置イテ、他ノ八箇國ガ締結シタモノデアリマス、デアリマスカラシテ、支那ノ爲ニモ九箇國條約ヲ速ニ廢棄シテ、列國干涉カラ支那ヲ解放スルト云フコトニ向ッテ、日本ハ力添ヘラシナケレバナラナイト思フ、此意味ニ於テ廢棄ハ必要デアル、當局ノ御考ハ如何デアルカ、更ニ

私ハ當局ガ支那ノ内政ニ對シテドウ云フ風ニ見テ居ルカ、ソレニ對スル日本ノ——

○議長(濱田國松君) 畑君——畑君

○畑桃作君(續) 此關稅貿易ノ……

○議長(濱田國松君) 畑君——畑君、再度御注意申上ゲルトモ、議長ノ御注意ヲ御用ヒニナラヌ、アナタノ質疑ノ範圍ハ議題ノ範圍外トナッテ居リマス、故ニ先例ニ基キ發言ヲ中止シ、降壇ヲ命ジマス

(畑桃作君降壇)

(ソナナ酷イコトヲシナクテモ、時間ハアルヂヤナイカ)ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者伊禮肇君(畑桃來君)外務大臣ノ答辯ヲ要求スルト呼フ)

(答辯ハナイノデスカ)ト答辯ハドウシタ)ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 外務大臣ヨリ答辯ノ通告ハ議長ニアリマセヌ

(伊禮肇君登壇)

○伊禮肇君 此機會ニ於キマシテ砂糖關稅竝ニ同附加稅ニ關シマシテ、大藏大臣竝ニ商工大臣ニ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、最近東京ノ製菓業者組合ガ中心トナリマシテ、全國ノ製菓業者ガ糖價引下ノ期成同盟會ヲ組織致シテ居リマス、而シテ此組合ハ各方面ニ對シマシテ、砂糖關稅竝ニ同附加稅ノ撤廢運動ヲ致シツ、アルノデアリマス、今日世界ノ各國ガ其國內ノ重要産業保護ノ爲ニ、關稅ノ障壁ヲ設ケテ居リマスコトハ御承知ノ通りデアリマス、而シテ我國ノ砂糖關稅竝ニ此附加稅ガ、果シテ世界各國ノ中デ高率ニ失スルカドウカト云フコトヲ檢討致シマスルト、決シテ高率デハナクシテ、寧ロ低位ニアルノデアリマス、即チ

粗糖ニ於キマシテハ、世界四十六箇國ノ中
 デ第三十八番目ニ位シ、精糖ニ付テ申シマ
 スレバ、世界四十八箇國中デ四十二番目デ
 アリマシテ、是亦最低位ニアルノデアリマ
 ス、而シテ從價關稅トノ均衡上、從量關稅品
 全部ニ對シマシテ設定セラレマシタ所ノ附
 加稅ヲ、特ニ砂糖ニ付テノ撤廢スベキ理
 由ハナイト考ヘマス、然ラバ一般ノ物價ニ
 比較致シマシテ、砂糖ノ價格ハ果シテ高價
 デアルカ、而シテ國民生活ヲ壓迫スルカド
 ウカ、此點ヲ考ヘテ見マスルト云フト、是
 亦一般物價ニ比シテ決シテ高價デアリマ
 セヌ、即チ大正元年ヲ百ト致シマシテ、昭
 和三年カラ昭和九年ニ至ル七箇年間ノ代表
 的ノ物價ノ指數ヲ比較致シマスルト、各年
 別ノ比較ハ時間ノ節約上省略致シマスガ、
 昭和三年ヨリ同九年ニ至ル各物價ノ平均指
 數ヲ茲ニ對照致シマスルト、砂糖ノ百五ニ
 對シマシテ米ガ百十九、木材ガ百五十五、
 木炭ガ百七十三、綿絲ガ百二十三、小麥粉
 ガ百二十九、生絲ガ八十三、一般物價指數
 ガ百四十一トナツテ居リマシテ、生絲以
 外ノ各物價ニ對シマシテ、砂糖ハ寧ロ高
 價デナクシテ格安デアリマス、去ル二月二
 十四日ノ都下ノ各新聞紙ハ、中華民國ガ三
 月一日ヨリ砂糖關稅ノ引上ヲ斷行スルト云
 フコトヲ報ジテ居リマス、最近歐羅巴ノ金
 「ブロック」ノ危機ヲ傳ヘテ居リマス、是等
 ノ報道ハ總テ我方糖業者ニ對シテ非常ナル
 脅威ヲ與ヘテ居ル次第デアリマス、若モ和
 蘭ガ金ノ輸出ノ禁止ヲ致シマシタナラバ、
 我方糖業ハ非常ナル危機ニ陥ルコトハ申ス
 迄モナイコトデアリマス、斯ウ云フ際ニ當
 リマシテ、製菓業者ノ申シマスル如ク、砂
 糖ノ關稅竝ニ同附加稅ヲ撤廢致シマシタナ

ラバ、次ニ申シマスルヤウナ、實ニ恐ルベ
 キ結果ヲ豫想シナケレバナラヌト考ヘマス、
 即チ第一ハ、砂糖關稅同附加稅撤廢ノ結果、
 一度我國ノ糖業ノ根柢ニ動搖ヲ來シ、折角
 今日得マシタ所ノ自給自足ヲ毀シマシタナ
 ラバ、國民生活ニ必要ナル此砂糖ガ、一旦
 有事ノ際ニ缺乏ヲ來シマシテ、國民生活上
 非常ナル困難ニ陥ルト云フコトハ、大戦當
 時世界各國ガ齊シク嘗メタ所ノ苦イ經驗ニ
 依ツテ明カデアリマス、更ニ第二ニハ、臺灣
 ニ於ケル米ノ生産費ハ、内地ノ米ノ生産費
 ニ比較致シマシテ頗ル低率デアリマス、其結
 果臺灣ニ於ケル米ノ産額ハ年々増加ノ傾向
 ヲ示シテ居リマス、大正十年ニ僅ニ七千石
 ニ過ギナカッタ米ノ生産額ガ、昭和八年ニハ
 實ニ八百餘万石トナリマシテ、中四百餘万石
 ハ内地ニ移出ヲ致シテ居リマス、砂糖關稅
 竝ニ同附加稅ニ依ル保護ノ結果、砂糖業者
 ガ相當ノ收益ガアル今日ニ於テサヘ、尙ホ
 臺灣ノ米ノ生産ハ年々増加致シテ居リマス、
 若シ一度關稅ヲ撤廢シ、或ハ關稅附加稅ヲ
 撤廢致シマシテ、製糖業者ニ動搖ヲ來シマ
 シタナラバ、今日砂糖原料ノ甘蔗作ニ從事
 シテ居リマスル所ノ多數ノ農民ハ、續々米
 作ニ轉向致シマシテ、米ノ洪水ヲ來シ、我
 國米穀政策上由々シキ問題ヲ惹起スコトヲ
 憂フル者デアリマス、更ニ第三ニハ、關稅
 竝ニ同附加稅撤廢ノ結果ハ、我方貿易ニ影
 響スルト共ニ關稅收入ヲ減ジ、更ニ米ノ洪
 水ノ爲ニ過剩米調節ニ要スル費用ヲ増加シ、
 我國ノ財政ニモ更ニ重大ナ影響ヲ及ボスコ
 ト、考ヘル次第デアリマス、今日臺灣ヤ南
 洋ノ如ク、栽培或ハ生産、或ハ販賣ニ至ル
 マデ、一貫シテ合理化サレタ所ノ製糖業ニ
 於テスラ、尙ホ砂糖關稅ノ保護ヲ必要トス

ルノデアリマス、沖繩縣ノ如キハ政府ノ助
 成ノ下ニ、今日品種ノ改良、肥培管理ノ改
 善、製造技術ノ改良等、漸ク改善發達ノ途
 中ニアルバカリデナク、其製糖法ニ至リマ
 シテハ、數百年來ノ全クノ原始狀態デアリ
 マシテ、其爲ニ生産費ハ高く、今日關稅保
 護ノ下ニ於テスラ、尙ホ原價割レノ損失狀
 態デアリマス、若シ斯ウ云フ状態ニ於キマ
 シテ、關稅竝ニ同附加稅ヲ撤廢ヲ致シマシ
 タナラバ、臺灣ヤ南洋ノ製糖業者ガ被ル所
 ノ損害ノ外ニ、更ニ分蜜糖ト白糖トノ値段
 ノ接近ヲ來シ、黒糖ノ特殊ノ地位ヲ失ヒマ
 シテ、其販路ハ閉塞セラレ、沖繩ノ糖業ハ殆
 ド全滅ニ瀕スルノデアリマス、隨テ沖繩縣
 ノ特殊産業トシテ他ニ之ニ代ルベキモノハ
 ゴザイマセヌ、臺灣ナラバ砂糖ガ安クナレ
 バ更ニ米ニ代ヘラレマス、併シ沖繩縣ノ現
 狀ト致シマシテハ、砂糖ヲ止メテ米ニ代ヘ
 ルト云フコトハ出來マセヌ、斯ノ如キ状態
 ニ於テ、砂糖ノ關稅ノ撤廢竝ニ同附加稅ノ
 撤廢ト云フコトハ、單ニ砂糖ニ對スル重壓
 トナルノミナラズ、沖繩ノ産業經濟ニ非常
 ナル影響ヲ及ボスモノデアリマス
 以上申シマシタ通り、我國重要産業保護
 ノ意味ニ於キマシテモ、更ニ又他ノ一般物
 價トノ比較對照カラ申シマシテモ、關稅竝
 ニ同附加稅ハ今日撤廢スベキモノニ非ズト
 私ハ確信致シマス、更ニ沖繩縣ノ如キ殆ド
 砂糖ヲ以テ換金作物、重要産業トシテ居リ
 マス所ノ立場カラ致シマスレバ、尙更此砂
 糖關稅ハ撤廢スベキモノデハナイ、左様ニ
 考ヘル次第デアリマスガ、政府ハ之ニ對シ
 テ如何ナル御所見ヲ御有チデアリマセウカ、
 御同致シタイト思フ次第デアリマス(拍手)
 ○議長(濱田國松君) 矢吹大藏政務次官

〔政府委員男爵矢吹省三君登壇〕
 ○政府委員(男爵矢吹省三君) 只今伊禮君
 ヲリ砂糖關稅竝ニ附加稅撤廢止ノ考ガ政府ニ
 アルカドウカ、今日ノ場合之ヲ廢止スベキ
 時デナイト思フガ、如何デアアルカト云フ御
 質問デアリマシタ、砂糖ハ御承知ノヤウニ
 今日我國ニ於ケル重要ナル産業ノ一ツデア
 リマシテ、此關稅ヲ引下ゲルト云フヤウナ
 コトハ、餘程慎重ニ考ヘナケレバナラヌ事
 柄ト考ヘテ居リマス、伊禮君ハ殊ニ沖繩縣
 ニ對スル産業上ノ影響カラ、此問題ニ付テ
 深く御心配デゴザイマシタガ、政府ニ於キ
 マシテ今日ノ所、砂糖關稅或ハ附加稅ヲ引
 下ゲル考ハ有ツテ居リマセヌ、其事ヲ御答申
 シテ置キマス
 ○議長(濱田國松君) 伊禮君、モウ御尋ハ
 アリマセヌカ——實疑ハ終局致シマシタ、
 各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ
 御諮リヲ致シマス
 ○青木雷三郎君 日程第三乃至第七ノ五案
 ヲ一括シテ、中谷貞頼君外二名提出、營業
 收益稅法中改正法律案委員ニ併セ付託セラ
 レンコトヲ望ミマス
 ○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異
 議アリマセヌカ
 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
 ○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
 ス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第
 八及第九ハ、便宜上一括議題トナスニ御異
 議アリマセヌカ
 〔異議ナシト呼フ者アリ〕
 ○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
 ス、仍テ日程第八、治安維持法改正法律
 案、日程第九、不法團結等處罰ニ關スル法

律案、右兩案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマ
ス—小原司法大臣

第八 治安維持法改正法律案 (政府提出)

第九 不法團結等處罰ニ關スル法律案 (政府提出)

治安維持法改正法律案

治安維持法

第一章 通則

第一條 本法ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ
刑事手續其ノ他ニ關シ本法ニ別段ノ規
定アル場合ヲ除クノ外一般ノ例ニ依ル
第二條 本法ハ何人ヲ問ハズ本法施行地
域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適
用ス

第二章 罪

第三條 團體ヲ變革スルコトヲ目的トシ
テ結社ヲ組織シタル者又ハ結社ノ役員
其ノ他指導者タル任務ニ從事シタル者
ハ死刑又ハ無期若ハ七年以上ノ懲役ニ
處シテ知リテ結社ニ加入シタル者又
ハ結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲
シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第四條 前條ノ結社ヲ支援スルコトヲ目
的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ結社
ノ役員其ノ他指導者タル任務ニ從事シ
タル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處
シテ知リテ結社ニ加入シタル者又ハ
結社ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シ
タル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五條 第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タ
ル事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其
ノ目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者
ハ一年以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第三條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項
ヲ宣傳シタル者ハ六月以上五年以下ノ
懲役ニ處ス

第六條 第三條ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行
其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フ
ベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ一年以上十
年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 前四條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ
目的トシテ金品ヲ供與シ若ハ其ノ他ノ
方法ヲ以テ便宜ヲ與ヘタル者又ハ情ヲ
知リテ供與若ハ便宜ヲ受ケタル者ハ五
年以下ノ懲役ニ處ス

第八條 私有財産制度ヲ否認スルコトヲ
目的トシテ結社ヲ組織シタル者又ハ情
ヲ知リテ結社ニ加入シタル者若ハ結社
ノ目的遂行ノ爲ニスル行爲ヲ爲シタル
者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第九條 前條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル
事項ノ實行ニ關シ協議ヲ爲シ又ハ其ノ
目的タル事項ノ實行ヲ煽動シタル者ハ
五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十條 第八條ノ目的ヲ以テ騷擾、暴行
其ノ他生命、身體又ハ財産ニ害ヲ加フ
ベキ犯罪ヲ煽動シタル者ハ七年以下ノ
懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十一條 前三條ノ罪ヲ犯サシムルコト
ヲ目的トシテ金品ヲ供與シ若ハ其ノ他
ノ方法ヲ以テ便宜ヲ與ヘタル者又ハ情
ヲ知リテ供與若ハ便宜ヲ受ケタル者ハ
三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十二條 第三條、第四條及第八條ノ未
遂罪ハ之ヲ罰ス

第十三條 本章ノ罪ヲ犯シタル者自首シ
タルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第三章 刑事手續

第十四條 第三條、第四條及第八條ノ罪
ニ該ル被疑事件ニ付被疑者左ノ各號ノ
一ニ該當スル場合ニ於テ急速ヲ要シ判
事ノ勾引狀ヲ求ムルコト能ハザルトキ
ハ地方裁判所ノ檢事ハ被疑者ヲ勾引ス
ルコトヲ得

一 被疑者定リタル住居ヲ有セザルト
キ
二 被疑者罪證ヲ湮滅スル虞アルトキ
三 被疑者逃亡シタルトキ又ハ逃亡ス
ル虞アルトキ
四 被疑者變名又ハ偽名ヲ使用スル疑
アルトキ

第十五條 前條ノ規定ニ依リ勾引シタル
被疑者ハ指定ノ場所ニ引致シタル時ヨ
リ四十八時間内ニ之ヲ訊問スベシ其ノ
時間内ニ勾留狀ヲ發セザルトキハ被疑
者ヲ釋放スベシ

第十六條 第十四條ノ規定ニ依リ被疑者
ヲ勾引スルコトヲ得ベキ原由アル場合
ニ於テ急速ヲ要シ判事ノ勾留狀ヲ求ム
ルコト能ハザルトキハ地方裁判所ノ檢
事ハ之ヲ勾留スルコトヲ得

被疑者ノ勾留ハ前條ノ規定ニ依リ被疑
者ヲ訊問シタル後ニ非ザレバ之ヲ爲ス
コトヲ得ズ但シ被疑者逃亡シタル場合
ハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 前條ノ規定ニ依リ勾留シタル
被疑者ハ檢事特ニ必要アリト思料スル
場合ニ限り之ヲ訊問スルコトヲ得

第十八條 勾留ノ期間ハ二月トシテ之ヲ
續ク必要アル場合ニ於テハ一回限之ヲ
更新スルコトヲ得

第十九條 勾留ノ原由消滅シ其ノ他勾留

ヲ繼續スルノ必要ナシト思料スルトキ
ハ速ニ被疑者ヲ釋放スベシ

第二十條 刑事訴訟法中被告人ノ勾引及
勾留ニ關スル規定ハ別段ノ規定アル場
合ヲ除クノ外本法ノ勾引及勾留ニ付之
ヲ準用ス但シ保釋、責付及執行停止ニ
關スル規定ハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 本法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對
スル被告事件公判ニ付セラレタル場合
ニ於テ檢事必要アリト認ムルトキハ事
件ノ繫屬スル裁判所及移轉先裁判所ニ
共通スル直近上級裁判所ニ管轄移轉ノ
請求ヲ爲スコトヲ得但シ第一回公判期
日ノ指定アリタル後ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ請求アリタルトキハ決定アル迄
訴訟手續ヲ停止スベシ

第二十二條 本法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對
シ刑ノ執行猶豫ノ言渡アリタル場合又
ハ其ノ性格、年齡及境遇竝ニ犯罪ノ情
狀及犯罪後ノ情況ニ因リ訴追ヲ必要ト
セザルガ爲公訴ヲ提起セザル場合ニ於
テ檢事必要アリト認ムルトキハ本人ヲ
保護觀察ニ付スルコトヲ得本法ノ罪ヲ
犯シ刑ニ處セラレタル者其ノ執行ヲ終
リ又ハ假出獄ヲ許サレタル場合ニ於テ
檢事必要アリト認ムルトキ亦同ジ

第二十三條 保護觀察ハ本人ヲ司法保護
委員ノ觀察ニ付シ、保護者ニ引渡シ又
ハ寺院、教會、保護團體、病院若ハ適
當ナル者ニ委託若ハ送致シテ之ヲ爲ス

第二十四條 保護觀察ヲ行フニハ本人ノ
更ニ罪ヲ犯スノ危險ヲ防止シ且本人ヲ
シテ正業ニ從事セシムルコトニ留意ス
ベシ

第二十五條 司法保護委員及保護觀察ニ

關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
本法ハ本法施行前從前ノ規定ニ定メタル
罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス但シ改正
規定ニ定ムル刑ガ從前ノ規定ニ定メタル
刑ヨリ重キトキハ從前ノ規定ニ定メタル
刑ニ依リ處斷ス
本法中地方裁判所トアルハ朝鮮ニ於テハ
地方法院トス

不法團結等處罰ニ關スル法律案

第一條 人ノ生命ヲ害シ又ハ人ノ身體ニ
傷害ヲ加ヘンガ爲相團結シテ其ノ實行
ノ豫備ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ懲役
又ハ禁錮ニ處ス

治安ヲ紊ス目的ヲ以テ前項ノ罪ヲ犯シ
タル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處
ス

第二條 前條第二項ノ目的ヲ以テ人ノ生
命ヲ害シ又ハ人ノ身體ニ傷害ヲ加フル
犯罪ヲ煽動シタル者ハ三年以下ノ懲役
又ハ禁錮ニ處ス

第三條 前二條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ
目的トシテ金品ヲ供與シ若ハ其ノ他ノ
方法ヲ以テ便宜ヲ與ヘタル者又ハ情ヲ
知リテ供與若ハ便宜ヲ受ケタル者ハ三
年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 本法ノ罪ヲ犯シタル者自首シタ
ルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス

第五條 本法ハ何人ヲ問ハズ帝國臣民ノ
生命ヲ害シ又ハ其ノ身體ニ傷害ヲ加ヘ
ンガ爲本法施行地域外ニ於テ罪ヲ犯シ

タル者ニ亦之ヲ適用ス
(國務大臣小原直君登壇)

〔內務大臣ガ居リマセヌ〕ト呼フ者アリ

○議長(濱田國松君) 內務大臣ハ今迎ヘニ
ヤリマシタ

○國務大臣(小原直君) 只今上程ニ相成リ
マシタ治安維持法改正法律案及不法團結等
處罰ニ關スル法律案ヲ提出スルニ至リマシ
タ理由ヲ御説明申上ゲタイト存ジマス、先ヅ
治安維持法改正法律案ニ付テ申上ゲマス
御承知ノ通り、治安維持法違反事件ニ付
キマシテハ、政府ハ昭和三年以來鋭意是ガ
檢舉ヲ續行致シマシタニモ拘ラズ、共產主
義者ノ運動ハ實ニ執拗ヲ極メマシテ、幾度
カノ檢舉ニ依リ、其結社ノ組織ガ潰滅ニ至
リマシタニモ拘ラズ、更ニ其再建ヲ企テツ
ツアルノデアリマシテ、今日ニ至リマシテ
モ、尙ホ之ヲ剷滅スルコトノ出來ナイ狀況
ニアリマスコトハ、洵ニ遺憾ノ次第デアリ
マスル、竊テ我が國情ヲ考ヘマスルニ、今
ヤ内外實ニ重大ナル時局ニ際會シテ居ルノ
デアリマス、隨ヒマシテ此際是等不逞兇惡
ノ思想運動ヲ根絶致シマスルコトハ、現下
ノ急務デアルト信ズルノデアリマス、而シ
テ是ガ對策ト致シマシテハ、勿論教育其他
ノ方面ニ於ケル、新ナル施設計畫ヲ必要
ト致スノデアリマシテ、實ニ刑罰ノミヲ以
テ是ガ根絶ヲ期スルコトハ、至難ノ業デア
リマスルガ、苟モ國體ヲ變革シ、勞農階級
ノ獨裁政治ヲ企畫スルガ如キ、兇惡極リナ
キ思想運動者ガ、潛行的ニ活躍スル今日ニ
アリマシテハ、先ヅ之ニ對シテ徹底的ニ彈
壓ヲ加ヘ、彼等ヲシテ蠢動ノ餘地ナカラス
メナケレバナラヌト思フノデアリマス、然

ルニ現行治安維持法ハ、其施行以來ノ實績
ニ徴シマスルニ、如上ノ目的ヲ達スル上ニ
於キマシテ、規定ニ不備ノ點ガ少カラズ
存スルノデアリマス、殊ニ共產黨ノ所謂外
郭團體ニ對スル取締ノ上ニ、多大ノ缺陷ア
ルコトヲ發見シタルデアリマス、曩ニモ申
シマシタ如ク、共產主義者ガ幾度カ黨ノ再
建運動ヲ爲スニ至リマシタルモ、全ク是等
外郭團體ガ存在致シテ居リマシテ、陰ニ陽
ニ活躍致シタルデアリマス、隨テ政府ハ是
等ノ者ニ對シ、特別ノ取締規定ヲ設クルノ
必要ヲ認メタ次第デアリマス、次ニ治安維
持法違反事件ハ、御承知ノ如ク組織的デア
リマシテ、且ツ大衆的ノ犯罪デアリマス、此
故ニ現行刑事訴訟法ニ依リ捜査手續ノ豫想
セザリシ、犯罪現象ヲ呈シテ居ルノデアリ
マスルカラ、其檢舉ヲ爲スニ當リマシテハ、
手續上ノ特別ヲ設クルノ必要ヲ認メタルデ
アリマス、隨ヒマシテ改正案ニ於キマシテ
ハ、罪ト刑ヲ定ムル實體法ノ規定ノ外ニ、
手續法規ヲモ之ニ加ヘタルデアリマス、更
ニ犯罪者ノ實情ニ鑑ミマシテ、犯罪ノ豫防
ヲ全カラスメンガ爲ニ、保護觀察ノ制度ヲ
創設致シタル次第デアリマス、更ニ本改正案
ノ主要ノ事項ニ付キマシテ、少シク具體的
ニ御説明申上ゲタイト存ジマス、改正ノ第
一ハ、國體ヲ變革スルコトヲ目的トスル犯
罪ト、私有財産制度ヲ否認スルコトヲ目的
トスル犯罪トノ規定ヲ、全ク別條ニ規定致
シタルコトデアリマス、第二ハ、所謂外郭團
體ニ對スル處罰規定ヲ設ケタルコトデアリマ
ス、第三ハ、國體變革ニ關シ宣傳行爲ヲ處
罰スル規定ヲ設ケタルコトデアリマス、第四
ハ、本法ノ第三條、第四條及第八條ノ犯罪
ニ限リマシテ、是ハ國體ノ變革及私有財産

制度否認ノ爲ノ結社罪デアリマスガ、是等
ノ罪ニ付キマシテハ、特別ノ場合ニ於キマ
シテ、地方裁判所檢察官ガ被疑者ニ對シテ勾
引狀、勾留狀ヲ發シ得ベキ規定ヲ設ケタル
トデアリマス、次ニ本法ノ罪ヲ犯シマシタ
被告事件ノ第一審公判ノ審理ニ當リマシ
テ、必要アル場合ニ於キマシテハ、管轄ヲ移
轉スルコトノ出來ル規定ヲ設ケタルコトデア
リマス、第五ハ、檢察官ガ不起訴ノ處分ヲ致シ
マシタル者、又ハ刑ヲ執行等ヲ受ケテ釋放セ
ラレマシタル者ニ對シマシテ、本人ヲ保護觀察
ニ付スル規定ヲ設ケタルコトデアリマス、詳細
ハ委員會ニ於キマシテ御説明申上ゲル機會ガ
アラウト思フノデアリマス

次ニ不法團結等處罰ニ關スル法律案ニ付
テ御説明申上ゲマス、今日内外多事、國民
ガ協力一致以テ國運ノ進展ニ努力シナケレ
バナラヌ時ニ當リマシテ、社會ノ不安ヲ一
掃シ、人心ノ動搖ヲ防ズ、國民ヲシテ各、其
堵ニ安ゼシメマシテ、國內ノ秩序ヲ保持
スルコトハ、最モ必要ナル事柄デアルト確
信ヲ致スノデアリマス、然ルニ最近相團結
シテ人ノ生命ヲ奪ヒ、身體ニ傷害ヲ加ヘ、
又ハ或ル一定ノ目的ヲ達セントスルコトノ
急ナル餘リ、兇暴ナル直接行動ヲ敢テ致シ
マシテ、治安ヲ紊スガ如キ事案ノ起リマス
コトハ、洵ニ寒心ニ堪ヘナイ次第デアリマ
ス、斯ノ如キ事案ノ起リマスコトハ、獨リ
法律ノ力ノミヲ以テ能ク之ヲ防遏スルモノ
デナイコトハ申ス迄モナイコトデアリマス
ガ、近時時局ノ影響ヲ受ケ、焦燥ノ氣ニ驅
ラレル者ガ、往々ニシテ法ヲ輕シ、暴力
ニ訴ヘントスル傾向ノ存スルコトハ、深ク
遺憾トスル所デアリマス、殊ニ相團結シテ
人ノ生命身體ニ害ヲ加ヘントスルガ如キ

ハ、人心ノ安定ヲ圖リマス上カラ見マシテモ、特ニ取締ヲ嚴重ニシ、遺漏ナキヲ期スル必要ガアルト存ズルノデアリマス、本案ハ此必要ニ應ゼンガ爲メ、現行法ノ是等事犯ニ對スル規定ヲ整備致シマシテ、取締上ノ完備ヲ期センガ爲メ外ナラヌノデアリマス、何卒兩案共慎重御審議ノ上、御協賛アラシコトヲ切望致ス次第デアリマス（拍手）

○議長（濱田國松君） 質疑ノ通告ガアリマス、通告順ニ從ヒ順次之ヲ許シマス——立川平君

〔立川平君登壇〕

○立川平君 私人只今上程セラレマシタ治安維持法改正法律案、竝不法團結等處罰ニ關スル法律案ニ付キマシテ、簡單ニ二三政府ノ所見ヲ質シ、司法、内務兩大臣ノ御答辯ヲ得タイト存ジマス、治安維持法改正法律案ハ、昨年第六十五議會ニ提出セラレマシテ、最も慎重ニ審議ヲ重ネラレタノデアリマス、而シテ今回御提出ニ相成リマシタ法文ヲ見マスルト、其大綱ニ於キマシテ、略、昨年吾々ガ修正致シマシタ通りニ相成ッテ居ルノデアリマス、即チ本改正案ノ原案ハ、既ニ一年前カラ用意サレテアッタト申シテモ宜イノデアリマス、又不法團結等處罰ニ關スル法律案ニ付キマシテハ、昨年治安維持法ノ改正案ヲ議スルニ當リマシテ、吾々ガ現時ノ世相ニ鑑ミ、政府ハ宜シク朝憲ヲ紊亂セントスル暴力行爲ヲ嚴重ニ取締リ、且ツ之ニ關スル適當ノ制裁法規ヲ立案シテ、速ニ帝國議會ニ提出スベシト云フ希望條項ヲ附シマシタ所、政府ハ當時之ニ對シテ同意ヲ表シテ居ッタノデアリマス、即チ今回ノ此提案ハ、此希望條項ノ趣旨ニ

依ッテナサレタモノト思フノデアリマス、隨テ此不法團結等處罰ニ關スル法律案モ、亦今日俄ニ其立法ニ迫ラレタ譯デハナイノデアリマス、即チ此二法律案ハ、共ニ第六十五議會ノ當時カラ、過去一年間宿題トシテ課セラレテ居ッタ問題デアリマシテ、而モ其答案ハ既ニ出來上ッテ居ルカ、或ハ又出來上ッテ居ラナケレバナラナカッタ節合ノモノデアアルノデアリマス、然ルニ今議會ノ會期ハ、既ニ餘ス所僅ニ二十日足ラズトナリマシテ、其上吾々ノ眼前ニハ幾多ノ重要法律案、或ハ追加豫算案ナドガ山積シテ居リマス、今日ニ至リマスル迄、政府ハ何ガ故ニ之ヲ提出スルノ運ビニナラナカッタノデアアルカ、豫算ノ關係モ伴ハナイ、又民間ノ諸團體ニ答申ナドヲ求メテ居ラナカッタ本法律案ヲ、斯ノ如ク遅延セシメマシタノハ、全ク政府ノ怠慢以外ニ何物モナイト思フノデアリマス（拍手）此點ニ付テ若シ政府ニ辯解ノ辭ガアリマスルナラバ、是ハ總理大臣ヨリ承リタイト存ジマス、而シテ此間ノ消息ヲ私カニ伺ヒマスルニ、不法團結等處罰ニ關スル法律案ニ付テ、司法、内務兩省ノ間ニ意見ノ扞格ガアリマシテ、其事ガ此法案提出ノ遅延ノ原因ノ一ツデアッタト云フヤウニ仄聞スルノデアリマス、内務當局者ハ本來本法ノ制定ニ乘リ氣ガナカッタ、衷心ヨリ此法律ニ對シテハ贊意ヲ表シタモノデナクテ、唯司法省ノ御付合ヲシタニ過ギナイト云フヤウニ見ラレル節ガアルノデアリマスガ、本法ニ對スル、即チ不法團結等處罰ニ關スル法律ニ對スル、内務省ノ信念ハ如何デアアルカ、内務大臣ノ御答辯ヲ煩シタイト思ヒマス

第六十五議會ニ於テ治安維持法ノ改正ヲ

議スルニ當リマシテ、同法ノ中ニ、所謂右翼取締ノ條項ヲ插入セントスル議論ガ相當アッタノデアリマス、併ナガラ吾々ハソレニ同意ヲ致シ兼ネタノデアリマスルガ、ソレハ一ツハ、法律ノ體系ノ上ヨリ致シマシテ、共產黨ノ對象トスル、共產思想ノ撲滅ヲ目的トシテ制定サレマシタ所ノ治安維持法ノ中ニ、一般的ノ暴力行爲ニ對スル取締條項ヲ混合スルト云フコトガ、法律ノ體系ノ上カラシテ相當デハナイト考ヘマシタノト、今一ツハ、立憲治下ニ於キマシテハ、原則トシテ常ニ出來ルダケ國民ヲ自由ナ立場ニ置イテ、思索シ、行動スルコトヲ許サナケレバナラナイ、治安維持法ノ如キハ、全ク特殊ノ非常立法デアアルノデアリマシテ、斯ノ如キモノハ少シデモ擴大スルコトヲ爲スベキモノデナイト思ッタカラデアアルノデアリマス、併シ現下ノ我國ノ實情ヲ直視致シマスル時ニ於テ、左様ナル原則ヲ固持シテ、之ヲ漫然看過スベキ場合デハアリマセヌ、一面ニ於テ、共產黨ノ一部ハ尙ホ地下ニ潛入シテ蠢動ヲ致シテ居リマス、又一面ニ於テハ、徒ニ青年血氣ニ逸ル者ガ、免モスレバ社會ノ秩序ヲ紊スノ行爲ニ出マス、殊ニ又見遁スコトノ出來ナイノハ、國家主義ノ美名ノ下ニ愛國ノ假面ヲ冠リ、濫ニ驕激ナル言辭ヲ弄シテ、不穩ノ行動ヲ恣ニセントスル者ガ輩出シテ、社會各方面ノ不安ヲ醸成シテ居ル現狀デアリマシテ、此現狀ハ吾等ニ取ッテ甚シク不愉快、憂鬱ナル現狀ト申サナケレバナラナイノデアリマス（拍手）

此狀況ニ照シテ考ヘマスルニ、政府ハ治安維持法ノ改正ト、不法團結等處罰ニ關スル法律ト、是等ト並行シテ、尙ホ出版物ヲ取締ノ改正スル必要ガアルト思ヒマス、

是モ昨年來ノ懸案デアリマシテ、政府ニハ其用意ガアルト伺ヒマスルケレドモ、果シテ如何デアアルカ、此點ニ付テ政府ノ言明ヲ得タイト存ジマス、言論文章ハ文明ノ利器デアアルコトハ申ス迄モアリマセヌガ、其用ヒ方ニ依リマシテハ兇器ト變ジマス、之ヲ惡用スレバ、白刃ヲ擬シテ人ヲ殺傷スルヨリモ、寧ロ其害惡恐ルベキモノガアルノデアリマス、（ヒヤ／＼）就中惡性出版物、殊ニ所謂怪文書程、人ヲ害シ世ヲ毒スルモノハアリマセヌ（拍手）言論ハ自ら隱シテ之ヲ爲スコトガ出來マセヌケレドモ、文書ニ於キマシテハ匿名シテ、自ら煙幕ノ裡ニ隠レテ人ヲ狙撃スルモノガアルノデアリマス、斯ノ如キハ一般道徳ノ上ヨリ致シマスルモ、殊ニ又我が武士道精神ヨリ致シマシテ、卑怯此上モナキ、罪重罰ニ値スルモノト信ズルノデアリマス、政府ノ所見如何デアリマスカ、司法、内務兩大臣ノ御所見ヲ伺ヒマス

斯ノ如ク今日ノ社會狀態ヨリ見マシテ、吾々ハ治安維持法ノ爲ニ、新ナル色々ノ取締法規ノ制定デアアルトカ、或ハ又既存法律ノ改正ナドヲ要求スルノ、已ムナキ場合ニ迫ラレテ居ルノデアリマスルガ、併シ本來カラ申シマスルト云フト、取締官憲ノ方デハ、取締法令ガ網ノヤウニ張り詰メラレテ居ルト云フコトハ、便利且ツ重寶ナコトニ違ヒアリマセヌケレドモ、取締マラレル吾々國民ノ側カラ見マスルナラバ、刑罰法規ノ氾濫ハ決シテ歡迎スベキコトデハナイノデアリマス、殊ニ官憲ガ實際ニ於テ、如何ニ是等ノ法令ヲ應用スルカト云フ點ニ付テハ、法ガ多ケレバ多イ程、法ガ嚴ナレバ嚴ナル程、吾々ハ寧ロ多大ナル不安ヲ感ゼザルヲ得ナ

イモノガアルノデアリマス、即チ從來官憲ノヤリ方ヲ見マシテモ、果シテ公平ニ又適正ニ運用セラレタカドウカ、聊カ疑ナキヲ得マセヌ、私ハ今日ノ官憲ガ動モスレバ是等ノ取締法令ノ運用ニ當リマシテ、強者ニ怯懦デアツテ、弱者ニ酷デアツト云フコトノ事實ヲ看過スコトハ出来マセヌ、強者トハ何デアルカ、時勢ノ潮流ニ乘ル者ヲ言フノデアリマス、弱者トハ何デアルカ、時勢ニ逆行スル者ヲ言フノデアリマス、併ナガラ時勢ニ投スル者ガ必シモ正シトハ言ヘマセヌ、流行ニ逆行スル者必シモ誤テ居ルトハ申セナイノデアリマス、宜シク政府ハ嚴トシテ大所ヨリ達觀シテ、苟モ流行ニ迎合シ、俗論ニ阿諛セントスル如キ態度ヲ、斷ジテ執ルベキデハナイト信ズルノデアリマス(拍手)此際本法ノ如キ取締法規ノ運用ニ付テ、總理、司法、内務ノ各大臣ヨリ、明確ナル方針ヲ表示セラル、コトガ、必要デアラウト存ズルノデアリマス

最後ニ私ハ治安維持法ニ付キマシテ司法當局ノ御所見ヲ伺ヒタイ一點ガアリマス、即チ本改正案ヲ拜見致シマスルト、昨年御提出ニナツタモノト大體同ジデアリマスケレドモ、最モ重大ナル相違ハ豫防拘禁ト云フ條項ヲ削除シタ點デアアルノデアリマス、豫防拘禁ハ、刑ノ滿了シタ後デ、裁判ノ手續ヲ經ズシテ、尙ホ身體ヲ拘束スルト云フ制度デアアルノデアリマシテ、昨年委員會ニ於キマシテモ、委員ノ多數ノ諸君ハ之ニ反對ノ意見ヲ持タレテ居ッタノデアリマス、併シ司法當局ハ極力之ヲ維持センコトニ努メ、吾々ハ此治安維持法ナルモノハ、所謂非常立法デアリマシテ、殊ニ豫防拘禁ニ付セラレル者ハ、本法第三條、第四條、即チ我方國體ヲ否認セン

トスル大逆不道ノ徒輩ニ限ラレルト云フ點デアアルコトニ鑑ミマシテ、遂ニ政府ニ向ッテ同意ヲ致シタノデアリマス、而シテ此改正案ガ後ニ兩院協議會ニ付セラレマシタ時ニ於テモ、是ハ最モ重大ナル爭點デアッタノデアリマス、司法當局ハ其際議場ニ於ケル發言デハナカッタノデアリマスガ、此豫防拘禁ノ條項ヲ削除サレル位ナラバ、寧ろ本改正案ノ不成立ヲ希望スルトマデ極言致シタノデアリマス、斯ノ如ク熱心ニ、執拗ニ、固執セラレタル此條項ヲ、本年ニ至リマシテ卒然トシテ之ヲ撤回セラレマシタ司法當局ノ眞意ヲ伺ヒタイ、最近某事件ニ關シテ人權蹂躪ノ問題ガ起リマシテ、今日院ノ内外ニ喧シク論議セラレテ居リマス、而シテ有體ニ申シマスレバ、是マデ警察ヤ檢事局ニ於テ拷問、人權蹂躪ノ事實ガアツタコトハ、當局ガ如何ニ強辯シテ之ヲ否認シ、糊塗セラレマシテモ、世人ハ之ヲ信ジマセヌ(拍手)就中治安維持法關係ノ取調ニ於キマシテハ、隨分忌ハシイ噂モ耳ニシテ居ッタノデアリマス、世間ニハ人權尊重ト云フコトニ付テ、餘リ關心ヲ有タナイ人ハアルカモ知レマセヌ、又犯罪ノ取調ハ、多少人權蹂躪デモシナケレバ出来ナイダラウト思ッテ居ル人モアルカモ知レマセヌ、或ハ又罪ヲ犯シタリ、少クトモ犯罪ノ嫌疑ヲ受ケタリシタ以上ハ、多少ノ人權蹂躪ヲサレテモ仕方ガナイヂヤナイカト云フヤウナコトヲ思フ人モアルカモ知レマセヌ、併シ警察、檢事局ニ人權蹂躪ノ事實ナシト考ヘル人ハ、恐ラク天下一人モナイデアリマセウ、法治國ニ於キマシテハ、犯罪ノ取調ニハ自ラ法則ガアリマス、刑罰ハ自ラ法律ニ定テ居リマス、其犯狀ガ如何ニ憎ムベキモノガアリマ

シテモ、之ヲ以テ人權ヲ蹂躪スル正當ナル理由トハナラナイノデアリマス、思フニ司法當局モ亦之ヲ悟ッタノデアアリマセヌカ、豫防拘禁ト云フヤウナ制度ヲ設ケテ置ケバ、立法者ノ豫期シナカッタ人權蹂躪ガ起ルデアラウト云フコトヲ悟ッテ、今回之ヲ削除サレタノデアアリマセヌカ、若シ然リト致シマスナラバ、甚ダ悅バシイコトデアリマシテ、願クハ左様ナル御考ヲ他ノ幾多ノ刑罰法令ノ立法、及運用ニモ思及ボシテ戴キタイノデアリマス、重ねテ申上ゲマス、私ハ豫防拘禁ノ削除サレタコトニ、決シテ異論ヲ挾ム意味デハアリマセヌ、唯司法當局ノ豹變ノ餘リニ甚シイコトニ不審ヲ持チマシタガ故ニ、敢テ此質疑ヲナシテ司法大臣ノ所見ヲ伺ッタ次第デアリマス、以上申上ゲタ諸點ニ付テ、ソレノ各大臣ヨリ御答辯ヲ得タイト存ジマス(拍手)

○國務大臣(小原直君) 本日提案ニナリマシタ治安維持法改正法律案、竝ニ不法團結等處罰ニ關スル法律案ノ二案ノ提案ノ遅レマシタニ付テ、立川君ヨリ特ニ總理大臣ニ御質疑ニナツタノデアリマスガ、主管大臣タル私カラ御答ヲ申上ゲタイト思ヒマス、御述ニナリマシタヤウニ、治安維持法改正法律案ハ、第六十五議會ニ提案セラレマシテ、結局審議未了ニ終ッタノデアリマス、此度提案致シマシタ法律案ハ、昨年ノ案ノ中カラ豫防拘禁ニ關スル制度ヲ除キマシテ、多少ノ字句ノ修正ヲ致シタ儘、提案スルニ至ッタノデアリマス、ソレ故ニ此法案ノ準備ニ付キマシテハ、疾クニ出来テ居ルベキ筈デアルト云フ御説ハ御尤デアリマス、唯此法律案ニツノ提案ガ遅レマシタノハ、昨

年ノ第六十五議會ノ際ノ衆議院竝ニ貴族院ニ於ケル御論議ニ鑑ミマシテ、殊ニ又當今ノ時勢ニ鑑ミマシテ、ドウシテモ此不法團結等處罰ニ關スル法律ヲ制定致シテ、同時ニ提案スルコトガ、最モ時宜ヲ得タモノト考ヘタノデアリマス、ソレ故ニ不法團結等處罰ニ關スル法律案ノ制定ニ當リマシテ、内務省當局トモ協議ヲ致シテ居ッタノデアリマスルガ、色々ノ點ニ於テ所見ノ異ルモノモアリマシテ、彼此レ論議ヲ盡スニ暇取ッテ、漸ク兩省ノ協議ガ出来テ、成案ヲ得マシテ、茲ニ提案ヲスルニ至ッタノデアリマス、其爲ニ提案ガ遅レマシテ、自然御審議ニ御差支ノ生ズルコトニ至リマシタ段テ居ル次第デアリマス

第二ニ、茲ニ提案シタ二ツノ法律案ノ外ニ、更ニ所謂怪文書等ノ出版物ヲ取締ル法律ヲ提出シテ、現下ノ社會不安ヲ除クコトガ必要デハナイカト云フ御話デアリマシタ、此點ニ付キマシテモ、司法省ト内務省ト協議ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、何か是等ニ關スル適當ノ法案ヲ作りマシタ上、若シ成案ヲ得マシタナラバ、速ニ此議會ニ提案ヲ致シタイト思ッテ、目下準備中デアリマス、次ニ御尋ニナリマシタ刑罰法ノ運用ニ付テハ、取締ラル、者ノ不安ヲ考ヘケレバナラヌデハナイカト云フ御尋デアリマス、洵ニ御尤ノコトデアアルノデアリマシテ、取締法殊ニ此刑罰法規ノ運用ヲ誤リマシタナラバ、之ヲ受クル者ノ身體、自由、財産等ニ對スル不安ガ、著シイコトデアアルノデアリマスカラ、法ヲ執ル者ニ於キマシテハ、苟モ誤リナキコトヲ期サナケレバナ

年ノ第六十五議會ノ際ノ衆議院竝ニ貴族院ニ於ケル御論議ニ鑑ミマシテ、殊ニ又當今ノ時勢ニ鑑ミマシテ、ドウシテモ此不法團結等處罰ニ關スル法律ヲ制定致シテ、同時ニ提案スルコトガ、最モ時宜ヲ得タモノト考ヘタノデアリマス、ソレ故ニ不法團結等處罰ニ關スル法律案ノ制定ニ當リマシテ、内務省當局トモ協議ヲ致シテ居ッタノデアリマスルガ、色々ノ點ニ於テ所見ノ異ルモノモアリマシテ、彼此レ論議ヲ盡スニ暇取ッテ、漸ク兩省ノ協議ガ出来テ、成案ヲ得マシテ、茲ニ提案ヲスルニ至ッタノデアリマス、其爲ニ提案ガ遅レマシテ、自然御審議ニ御差支ノ生ズルコトニ至リマシタ段テ居ル次第デアリマス

ラスト思フノデアリマス、政府ニ於キマシテハ是等ノ點ニ付テ、常ニ深甚ノ注意ヲ致シテ居ルノデアリマス、今後ト雖モ此度改正法案ノ制定ヲ得マシタ後ニ於キマシテハ、其運用ニ付テハ出來ルダケ注意ヲ致シマシテ、社會ノ不安ヲ除クコトハ勿論必要デアリマス、是方爲ニ取締ヲ受クル者ノ不安ヲ増大スルヤウナコトノナイヤウニ、十分ナル注意ヲ致ス覺悟デ居ルノデアリマス、次ニ御尋ニナリマシタ點ハ、治安維持法改正法律案ノ中カラ、豫防拘禁ノ制度ヲ取除イタコトハ、頗ル賛成ヲスルノデアリガ、昨年之ヲ提案ヲシナガラ、今年此法案ノ中カラ此制度ヲ取除クト云フコトノ豹變振リハ、甚ダヲカシイデハナイカ、何故ニ急ニ斯ノ如キモノヲ取除イタノデアアルカト云フコトノ御尋デアリマス、治安維持法違反事件ノ被告人、犯罪人等ヲ處罰致シマシテ、其改過遷善ヲ圖リマスル爲ニハ、一面ニ於テ相當ノ刑期間之ヲ拘禁シテ、其思想ノ根本カラ正シテ直シテ行カナケレバナラスノデアリマス、然ルニ偶、刑ヲ受ケマシタ者ガ、刑務所ニ入ッテ居リマスル間ニ、當局トシテ色々手段ヲ盡シテ、其改過遷善ニ努メマシテモ、尙ホ十分ナル效果ヲ擧ゲズシテ、遂ニ刑期ヲ終ッテ刑務所カラ出ナケレバナラスヤウナ状態ニナル者ガ若干アルノデアリマス、是等ノ者ヲ其儘社會ニ出シマシテ、再ビ同一ノ犯罪ヲ繰返サユウナコトガアリマシテハ、社會ニ流ス毒ガ甚シイノデアリマス、スルカラ、ソコデ昨年提案致シマシタ際ニハ、斯様ナ者ニ對シテハ所謂豫防拘禁ノ制度ヲ設ケテ、二年内行政處分ヲ以テ之ヲ拘禁スルコトガ必要デアラウト云フコトデ、案ヲ定メ

タノデアリマス、然ルニ衆議院ニ於キマシテハ結局御同意下スツテ、原案ノ儘通過致シマシタガ、貴族院ニ於テ修正ヲセラレ、結局兩院協議會ニナツテ、案ガ不成立ニナツタノデアリマス、其際ニ於ケル貴衆兩院ノ御論ノ在ル所等ヲモ司法省トシテハ十分拜察ヲ致シマシテ、本年治安維持法改正案ヲ議スルニ當リマシテハ、此豫防拘禁ノ制度ハ、當時モ議論ノアリマシタ之ヲ行政ノ處分ヲ以テ致スコトハ、甚ダ宜シクナイコトデアアル、固ヨリ裁判所ガ裁判ニ依ツテ、改過遷善致サズシテ釋放セラル、者ニ對シテ、一定期間豫防拘禁ヲ言渡スノデアレバ、ソレハ差支ナイト思ヒマス、裁判ニ非ズシテ、行政ノ處分デ左様ノ人身ノ拘束ヲスルト云フコトハ、假令法律ニ規定ヲ致シテヤルコトニ致シテモ、好マシクナイコトデアルト云フコトニ考ヘ及ボシマシテ、今回ハ特ニ此制度ヲ止メテ、本案ノ如キ提案ヲ致シタ理由デアリマス、要スルニ行政處分等ニ依ッテ斯様ナ拘束ヲ致シマスルコトハ、御説ノ如ク或ハ若シ間違ガアツテモ相成ラヌコトデアリマス、謂ハハ人身ノ保障ヲ重ンジテ、斯ノ如キ制度ハ若シ立テラナラ、後日ニ於テ適當ナ案ヲ具シテ立テラ宜カラウト云フコトデ、一先ヅ是ハ提案ヲ見合シタ次第デアリマス、以上御質疑ノ次第ヲ御答辯申上ゲマス

〔國務大臣(後藤文夫君) 只今立川君カラ御尋ノ諸點ニ關シマシテハ、司法大臣カラ大要御述ガアリマシタノデ、私ハ簡單ニ御答ヲ申上ゲテ見タイト存ジマス、不法團結等處罰ニ關スル法律案ノ立案、審議ニ當リマシテ、内務司法兩省ノ間ニ篤ト協議ヲ遂ゲタ經過ハゴザイマス、併ナガラ内務當局ニ於キマシテモ、今日ノ時勢ニ顧ミマシテ、司法大臣ガ提案ノ理由トシテ述ベラレマシタ通りノ趣旨ヲ以チマシテ、此法案ノ提案ヲ必要ト考ヘタノデアリマス、警察ノ實際ノ力ノ適正ナル運用ト相俟チマシテ、社會ノ不安ヲ不法ニ脅カサル、事態ヲ豫防シ、又之ヲ出來得ルナラバ一掃ヲ致シマシテ、人心ノ安定ヲ得ルヤウニ努メタイト考ヘテ居ルノデアリマス、次ニ出版物ノ中、殊ニ怪文書等ノ取締ニ關スル法律ノ立案ノコトニ付キマシテハ、只今司法大臣カラ御述ニナツタ通りデアリマス、折角色々ト攻究ヲ致シテ居リマス、内務、司法兩省ノ間ニモ協議ヲ致シテ居リマス、何分ニモ出版法、刑法、刑事訴訟法等、各般ニ互リマシテ、餘程立案ニハ困難ナ點ガ澤山アリマス、只今マダ成案ヲ得ルト云フ運ビニ至ツテ居ラナイノデアリマス、尙ホ是等ノ出版法ノ中ニ付キマシテハ、現在ノ法規ニ於キマシテ、取締ガ相當ナ程度ニハ出來得ルコトニナツテ居リマスルケレドモ、實際ノ取締トシテハ、頗ル實情ニ於テハ困難ヲ感ズル點ガ多イコトヲ遺憾ト存ジテ居リマス、是ハ單ニ法規ヲ立案スルコトニ依ツテノミ、十分ニ取締ガ出來ルト云フ譯ニハ參リ兼ネルト思ヒマ

カト云フコトニ付キマシテハ、只今司法大臣カラ御述ニナリマシタ通りデアリマシテ、特ニ申上ゲルコトモナイト思ヒマス、尙ホ更ニ一面ニ於テハ取締ノ法規ヲ用フルノニ、極メテ嚴正デ公平ニ、一方ニ偏スル所ナク、之ヲ公正ニ、而モ強ク用ヒテ行カナケレバナラスデハナイカト云フ御尋デアリマシタ、私モ洵ニ左様ニアラネバナラスト考ヘマス、大要以上ヲ以テ御答ト致シマス

○立川平君 簡單デアリマスカラ、此席ヨリ御許シテ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○立川平君 私人質疑ニ對シマシテ總理大臣ヨリ御答辯ノナカッタコトハ、甚ダ遺憾トハ思ヒマス、其席ニ在ッテ御聽キ下サツタノデアリマスカラ、私ガ質疑中ニ申上ゲタ事柄ニ付テハ、將來十分御注意アラシト望ミマス、出版物ノ取締ニ付テ、現在法令ガ既ニ不完全ナルコトヲ認メラレマシタ以上ハ、速ニ立案シテ議會ニ提出セラレシコトヲ希望致シマシテ、以上ハ他日ノ機會ニ讓ツテ、私ノ質疑ハ是デ打切りマス

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者三上英雄君

〔三上英雄君登壇〕

○三上英雄君 茲ニ政府ガ治安維持法ノ根本的改正案ヲ提出シテ、萬國ニ卓越致シテ居リマス、我が國體ノ尊嚴ヲ維持發揚スルコトニ萬端算ナキヲ期セントセラレルト云フコトハ、私ノ最モ贊意ヲ表スル所デアリマス、而シテ私ハ此機會ニ於テ、治安維持ノ重責ニ當リテ居ラレル所ノ内務大臣、竝ニ總理大臣ニ御尋申シ、且ツ閣僚諸公ノ御賢慮ヲ煩サナケレバナラス出題ガアルノデ

アリマス、私ハ個人ト致シマシテハ、洵ニ御氣ノ毒ニ感ズルノデアリマスケレドモ、公義ハ私情ヲ没ス、我が國家ノ大義ヲ正スガ爲ニハ、忌憚ナク御質問申上ゲルノ已ムナキヲ御諒承願ヒタイノデアリマス、尙ホ私ノ執誠ノ逆ル所、又野人禮ニ嫻ハザルガ爲ニ、用語ニ於テ不穩ナルモノガアルヤモ知レマセヌカラ、左様ナル場合ニ於テハ、諷シク取消訂正致スコトヲ豫メ御諒解ヲ願フテ置キタイノデアリマス、君子ハ其人ヲ以テ其言ヲ廢テズト申シマス、私ハ議員生活最モ淺キ一人デアリマスケレドモ、忠誠ノ赤心ヲ以テ、曩ニ質問セラレタ方ノ後ヲ承ケテ、内相ニ御尋致シ、以テ治安維持ノ締督者タル内相ガ、我が皇室ヲ尊崇シ、我が國體ヲ擁護スルノ範ヲ自ラ示サレルノ實ニ付テ、其御決意アリヤ否ヤト云フコトヲ御問ヒシナケレバナラスノデアリマス

ラスト信ズルノデアリマス、然レニ若シ國務大臣ガ自ラ當然責任ヲ執ルベキモノアルニ拘ラズ、何等其途ニ出デズ、恬然之ヲ抛擲スルニ於テハ、其事自體ガ、一般國民ノ思想上甚シキ惡影響ヲ來シ、本法ニ依ッテ尊崇擁護セントスル皇室、國體ニ對シテモ、遺憾ナガラ影響ヲ來スコトハ必然デアルト言ハザルヲ得ヌノデアリマス(拍手)首相、内相ニシテ治安維持法ヲ改正シ、其目的達成ニ付キ完璧ニ近カラシメントシマスナラバ、本院ニ協贊ヲ求メラル、前ニ、先ヅ國務大臣ノ責任、皇室ニ對スル忠誠、國體尊重ノ至誠ヲ自ラ國民ニ實踐躬行シテ、範ヲ示サレルコトガ最先ノ急務デアルト信ズルノデアリマス(拍手)

リマシマス、國民代表ノ府タル本議場ニ於テハ、未ダ拜聽スルノ機會ガナクタト存ジテ居リマシマス、特ニ此點ニ付キマシテ、國民ニ對シ明確ニセラレ、其嚮フ所ヲ示サレシコトヲ熱望申上ゲル次第デアリマス、是ヨリ私ガ進シテ首相、内相ニ問ハントスル問題ハ、昨年十一月群馬、栃木、埼玉三縣ニ跨ル陸軍特別大演習ガ無事ニ終了セラレタ後ニ於テ、地方行幸ノ御警衛上未曾有ノ大失態ヲ惹起シタル鹵簿誤導事件デアリマス、事ハ既ニ三箇月前ニ屬スルコトデアリマスケレドモ、未ダ國務大臣ノ責任ニシテ明ニセラレザル以上ハ、今尙ホ現實ノ憲法上ノ大問題ト言ハネバナラヌト考ヘルノデアリマス、先ヅ誤導事件ノ内容ヲ申上ゲマス、前橋行在所ニ御駐輦中ノ

出迎申上ゲタノデアリマス、元來本町カラ高等工業學校マデノ御順路ハ、同校ヨリ御歸リノ御順路デアアル爲ニ、沿道奉迎ノ人々ハ、通御マデ一時間モ間ガアルト思ッテ居リマシタノデ、整理モ付カズ、ザハマイテ居タノハ、殊ニ畏多キコトデアッタノデアリマス、更ニ畏多キ極ミハ、天皇陛下ニ於カセラレマシテハ、是ガ爲ニ桐生驛御發車ノ御豫定ヲ、十三分間モ遅レサセラレマシタノデ、失態ハ益々重大トナツタノデアリマス、斯ノ如ク鹵簿先驅ノ過失ニ依リ、畏クモ御順路ヲ突如御變更ノ已ムナキニ立至リ、御途中ノ御警衛ヲ初メ、奉迎ノ高等工業學校ニ於テハ、突然ノ御變更ニ周章狼狽シタノデアリマス、斯ル重大過失ハ未曾有ノ事デアリマシマス、勿論デアリマシマス、其爲メ、陛下ニハ午前九時四十六分高工御著後、同校ニ於ケル御豫定時間ヲ二十分間モ多ク過サセラレタル後、西小學校ニ行幸、次デ消防組ヲ御親閱遊バサレ、御召列車桐生驛御發車ハ御豫定ヨリ十三分間モ遅レテ、午前十一時二十九分ニ足利ニ向ハセラレタノデアリマス、此鹵簿誤導ノ爲メ、御歸途御通御ニ相成ルコトニナツテ居タク沿道約二十町ノ間ハ、通御相成ル御豫定時間ガ十分ニハ通御濟ト相成リ、一時間餘モ俄ニ繰上ツタノデ、ソレガ爲メ沿道拜觀者ノ堵列ハ未ダ成ラズ、群衆中ニハ帽子ヲ冠リ、鉢巻ヲ爲シ、頰冠リヲシ、裾ヲマクリ、蹠蹠ンダリ、胡坐ヲカイタリ、後ノ向キニナツテ居ル者ガアル等、喧々囂々洵ニ不體裁ノ極ミヲ呈シタノデアリマス、警戒ノ巡查スラ休憩ノ姿デ足ヲ伸ベ、煙草ヲ燻ラシテ居ッ

其協贊ヲ求メラレマシタル第五十回ノ帝國議會ニ於テ、時ノ若規内務大臣ハ其提案理由ト致シマシテ、無政府主義者、共產主義者、其他各種ノ社會運動ニシテ過激ナル思想ヲ有スル者等ガ、帝國ノ治安ヲ紊ルノ目的ヲ以テ、不穩ナル行動ニ出ヅルノ傾向益々増加スル云々、本法案ノ内容ハ萬世一系ノ皇室ヲ奉體シテ居ル帝國ノ國體ヲ變革シタルガ如キヲ戒メ、又豫防セントスルノガ本案ノ目的デアルト説明セラレタノデアリマス、之ニ依ッテ見マス、政府當局ガ我が榮譽アル國體ヲ擁護センガ爲ニ、斯ノ如キ非常立法ヲ爲シ、今又茲ニ是ノ目的完成ノ爲ニ此修正案ヲ出サレニ付テハ、固ヨリ其效力ヲ現ハスノ決意ト用意トガナクテハナ

私ハ論ヲ進ムル上ニ、先ヅ首相ニ御質問申上ゲタイト思フノデアリマス、本法ハ國體ノ變革ヲ處罰スルコトヲ重要ナル目的トシテ居ルモノデアリマスガ、我が國體ガ金匱無缺ノモノデアッテ、尊嚴窮リナキモノデアルコトハ、國民ノ何人モ疑ハナイ所デアリマス、隨テ國體ニ付テ言議ヲ用フルコトハ全ク私ノ本意トセザル所デアリマス、併ナガラ國民ノ一部ニ於キマシテ、遺憾ナガラ無政府主義、共產主義ヲ信ジテ、不逞ヲ爲ス者ガアル爲ニ、此治安維持法ヲ必要トセラレルニ至ツタ理由、竝ニ最近貴族院ニ於ケル議政壇上ニ於テ、畏クモ、天皇ノ御本質ニ付テ彼此レノ説ガ行ハル、ノ已ムナキニ至ツタ所ノ現象、尙ホ現内閣ハ十大政綱中ニ、國體觀念ヲ明確ナラシムル必要ガアルト聲明セラレテ居ル點等ニ鑑ミマシテ、此際國體ノ本質ニ付テ首相ノ御信念ヲ疑ハネバナラヌノデアリマス、首相ハ貴族院ニ於テ此點ニ付キ所信ヲ述ベラレテ居ルノデア

天皇陛下ニハ、畏多クモ十一月十六日、午前九時四十分桐生驛御著、機織天覽場デアリマシマス、西小學校、次デ桐生高等工業學校ニ成ラセラル、御豫定デ、鹵簿ハ桐生驛カラ御順路路末廣町二丁目千八百五十七番地先ノ十字路ヨリ左折シ、西小學校ニ向ハセラレル御豫定ノ所、報告員ノ乗用車ト先觸員ノ乗用車トノ二ツノ車ハ、御豫定ノ御順路通りニ通過シタノデアリマスガ、其後ニ續ク本多警部、見城警部ノ乗ッテ居ル警察官乗用ノ先驅自動車ハ後續セズ、末廣町カラ左折スベキヲ、郵便局前ヲ通り、本町通リニ直行シタ爲ニ、畏多クモ、聖上陛下ノ御車モ、其通りノ御道筋ヲ通御アラセラレ、其儘桐生高等工業學校ニ著御遊バサレタノデアリマス、同校デハ御豫定ヨリ三十分モ早カッタノデ、二階デ休憩中ノ松田文相ハ、遂ニ玄關先ニ御出迎スルノ暇ナク、朝比奈文部書記官、田中事務官、西田校長ガケガ御

御車モ、其通りノ御道筋ヲ通御アラセラレ、其儘桐生高等工業學校ニ著御遊バサレタノデアリマス、同校デハ御豫定ヨリ三十分モ早カッタノデ、二階デ休憩中ノ松田文相ハ、遂ニ玄關先ニ御出迎スルノ暇ナク、朝比奈文部書記官、田中事務官、西田校長ガケガ御

タ者モアツタ程デ、固ヨリ嚴肅ニ氣ヲ付ケノ
姿勢デ、拜觀者一同ガ最敬禮ノ爲シ様ガナ
カッタノデアリマス、唯アツト云フ間ニ鹵簿
ハ疾風ノ如ク通り去ラレタノデ、醇朴ナル
拜觀者ハ今ノガ鹵簿ダ、イヤソシナ筈ハナ
イ、第一時間方違ヒ、ソレニ方向ガ違ヒタ
ハナイカナド、取留メモナイ口争ヒガ續
ケラレタノデアリマス、洵ニ畏多キ次第
アリマシク

次ニ鹵簿誤導ノ原因ヲ私ハ申上ゲタイト
思ヒマス、然ラバ此鹵簿誤導ノ不祥事ハ如
何ニシテ惹起サレタノデアルカ、其理由ヲ
考ヘマスルニ、是ハ決シテ不可抗力ニ非ズ
シテ、過失怠慢ニ因ルモノト言ハナクテハ
ナラスノデアリマス、世間動モスレバ鹵簿
ノ誤導ハ、御案内申上ゲベキ順路ガ前後シ
タノミデ、些ノ實害モ伴フテ居ラナイ、唯勅
裁ヲ仰イデ決定シタル御豫定ヲ、突然無斷
デ變更セル一點ガ相濟マヌ次第デアルケレ
ドモ、元來突發ノ過失ニ屬シ、致方ナシト
爲ス者ガアリマスケレドモ、事件ノ經過眞
相ヲ検討スレバ、決シテサウデハアリマセ
ヌ、私ハ桐生ニ參リマシテ、親シク現狀ヲ
詳細視察シ、又市民ニ就キ種々實情ヲ調査
シタノデアリマスルガ、如何ニモ重大ナル
失態ト申スノ外ハナイノデアリマス、内務
大臣ハ臨時議會並ニ本議會ニ於ケル我黨代
議士ノ質問ニ對シテ、種々言葉ヲ連ネ飾ッ
テ居ラレマスケレドモ、仔細ニ考ヘマスル
ト、之ヲ一片ノ過失トシテ看過スルコトハ
固ヨリ出來ナイノデアリマス、茲ニ其理由
ヲ簡單ニ申上ゲマスレバ、第一ニ前ノ二ツ
ノ車ハ正シク進ンデ居ルノデアリマス、即
チ此日鹵簿ノ先頭ニ立ツタル報告員ノ乗用
車ト先頭員ノ乗用車トハ、共ニ御豫定通り

ニ御順路ヲ通過シタノデアアル、然ルニ其次
デアリマスル所ノ本多、見城兩警部ノ乘込
ム所ノ先驅自動車ガ、其後ヲ續カズシテ誤
マレル道ニ進ンダト云フコトハ、此一點ニ
於テ過失ト言ハンヨリモ、全ク申譯ノナイ
怠慢ト言ハナケレバナラスノデアリマス
〔簡單ト呼フ者アリ〕尙ホ此機會ニ私ハ
簡單ニト云フコトデアリマスルケレドモ、
此問題位私ハ重大ナル問題ハナイト考ヘル
ノデアリマス〔其通り〕ト呼フ者アリ〕殊ニ
事ハ皇室ニ關シ、治安維持ト云フ國體ニ關
聯致シテ居リマスルシ、尙ホ又私ハ斯ウ云
フ點ヲ明ニスルト云フコトハ、本當ニ國民
ノ代表者トシテ議政壇ニ立ツ者ノ責任ヲ
果ス所以デアアルト考ヘルノデアリマス〔拍
手〕第二ニ、本多警部ハ不適任デアッタノ
デアリマス、此千載ノ一遇トモ言フベキ御
先驅ノ光榮ヲ擔ハシメラレタル本多警部ハ、
三四年前警部トシテ不適任ナルノ故ヲ以テ
免官セラレテ居ッタ者デアリマス、ソレヲ久
保田警察部長ガ更ニ復職セシメテ、衛生
課ノ次席ニ勤務サセタノデアアル、即チ
警官トシテ缺陷ガアルト言ハレルヤウ
ナ人ヲ、此重要ナル先驅ノ任ニ當ラシ
メタト云フ其點ニ於テ、大ナル責任ヲ生ジ
テ來ルノデアリマス、第三ニ、豫行ニ加ハ
ラナカッタ者ニ變更シテ居ルノデアリマス、
桐生ニ於テ鹵簿ノ練習ヲシタ警官ヲ、其前
夜急ニ變更シテ、全然豫行練習ニ加ハラザ
リシ久保田警察部長ノ寵兒、本多警部ヲシ
テ之ニ當ラシメタノデアアル、是レ斯ル重大
ナル任務ニ付キ、私恩ヲ賣リ、私情ニ因ッテ
變更決定シタモノデアツテ、言語ニ絶スル輕
舉不謹慎ノ行爲ト言ハナクテハナラスノデ
アリマス、第四ニ、知事ト部長トノ對立ガ

此因ヲ成シテ居ルノデアリマス、金澤群馬
縣知事ト久保田警察部長トハ、常ニ對立抗
争ノ状態ニ在リ、警察部長ハ私心ヲ以テ職
務上ニ於テモ行動シテ居ッタト云フ事實ガ
アルノデアリマス、此御先導ノ役ノ任命變
更ノ如キ、即チ其現レノ一ツデアツテ、此悲
ムベキ不祥事ノ生ズル間隙モ、茲ニ存スル
ト言ハネバナラスノデアリマス、第五ニ、
不適任者ヲ簡拔シタコトニナルノデアリマ
ス、若夫レ當日桐生市民ノ熱誠ヲ罩メタル
奉迎振リガ盛大華麗ヲ極メテ、本多警部等
ハ爲ニ精神興奮シ、又緊張度ヲ失シテ、先
行ノ自動車スラ之ヲ見忘レテ、順路ヲ誤ッ
モノトスレバ、態々斯ル人物ヲ簡拔シテ此
重任ニ當ラシメタコトガ、是亦其人選宜シ
キラ失シタルモノデアツテ、縣當局ノ甚シ
キ落度ト言ハナケレバナラスノデアリマ
ス、第六ニ、標示方法ヲ缺イテ居ルノデア
リマス、本來斯ル不祥事ヲ發生セザルヤウ
ニ鹵簿ノ左折セラルベキ所ヲ、十字路ノ正
面、即チ立派ナル五間道路ヲ一時塞グコト
ガ、交通整理上當然デアアルノデアリマス、
即チ末廣町先、郵便局手前ノ十字路ヲ左折
シテ入ルベキ永樂町ハ三間道路デアツテ、其
兩側ニハ鹵簿拜觀者ノ立竝ブコトヲ禁ジタ
程ニ狭イ道路デアリマス、隨テ此十字路ヲ
左折セシムル爲ニハ、正面道路ヲ一時警察
官又ハ化粧繩ヲ假ニ塞ガネバナラナカッタ
ノデアアル、恰モ昨今貴衆兩院ノ周圍ニ櫻棒
携帯ノ巡查ヲ配置シテ居ルガ如キ、此程度
ノ勞ヲ以テ足ツタノデアリマス、是等ノ遮
斷方法ヲモ怠ツタ爲ニ、急ギノ場合右先驅
自動車ガ左折セズシテ、正面ヲ突破スルニ
至ツタノデアリマス、或ル意味ニ於テハ此
怠慢ガ抑、誤導ノ第一原因トナツタノデアアル

ト謂ハナクテハナラスノデアリマス、他ノ
場合ニ於ケルガ如ク精一杯ノ警戒ヲ爲シ、
尙且不慮ノ棒事ノ發生ヲ見タトハ、其性質
責任ヲ異ニスルノデアリマス、第七ニ警察
經驗者タル内相ノ責任ハ更ニ重イト云フコ
トヲ、私ハ感ジテ居ルノデアリマス、群馬
縣廳ノ監督者ハ内務大臣デアアル、由來歷代
ノ内務大臣ハ殆ド警察事務ノ經驗ガナイノ
デアリマス、即チ山本、一木、原、水野、
後藤新平、床次、中橋、若槻、望月、濱口、
安達ノ諸氏カラ更ニ遡ッテ平田、末松、西
郷從道、板垣、芳川、野村、品川、山縣ノ
諸公ニ至ルマデ何レモ然ラザルハナイノデ
アリマス、其間獨リ異彩ヲ放ツ警察經驗者
ハ、大浦氏ト後藤氏ノミデアリマス、後藤
氏ハ青森縣警察部長ヲ務メ、更ニ内務省警
保局長ニ擧用セラレタ人デアアル、今ヤ此後
藤氏ハ内務大臣ノ現職ニ在リ、地方行幸ノ
御路順ハ能ク眼ヲ通シテ然ル後ニ勅裁ヲ仰
イダモノデアリマス、而モ此人ニシテ詰襟
ノ扈從服ヲ著用シ、御召列車ニ陪乘シ、身
自ラ到ル處ノ行幸地デ御警衛ノ總指揮官ヲ
務メタノデアリマスカラ、我等臣民ハ絶大
ナル信賴ヲ抱イタノデアリマス、恐ラクハ
聖上陛下ニ於カセラレマシテモ御意ヲ安
ンジ給ヒシコト、恐察シ奉ルノデアリマ
ス、然ルニ何事デアリマセウカ、此人ノ總
指揮ノ下ニ此失態ガ演ゼラレタノデアリマ
ス、後藤氏ト相竝ブ警察經驗者デアアル大浦
氏ハ、警察事務ニ於テハ失敗シナカッタノ
デアリマスルガ、獨リ壯年氣鋭ノ後藤氏ニ
シテ此大失態ヲ起スニ至ツタコトハ、何ヲ
以テカ 至尊ニ對シ奉ラントサレルノデア
リマセウ

次ニ鹵簿誤導ノ影響ヲ私ハ申上ゲタイノ

デアリマス、斯ル未會有ノ不祥事ヲ惹起シタ爲ニ、次ニ申上ゲルガ如キ恐懼ニ堪ヘザル事態ヲ發生致シタノデアリマス、第一ニ謹謝式ヲ行ツタノデアリマス、群馬縣ハ南朝ノ忠臣新田義貞、勤王ノ志士高山彦九郎ヲ出シタ由緒アル國デ、尊王ノ精神澎湃タル所デアリマス、今ヨリ四十二年、即チ明治二十六年陸軍大演習ノ砌、明治大帝ノ行幸アリシ以來久方振ノ行幸デアリマスノデ、縣民ノ車駕ヲ渴仰申上奉ルノ念ハ言語ニ盡シ難イノデアリマス、然ルニ斯ル不用意亂雜ノ中ニ車駕ヲ奉迎申上ゲ、日頃欽慕シテ已マナカッタ龍顏ヲ拜スルコトガ出來ナカッタコトハ、千秋ノ恨事ナリシハ固ヨリ、此千載一遇ノ時、眞ニ不體裁ノ限リヲ御覽ニ入レテ、申スモ畏キ不敬ニ互ツタ儀ハ恐懼慚愧措ク能ハザルコト、シテ、一週間後、市長發起ノ謹謝式ヲ開キ、桐生全市ノ總テノ動力ヲ止メテ、七万市民ハ畏クモ九重ノ雲深キ所ニ向ツテ一分黙禱遙拜シ、謹シク御託申上ゲタ事實ガアルノデアリマス、此事實ハ恐ラク總理大臣、内務大臣ハ知ラレヌコトハナイト思フノデアリマスルガ、如何ニ感ゼラレタノデアリマセウカ、第二ニ玉體ヲ危險状態ニ曝シ奉ツタノデアリマス、鹵簿誤導ノ爲ニ約二十町ノ地域ニ互ル御警衛ガ未ダ其緒ニ著カズ……

○議長(濱田國松君) 三上君ニ御注意致シマス、御止メハ致シマセヌ、質疑ニハ一定ノ範圍ガアリマス

〔根本問題デヤナイカ〕ト呼ヒ其他發言スル者多シ

○議長(濱田國松君) 靜肅ニ……
○三上英雄君(續) 只今議長ヨリ御注意ガアリマシタケレドモ、此問題ハ曩ニ質問セ

ラレテ居ルトハ言ヘ、ソレダケデハ要ヲ盡シマセヌ、大問題デアリマスガ爲ニ私ハドウシテモ之ヲ詳細ニ述ベテ、其影響範圍ヲ述ベナクテハ結論ニ到達スルコトガ出來ナイノデアリマスルカラ、御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス(其通り)ト呼フ者アリ)堵列ノデアリマス(其通り)ト呼フ者アリ)堵列亦整ハズ、全ク弛緩セル危險地帯ニ鹵簿ヲ御誘ヒ申上ゲ、畏クモ一天萬乘ノ大君ノ玉體ヲバ、或ル時間中全然危險状態ニ暴露シ奉ツタノデアリマス、幸ニ御稜威ト天佑トニ依リ御恙ナカリシハ眞ニ奉祝ノ極ミデアリマシタケレドモ、當局ハ此偶然ノ僥倖ヲ恃ンデ、絶大ノ過失ヲ糊塗スルコトハ赦サレナイノデアリマス、彼ノ決死隊ヲ送ツテ第一撃ヲ櫻田門外ニ加ヘ、第二撃トシテ戰勝祝賀中ナル上海公園ニ爆彈ヲ投ジテ、我が白川大將以下ヲ傷害シマシタ兇徒ノ一團ハ、今尙我が非常時混亂ニ乗ゼントシテ虎視眈々タルモノガアルノデアリマス、此無警戒地帯御誘導ノ一事ハ、其他緩間隙ニ對シテ、是等兇徒ノ輩ヲシテ食指大ニ動カシムル原因トナルヤモ知ラヌト云フコトヲ惧レルノデアリマス、第三ニ松田文部大臣ノ缺禮ヲ見ルニ至ツタ遺憾ナルコトガアルノデアリマス、鹵簿誤導ノ爲メ先ニ桐生高工ニ御直進遊バサレタノデ、同校著御ノ時刻ハ御豫定ヨリ約三十分早カッタノデアリマス、此不意ノ著御ノ爲ニ何人モ御車ニ御出迎申ス者モナク、畏クモ御附ノ人ノ御召車ノ「ドア」ヲ御開ケ申スコトヲ、暫クノ間御躊躇申上ゲタノデアリマス、斯クスル中ニ同校ニ居合セマシタ朝比奈文部書記官、田中事務官及西田校長ノ三人ダケガ倉皇トシテ、辛ウジテ御出迎ヲ申上ゲタノミデ、肝腎ノ松田文相ハ同校ニ階ノ休憩室ニ於テ、

暖ヲ取リナガラ話ヲサレツ、アリマシタ爲ニ、遂ニ御出迎申上ゲルコトガ出來ナカッタノデアリマス、惟フニ地方ニ於テハ國務大臣ノ出張スラ珍シク、隨テ大臣滞在中ノ一舉一動ハ、巨細ヲ問ハズ地方人士ノ注目スル所デアリマス、松田文相ハ禮儀作法ヲ正シ、教育勅語ヲ軌範トスル文教ノ府ノ最高ノ長官デアリマス、當日校庭ニ集ツテ居タ二万二千ノ學生生徒環視ノ中ニ於テ、文相ガ現神ナル 陛下ニ咫尺シ奉リ、鞠躬如トシテ御出迎奉仕スル情景コソ、是等學生生徒ヲ初メ、地方人士ガ最も關心凝視セントシタ所デアツテ、教育竝ニ國民思想善導ノ爲ノ千言萬語ヨリモ、如何ニ效果ガアツタカ測リ知ルコトガ出來ナイノデアリマス(拍手)然ルニ文相ガ此缺禮ノ餘儀ナキニ至ツタノハ、洵ニ痛恨ノ極ミデアルト申サナケレバナラヌノデアリマス、第四ニ時刻遅延ノ影響ガ隨所ニ現ハレテ居ルノデアリマス、

天皇陛下ハ桐生高工ニ於テ教官ノ研究品及生徒ノ實習等ヲ天覽遊バサレテ、校庭ノ奉拜所ニ臨御アラセラレタノデアリマス、陛下ノ御前デ朝マダキ午前三時頃ヨリ、續々トシテ集ツタ東上州ノ中、小學校教員及兒童約二万二千人ガ整列シテ、龍顏ヲ拜シツ、金澤群馬縣知事ノ發聲デ、陛下ノ萬歲ヲ三唱申上ゲタノデアリマス、併シ是等ノ若キ生徒兒童ノ多數ヲバ、定刻ヨリ三十分間早ク線上ゲテ急遽整列セシムルコトハ、談決シテ容易デナイ、免ヤ角ノ爲ニ畏多クモ 陛下ノ鹵簿ハ、桐生高工デ御豫定ヨリモ二十分間長ク留マリ給ウタノデアリマス、其爲メ西小學校及新川「グラウンド」ノ消防親衛所ニ御立寄ノ時刻ハ全ク狂ッテシマッタノデアリマス、斯クテ賜謁、天覽

等ノ時刻ヲ端折ツテ、六分間切り詰メタノデアリガ、ソレデモ尙ホ御召列車ノ桐生驛發御ハ、正味十四分間遅レテシマッタノデアリ、眞ニ畏レ多キ事ト申サナケレバナラヌノデアリマス、元來此日ハ前橋ヨリ桐生、足利、太田ノ三箇所ニ行幸アリテ、四時二十分前橋ニ還幸ノ御豫定デアツタ、然ルニ最初ノ桐生ニ於テ鹵簿誤導ノアリシ爲メ、驛ノ御出發時間ガ十四分間モ遅レタノデ、ソレガ次カラ次ヘト推シ及ンダノデアリマス、併シタ刻ノ四時二分ニ前橋驛ニ還幸アラセラレタ時ニハ、全ク時間ヲ取戻シテ御豫定通りニナツタノデアリ、ソコデ如何ニシテ此時間ヲ取戻シタカト云フコトニナルノデアリマスガ、ソレハ外デモナイ、一ハ御召車ヲ急行ニシマシタ、即チ桐生驛ヲ十一時十五分ニ發御アリテ、二十分後ノ十一時三十分ニ足利驛ニ著御アラセラレベキ御豫定ナリシヲ改メテ、實際ハ十一時二十九分ニ桐生驛發御、十六分後ノ十一時四十五分足利驛著御トナツタノデアリマス、是レ例ヘバ二十時間ヲ要スル間隔ヲバ、十六時間ノ急行デ突破シタト同様デアツテ、御召列車ノ御震動モサコソト思ハレマシテ何トモ恐懼ニ堪ヘヌノデアリマス、次ニハ到ル處ノ民草ガ四十二年振リニテ 天皇陛下ヲ奉迎申上ゲル熱誠衷情ノ下ニ、作業其他ノ天覽ヲ仰グヲ以テ無上ノ光榮ト爲シ、隨所ノ官民ハ前以テ盛り澤山ノ「プログラム」ヲ編成シテ勅裁ヲ仰ギ置キ、愈、目ノアタリ天覽賜謁ヲ拜スルヤ、時ノ移ルヲ覺エズ、相成ベクハ此光榮ノ一分間ニテモ長カラシキ事ヲ熱望シテ居ツタノデアリ、然ルニ是等ニ對シテ御先導役ハ殆ド駈足同様ニ、天覽ト賜謁トヲ御急ギ申上ゲ、以テ時間ヲ回復スルノ餘儀ナキ状態デアッ

タノデアリマス、地方人士ノ失望ハ言フモ更ナリ、日頃産業、民情ノ御視察ニ深ク大御心ヲ注ガセ給フ 聖上ノ御思召モ如何ニヤ、拜察スルダニ恐懼ノ極ミデアリマス、第五ニ警察官ノ引責自殺ヲ生ジマシタ、此點ニ付キマシテハ私ガ詳シク申上ゲルコトヲ省略シマシテ、皆様新聞紙ニ於テ御承知デアリマスルカラ申上ゲマセヌ、第六ニ一試ニ新聞紙上ノ重大記事ヲ見マス 明治天皇及大正天皇ノ行幸ニ際シマシテ、稀ニ精神異常者ガ直訴ヲ圖ッテ、鹵簿ヲ冒シ奉ッタ事ガアリマシタ 今上陛下攝政官ニ在シマス御時ニ虎ノ門事件、櫻田門事件ガアツタコトハ、九千万國民ノ恐懼措ク所ヲ知ラヌ所デアリマス、然ルニ今地方無警戒ノ地ニ鹵簿ヲ誤導シテ、非常ナ危険ニ暴露シ奉リシガ如キハ、前代未聞ノ不祥事デアリマシテ、今後固ヨリ再ビアルベキ道理ハナイノデアリマス、サレバコソ此椿事起ルヤ、諸新聞ハ何レモ特筆大書シテ之ヲ特報シマシタ、蓋シ此不祥事ニ對シテ、國民純真ノ感情ヲ率直ニ流露シタモノニ外ナラナイト言ハナクテハナラナイノデアリマス、又責任者ノ處分ニ關スル記事ヲ見マシテモ、内相辭表提出カニ知事、警察部長、兩警部免官又ハ休職、内相モ責任ヲ執ラン、後藤内相進退考慮、内務當局ハ只管恐懼、調査ノ上責任者處罰「内相知事恐懼、地方行幸御終了後ニ辭表或ハ進退伺」等ト大書シテ居ルノデアリマス、以テ社會ノ木鐸、天下ノ報道機關ガ、椿事ニ對スル責任ノ容易ナラザル事ヲ認識シ、筆ヲ揃ヘテ當局ノ責任感ノ現レヲ豫測シタ事ガ窺ハレルノデアリマス

次ニ私ハ關係官吏ノ處分ニ付テ申上ゲタインデアリマス、鹵簿誤導ノ椿事ニ付キ、

金澤群馬縣知事、久保田警察部長、八木縣警務課長ハ恐懼戰慄、顔色蒼白トナリ、取敢ヘズ即時進退伺ヲ内務大臣ニ差出シタノハ尤モノ次第デアリマス

（發言スル者多シ）
○議長（濱田國松君） 靜肅ニ
○三上英雄君（續） 民政黨ノ諸君ハ此問題ニ對シテ反對ヲサレマスガ、此問題ガ如何ニ國民ノ間ノ問題トナッテ居ルカヲ御承知ナイノカ……
（發言スル者多シ）
○議長（濱田國松君） 靜肅ニ
○三上英雄君（續） 若シ諸君ガ此ノ發言ヲ妨害サレタナラバ、必ズヤ諸君ハ國民ニ信ヲ失スルデアリマセウ
（發言スル者多シ）
○議長（濱田國松君） 靜肅ニ
○三上英雄君（續） 後藤内相ハ車駕ニ陪從歸京シタル十一月十八日午後、其室ニ大森政務次官、丹羽次官、挾間人事課長ヲ集メ、關係者唐澤警保局長、宮野警務課長ヲモ加ヘテ處分會議ヲ開キ、以テ文官懲戒令ニ依リ、文官高等懲戒委員會ヲ開イテ、譴責ニ處セントスル者以外ノ關係責任官ノ處分ヲ審議セシムルコト、竝ニ處分標準ヲバ、大體後ニ申上ゲル所ニ見當ヲ置クコトニ内定シテ、直チニ此旨ヲ岡田總理大臣ニ報告シテ、岡田首相モ之ヲ納得セラレタノデアリマス、斯クテ此内定ニ基キ、形式的ニ懲戒委員會ヲ開キ、審議ノ結果、最初ノ内務大臣室決定通りニ裁決セラレタ、更ニ勅任官タル唐澤局長、金澤知事ニ對スル譴責處分ヲ加ヘテ内務省原案ト爲シ、十二月十日午前ノ持廻リ閣議ニ依ッテ、之ヲ決定發表サレタノデアリマス、即チ唐澤警保局長、金澤

知事、宮野内務省警務課長、狩野桐生警察署長ノ四名ヲ譴責ニ、久保田警察部長、八木群馬縣警務課長ノ二名ヲ、二箇月間年俸月額十分ノ一ノ減俸ニ處シタノデアリマス、此譴責ハ敢テ懲戒委員會ニ付議シタノデハナイ、單ニ内務大臣ヨリ譴責スル旨ノ一片ノ通告ヲ爲シタルニ過ギナイノデアリマス、惟フニ文官懲戒令第二條ニ依レバ、官吏ノ懲戒ヲ受クベキ場合ヲ、職務上ノ義務ニ違背シ、又ハ職務ヲ怠リタルトキ、職務ノ内外ヲ問ハズ、官職上ノ威嚴又ハ信用ヲ失フベキ所爲アリタルトキト規定シ、其第三條ニハ、懲戒ノ方法ヲ類別シテ、免官、減俸、譴責トシテアルノデアリマス、抑、該不祥事件ハ、實ニ前代未聞ニ屬シ、結果ノ重大亦言語ニ絶シテ居ルノデアリマス、是レ皆義務違背職懈怠ノ致ス所デアルカラ、其處罰ハ固ヨリ重キニ從ッテ處斷セネバナラスノデアアル、然ルニ被懲戒者六名共何レモ輕微ナル減俸、譴責處分ヲ受ケタルノミデ濟ンデ居ルノデアアル、實ニ立法ノ精神ヲ無視シ、責任ヲ輕ンズルモノト言ハネバナラスノデアリマス、内相或ハ其懲戒ノ責任ヲ文官高等懲戒委員會ニ歸セシメントセラレルカモ知レナイガ、是亦國務大臣トシテ輔弼ノ責任ヲ免レルコトヲ許サナイノデアアル、殊ニ此懲戒委員會ニ於ケル審判ノ材料トナシタル書類證據ハ、内相ノ監督ノ下ニ於テ調製提出シタルモノト解セラレルノデアルカラ、其内容ニ付テ信賴ヲ抱キ難キモノガアル、又行幸ノ前夜ニ至リテ、突如豫行演習ニ加ハラザリシ本多警部ヲ任命シタノハ、金澤知事ノ反對アルニ拘ハラズ、其變更ヲ主張シタ久保田警察部長ノ説ヲ、御警衛監督ノ爲メ現地ニ出張シテ居ッタ警保

局長ガ更迭サセルコトニ裁斷セラレタノデアリマス、此重大ナル責任アル警保局長ハ、内相ノ意思ニ依ッテ最モ輕キ譴責デ事濟ミトナッテ居ルノデアリマス、文官懲戒令ノ第六條ニ依リマス、勅任官ノ免官及減俸ハ、懲戒委員會ノ議決ヲ具シ、内閣總理大臣ヲ奏請シ、御裁可ニ依ッテ之ヲ行フ、奏任官ノ免官ハ、懲戒委員會ノ議決ヲ具シ、内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官、即チ本件ニ於テハ内務大臣ガ之ヲ奏請シ、御裁可ニ依ッテ之ヲ行フ旨ヲ規定シテアルノデアリマス、之ニ依ッテ考ヘルト、若シ本件ノ唐澤局長、金澤知事以下ノ勅任官ヲ、懲戒委員會ノ議決ニ懸ケテ、其決議ガ免官或ハ減俸トナッタ場合ニハ、畏多クモ御裁可ヲ得ナケレバナラス、斯クテハ事態重大トナッテ、自分等ノ責任ニ近ツイテ來ルト云フノデ、首相、内相ハ局長、知事、宮野警務課長、狩野署長ヲ一存ニ依ッテ譴責ニ付シ、懲戒委員會ニ懸ケルコト……

（此時議長三上君ニ何事ヲカ注意ス）
○三上英雄君（續） 私ハ冒頭ニ申上ゲマシタ通り、本件ハ治安維持法ニ非常ニ關係ガ深い、私ノ申上ゲルコトヲ能ク御聽キニナツタラバ、疑ナイト考ヘマスガ、諸君ガ時間ヲ御急ギニナルナラバ、私ハ要點ヲ申述ベテ結論ニ進ミマス、私ノ此重大ナ問題ニ對シテ反對ヲセラレルコトニ付キマシテハ、十分ニ御考慮ヲ願ヒタイノデアリマス（發言スル者多シ）諸君ガ彌次レバ、時間ヲ要スルコトニナリマス——其一ニ存ニ依ッテ譴責ニ付シ、懲戒委員會ニ懸ケルコトヲ避ケタノデアリマス、少クトモ今日迄ノ首相内相ノ處置ニ就テ考ヘタナラバ、斯ク信ゼザルヲ得ナイノデアリマス、是ニ於テ私

局長ガ更迭サセルコトニ裁斷セラレタノデアリマス、此重大ナル責任アル警保局長ハ、内相ノ意思ニ依ッテ最モ輕キ譴責デ事濟ミトナッテ居ルノデアリマス、文官懲戒令ノ第六條ニ依リマス、勅任官ノ免官及減俸ハ、懲戒委員會ノ議決ヲ具シ、内閣總理大臣ヲ奏請シ、御裁可ニ依ッテ之ヲ行フ、奏任官ノ免官ハ、懲戒委員會ノ議決ヲ具シ、内閣總理大臣ヲ經テ本屬長官、即チ本件ニ於テハ内務大臣ガ之ヲ奏請シ、御裁可ニ依ッテ之ヲ行フ旨ヲ規定シテアルノデアリマス、之ニ依ッテ考ヘルト、若シ本件ノ唐澤局長、金澤知事以下ノ勅任官ヲ、懲戒委員會ノ議決ニ懸ケテ、其決議ガ免官或ハ減俸トナッタ場合ニハ、畏多クモ御裁可ヲ得ナケレバナラス、斯クテハ事態重大トナッテ、自分等ノ責任ニ近ツイテ來ルト云フノデ、首相、内相ハ局長、知事、宮野警務課長、狩野署長ヲ一存ニ依ッテ譴責ニ付シ、懲戒委員會ニ懸ケルコト……

ハ此懲戒手續ノ取運ビ方、及其懲戒處分ノ何レニモ、滿腔ノ不信不滿ヲ有スルモノデアリマス、殊ニ内相ハ官僚ノ巨頭トシテ、禮儀三百威儀三千、野人ニ比シ率先挺身シテ恐懼ノ實ヲ擧ゲ、國民ニ示サルベキデハナイカ、後藤内相御自身ハ、國務大臣ニ對スル文官懲戒ノ途ナキヲ奇貨トシテ居ルカ、或ハ下僚關係官吏方何レモ輕微ナル處分ヲ以テ濟ミ、殊ニ内相ノ直接下僚トモ云フベキ警保局長ガ、最モ輕キ譴責處分ヲ以テ終リタルヲ以テ、自己ノ利益ニ援用シタル爲メデアリマスカ、何等責ヲ負フ途ニ出テ居ラスノデアリマス

モ、已ムヲ得ヌト思フノデアリマス…… (此時議長三上君ニ何事ヲカ注意ス) ○三上英雄君(續) 私ハ成ベク要點ヲ申上ゲルコトニ致シマスガ、折角私ハ順序ヲ立テ、大臣ノ責任ヲ問ハントシテ居ルノデアリマスルカラ、諸君ガ騒グト雖メル爲ニ益、時間ヲ要スルコトニナルノデアリマス (治安維持法ニ關係ハ無イ) 別ノ機會ニヤレト呼ビ、其他發言スル者多シ ○議長(濱田國松君) 靜肅ニ——靜肅ニ願ヒマス

シ、不穩思想醸成ノ諸因ヲ排除スル云々ト言フテ居ルノデアリマスガ、斯様ナルコトヲ放任致シテ置キマシテハ、全ク國體觀念ヲ明微ニスルト云フコトニナラナイ、如何ニシテ國民精神ノ基本ヲ涵養シ、國體觀念ヲ明微ニスルノデアルカ、吾々ハ廟堂ノ高キニ居ル人ガ斯様ナル有様デハ、洵ニ寒心ニ堪ヘザルモノガアルト思フノデアリマス(拍手)ソレカラ次ニハ首相ハ國民最高ノ師表タル重責ヲ有ツテ居ルノデアリマス、成申詔書ニハ「惟レ信惟レ義」ト云フコトヲ書イテアル、又 明治大帝ノ軍人勅諭中ニハ「軍人ハ信義ヲ重スヘシ」ト教ヘテアリマス、軍人出身デアアル所ノ岡田大將ハ、今ヤ總理トシテ此勅諭ヲ考ヘネバナラスノデアアル、然ルニ此事ニ關シテハ、先輩ガ執ツタ所ノ相似タル先例ノ措置ヲ全然無視シテ居ル、此點カラ見マシテモ、私ハ首相ガ此問題ニ付キテ頼冠リ主義ヲ進シ居ラレルト云フコトヲ、殘念ニ思フ次第デアリマス (拍手)

ハ國民ヲ疑フコトニナリハセヌカト仰セラレタノデアリマス、斯様ニ國民ヲ信ゼラレ、有司ヲ御頼リアラセラレテ居ル今上陛下ノ鹵簿ニ對シマシテハ、殊更警護ヲ十分ニセネバナラスノデアアル、然ルニ斯様ナル結果ヲ生ジタト云フコトハ、洵ニ痛憾ノ至リデアアルト言ハナケレバナラスノデアリマス、次ニ此群馬縣ノ大演習ニ於キマシテハ、縣ノ當局ハ屢、失態ヲ生ジテ居ルノデアリマスルガ、斯様ナ失態ヲ生ジテ居ル以上ハ、特ニ十分反省戒慎ヲシテ、再ビ其過ヲシナイヤウニシナクテハナラヌ、然ルニ此不慣レナル所ノ本多警部ニ取換ヘテ、以テ誤導ノ失態ヲ惹起シタト云フコトハ、洵ニ吾々ハ殘念デアアル、内務大臣ハ國務大臣トシテモ責任ガアリマスルケレドモ、行政長官トシテモ亦、重大ナル監督ノ責任ガアルト言ハナクテハナラスノデアリマス、更ニ鹵簿警衛ノ重要性カラ見マシテモ、非常ニ重大ナル問題デアアル、彼ノ明治二十四年ニ於ケル所ノ、露國皇太子殿下ガ大津ニ於テ遭難セラレタ時、又清國講和使李鴻章ガ馬關ニ於テ小山六之助ニ傷害セラレタ時、是等ノ點カラ考ヘテ見マスルト、吾々ハ今回ノ責任ノ取り方ガ洵ニ不都合デアルト考ヘルノデアリマス(發言スル者多シ)モウ直キ濟ミマス、靜肅ニ聽イテ下さい

要スルニ鹵簿誤導ノ重大性ニ照シ、關係責任者ノ處分ハ餘リニ其當ヲ失シテ居ルノミナラス、後藤内相自身ノ責任ニ付テハ、何等見ルベキモノガナイノデアリマス、茲ニ其片鱗ヲ知り全貌ヲ推知スベキモノガアル、ソレハ金澤知事ガ内務省ニ參リマシテ、サウシテ歸リニ詰メ掛ケマシタ新聞記者ニ率直ニ打明ケテ曰ク「先驅誤導ノ重大ナル過失ヲ犯シ、責任者トシテ誠ニ恐懼ノ極ミデ、深ク責任ヲ痛感シテ居ル、併シ自分一身ヲ潔クスルコトノミヲ考ヘテ、他ニ迷惑ヲ及ボスコトハ、二重ノ罪ヲ犯スコト、モ考ヘラレルノデ、此點ニ付テハ熟慮中デ、今何トモ申上ゲル譯ニハ參リマセヌ」トアリマス、之ニ依ツテ見レバ金澤知事ハ當時潔ク辭職シテ、良心ノ煩悶ヲ緩和セント欲シ、極力内相ニ懇ヘタノデアッタガ、斯クテハ累ヲ内相及首相ニ及ボスノデ、暫ク踏留レト慰留サレテ退出シタト云フコトガ分ルノデアリマス、此點カラ見マシテモ、後藤内相ハ自分ノ身勝手、都合ニ依リ金澤知事以下ノ辭意ヲ握潰シタト言ハレテ

○三上英雄君(續) 次ニ此不祥事ニ對シテ岡田首相、後藤内相ハ、當時如何ナル處置ニ出デタノデアリマスカ、即チ岡田首相ハ天機ヲ奉伺シ、後藤内相ハ御詫ヲ言上シテ居ルノデアリマスルガ、唯是ダケニ止ツテ居ルノデアリマス、ソコデ私ハ後藤内相ガ責任問題ニ付テ、今日迄如何ナル處置ヲ御執リニナツテ居ルカト云フコトヲ檢討シタノデアリマスガ、臨時議會並ニ本會議ニ於ケル御答辯ハ、全ク要ヲ得テ居ラスノデアリマス、ソコデ私ハ此責任ノ根據、何故ニ後藤内相ノ責任ヲ問フノデアルカト云フ要點ヲ申上ゲルノデアリマス、先ヅ岡田内閣ハ官紀肅正ノ聲明ヲナシ、又内務省ノ官吏ニ對シテ此旨ノ訓示ヲシテ居ルノデアリマ

次ニ皇恩ノ盛大ナルニ鑑ミマシテ、此點ヲ吾々ハ追窮セネバナラスノデアリマスガ、此點ノ内容ハ時間ノ關係上省略致シマス、更ニ、今上陛下ノ御仁慈ト云フ點カラ見マシテ、歴代輔弼ノ大臣ハ我が國體ヲ尊敬スルト云フ點ニ付テハ、洵ニ關心ヲ有ツテ、造次ニモ顛沛ニモ疎カニシテ居ラスノデアリマスル、洵レ承ル所ニ依リマスルト、アノ虎ノ門事件ガアリマシテ、其時ニ宮中府中ノ大官ガ、當時攝政宮殿下デアリマシタ 今上陛下ニ對シテ、或ル大官ヲ以テ、今後御成ノ儀ヲ少クシテ戴キタイト云フコトヲ奏上シク所、當時攝政宮殿下シマシタ 今上陛下ハ言下ニ、ソレデ

○議長(濱田國松君) 靜肅ニ ○三上英雄君(續) 更ニ鹵簿警護失態ノ先例ト性質的ニ比較致シマシテ…… (發言スル者多シ) ○議長(濱田國松君) 三上君ニ再度ノ御警告ヲ申上ゲマス、議案ニ直接スル質疑ノ範

トアリマス、之ニ依ツテ見レバ金澤知事ハ當時潔ク辭職シテ、良心ノ煩悶ヲ緩和セント欲シ、極力内相ニ懇ヘタノデアッタガ、斯クテハ累ヲ内相及首相ニ及ボスノデ、暫ク踏留レト慰留サレテ退出シタト云フコトガ分ルノデアリマス、此點カラ見マシテモ、後藤内相ハ自分ノ身勝手、都合ニ依リ金澤知事以下ノ辭意ヲ握潰シタト言ハレテ

○議長(濱田國松君) 靜肅ニ——靜肅ニ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 靜肅ニ ○三上英雄君(續) 更ニ鹵簿警護失態ノ先例ト性質的ニ比較致シマシテ…… (發言スル者多シ)

○議長(濱田國松君) 三上君ニ再度ノ御警告ヲ申上ゲマス、議案ニ直接スル質疑ノ範

圍ニ、成ベク陳述ヲ御繼メアランコトヲ希望シマス、再度ノ御警告ヲ申上ゲマス

○三上英雄君(續) 鹵簿警護失態ノ先例ト性質的ニ比較致シマシテ、此問題ハドウシテモ此儘國務大臣トシテノ責任ヲ拋棄スルコトハ出來ヌノデアリマス、ソレカラ大臣

ガ斯ル不祥事ノ場合ニ於テ、引責辭職致シマシタ先例カラ考ヘテ見マシテモ、洵ニ此問題ハ輕クナイノデアリマス、事皇室ニ關スル重大問題ノ場合ニ於テ、國民ヲシテ疑ヲ生ゼシメ、其信任ヲ失シタト云フ場合ニ

辭表ヲ出シ、或ハ責任ヲ引イテ居ルノデアリマス、然ルニ今回ハ斯様ナル問題ニ付テモ責任ヲ待ツノ態度ニ出テ居ラレヌ、此點ガ最モ吾々ト致シマシテハ奇怪ニ堪ヘナイノデアリマス、尙ホ鹵簿ノ重要性ハ、皇室儀制ヲ見マシテモ重大ナル問題デアアル、殊ニ吾々ハ憲法ノ上ヨリ考ヘマシテ、此內務大臣方陛下ノ勅裁ヲ仰イデ決定シタル所

ノモノヲ、勅裁通りニ行ハナイデ、之ヲ全然知ラザル風ヲシテ、責任ヲ瞞過サレントスルト云フコトハ、輔弼ノ責任ヲ上洵ニ私ハ殘念デアルト考ヘルノデアリマス、仍テ私ハ結論ニ參リマス、以上本件ノ鹵簿誤導事

件ノ不祥事ニ對スル卑見ヲ開陳シマシテ、總理大臣竝ニ內務大臣ノ態度ハ、天皇ノ尊嚴ニ鑑ミ、又我が國體ノ精華ニ照シテ、洵ニ殘念ナル事デアルト考ヘルノデアリマス

ソコデ便宜上私ハ質問ノ要點ヲ申上ゲマスルガ、內務大臣ニ御尋スル點ハ、第一、御道筋十字路ヲ左折セシムル爲ニ、正面道路ヲ一時警察官又ハ然ルベキ方法ニ依ッテ塞グベキデアッタノヲ、之ヲ等閑ニ付シタ、之ヲ如何ニ御考ニナルカ、第二、此鹵簿誤導ヲ爲シタル警察官ハ、先年誠首セラレ

タル者デアアルガ、斯ル人ヲ殊更ニ豫行演習ヲモ爲ササルニ拘ラズ、何故ニ行幸前夜ニ至リ突如變更シテ此重責ヲ授ケラレタカ、此經緯理由ヲ聽クノデアリマス、第三ニハ、內務大臣ハ、玉體鹵簿ニ御間違ガナケレバ、ソレデ宜イト考ヘテ居ルノデアアルカドウカ、單ニ內相ノ常套語デアアル恐懼ヲ口ニスルノミヲ以テ臣節ヲ竭シ、國務大臣竝ニ行政長官トシテノ職責ニ、何等缺クル所ナシト考ヘテ居ラレルノデアアルカ、此點ヲ私ハ御聽キスルノデアリマス、要スルニ內務大臣ハ

本件鹵簿誤導問題ハ、今日迄ノ經過ヲ以テ事濟ミト解釋シ、是レ以上何等ノ責任ヲ取ルノ行爲ニ出デザル御考デアアルカドウカ、是等ノ事ヲ御尋スルノデアリマス、ソレカラ岡田首相ニ御尋スル點ハ、冒頭ニ申上ゲマシタ國體ノ本質ニ對スル御信念ト、竝ニ此十大政綱中ノ民心作興ノ中ニ、一ニ聖詔ノ御趣旨ヲ奉體シ、國體觀念ヲ明徴ナラシメ

云々トアル、其聲明ニ鑑ミテ、斯様ナル狀態尙ホ差支ナイト御考ニナッテ居ルノデアアルカドウカト云フコトハ、ソレカラ今日迄後藤內相ガ本件ニ付テ執ツテ居ラレル行爲ハ、勿論首相ニ相談セラレタコト、私ハ考ヘルガ、首相ハソレデ宜イト、之ニ同意セラレタノデアアルカ、內閣ノ官制第五條、第六條ニ依リマスルト、高等行政問題

其他主管大臣ガ必要ト信ズル時ニ於テハ、總理大臣ハ閣議ヲ召集シ、主管大臣ハ閣議ノ開催ヲ請求スルコトニナッテ居ル、本件ニ付テ閣議ヲ開イテ慎重審議、以テ如何ナル責任ヲ取ツタラ宜イカト云フコトヲ、御研究ニナツタカドウカ、之ヲ私ハ御伺シタイノデアリマス、以上ノ點ニ付テ首相竝ニ內相ノ

明快ナル御答辯ヲ御伺シタイノデアリマス、

私ハ是等ノ點ヲ此議場ヲ通ジテ、九千万國民ニ闡明ニスルコトガ、岡田內閣施政百般ノ根本義デアアル、先決問題デアルト信ズルノデアリマス、若シ依然トシテ顧ミテ他ヲ言フガ如キ事ガアツタナラバ、折角治安維持法ヲ出シテ、サウシテ國體ノ變革ヲ企ツル者ヲ處罰セントシテモ、其效力ガナイ、其資格ガ無イト云フコトヲ申上ゲマシテ、私

ノ質問ヲ終ル次第デアリマス(拍手)

○國務大臣(岡田啓介君) 三上君ハ只今私ノ國體ニ關スル信念ヲ御尋ニナリマシタ、私ハ先般貴族院ノ豫算總會ニ於テ申述ベマシタル通り、我が國體ハ較ベルモノナキ尊キモノデアリマシテ、天壤無窮ノ御聖勅ニ明カナルガ如ク、萬世一系ノ 天皇ノ御統治

ノ下ニ、我が國民ハ御歷代ノ仁慈窮リナキ大御心ニ依リ、赤子トシテ愛撫セラレマシタル臣民ノ子孫デアリマシテ、億兆心ヲ一ニシ世々忠誠ヲ捧ゲ、皇運ヲ扶翼シ奉リ、

肇國ノ理想ニ向ツテ進展シ來タノデアリマス、我ガ國體ハ尊嚴其モノデアリマス、言葉ヲ以テ言現スコトノ出來ナイモノデアリマス(ヒヤ／＼)私ガ此處ニ斯克申上グル

サヘ恐懼ニ堪ヘナイノデアリマス(拍手)伊勢神宮ニ參拜致シマス者方年々其數ヲ増シ、此頃ハ毎日數万人ヲ數ヘルト云フコトデアリマス、此多クノ人ガ神宮ノ大御前ニ額キ

マシタ時ニ「何コトノ在シマスカハ知ラネトモ」アノ歌ノ心ト同ジク、尊嚴其モノヲ目ノアタリニ見マシテ、心ヲ打タレヌ者ハ一人モナイト思ヒマス(拍手)生ヲ享ケテ我國ニ生レマシタ者ハ之ヲ矜リトシ、之ヲ喜ビ

トシナイ者ハナイト考ヘマス(拍手)我が國民ノ全部ハ國體ニ關シテハ私ト同ジ考デア

リマス、又皇室ニ對スル忠誠ノ念ニ燃エナイ者ハ一人モナイト考ヘテ居リマス(拍手)只今鹵簿誤導ノ事件ニ付テ御尋デアリマシタガ、是ハ私ハ總理大臣トシテ定ニ恐懼ニ堪ヘマセヌ、唯責任者ノ處罰ニ付テ慎重ヲ

缺キマシタリ、不當デアッタリシタトハ私ハ考ヘテ居リマセヌ(拍手)

○國務大臣(後藤文夫君) 我が尊嚴ナル國體ニ於キマシテ 陛下ニ對シ奉リ、吾々ガ誠忠至誠一意御奉公ヲ申上ゲナケレバナラヌコトハ、常ニ痛感ヲ致シテ居リマス、昨春秋

桐生市ニ於キマシテ、鹵簿誤導ヲ申上ゲマシタ畏多イ事件ノ起リマシタコトニ付キマシテハ、深ク々々恐懼ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、此場合ニソレ／＼御警衛ノ衝ニ

當リマシタ者ノ責任ヲ糺スコトニ付キマシテハ、私ハ深く考ヘマシテ、適正ナル處置ヲ誤ラザルコトニ一意留意致シタノデアリマス、私自ラト致シマシテモ洵ニ恐懼ニ堪ヘ

ナイノデアリマス、深く恐懼戒心ヲ致シマシテ、今後斯ノ如キ事態ノ起ラナイコトニ、全力ヲ擧ゲタイト考ヘテ居ル譯デゴザイマス、之ヲ以テ御答辯ト致シマス(拍手)

○三上英雄君 簡單デスカラ此席カラ發言ヲ御許シ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○三上英雄君 只今首相竝ニ內相ノ御答辯ヲ承リマシタケレドモ、此恐懼スベキ不祥事ヲ出來シタコトニ付テノ首相竝ニ內相、殊ニ內相ガ如何ニシテ其責任ヲ明ニスルカト云フ點ニ付テハ、矢張問ヲ以テ問ニ答ヘル循環論法ニ終ツテ、毫モ我が日本ノ上下ニ對シテ、其責ヲ明ニシテ居ラレヌノデアリマス、岡田首相ハ先般貴族院ニ於テ質問ニ

答ヘテ曰ク「私初メ閣僚ガ身ヲ以テ範ヲ示シタイト心懸ケテ居リマス」ト云フコトヲ答辯サレテ居リマスルガ、左様ナルコトデハ、憲法、政治論ヲ超越スル此重大問題ニ付テ、全然身ヲ以テ範ヲ示スコトニナラヌト私ハ信ズルノデアリマス(拍手)併ナガラ既ニ時間モ經過ヲ致シテ居リマスルカラ、此點ニ對スル所ノ責任ノ論究ハ他ノ機會ニ譲リマシテ、本日ハ之ヲ以テ質問ヲ一應終リマス

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者比佐昌平君

(比佐昌平君登壇)

○比佐昌平君 諸君、私ハ出來ルルガ簡單ニ本法案ニ關シ、主ニ司法大臣ニ御伺ヲ致スノデアリマス、御承知ノ通り治安維持法ハ、去ル五十議會ニ初メテ提案サレマシテ、第一次改正案ガ五十五議會ニ提案サレタノデアリマスルガ、審議未了トナリマシテ、議會閉會後緊急勅令ヲ公布致サレ、五十六議會ニ事後承諾案トシテ提出サレタノデアリマス、更ニ昨年、六十五議會ニ第二次改正案ガ提出致サレマシタガ、是亦審議未了トナツタコトハ御承知ノ通りデアリマス、今回提案サレマシタ治安維持法改正案ニ付キマシテハ、昨年吾々ガ委員會ニ於テ、改正案ノ内容ニ付キマシテハ詳細ク論議致シタノデアリマス、唯問題トナリマシタ豫防拘禁ハ、今回政府ヨリ削除致シテ參ッ

タノデアリマス、更ニ右傾ノ行動ニ對スル取締ノ問題デアリマスルガ、由來、治安維持法ナルモノハ、無政府主義、共產主義ヲ取締ルノガ立法ノ精神デアリマス、故ニ右傾ノ思想ニ依リ直接行動ヲ主眼トシ、社會不安ヲ惹起セントスル團體行動ノ取締ヲ目

的トスル不法團結等處罰ニ關スル法律案ハ、別ニ單行法トシテ今回提案サレタコトハ、當然ト言ハナケレバナラヌノデアリマス、私ハ治安維持法ノ提案サレタ當時ヨリ、常ニ委員トシテ其審議ニ與ツタ一人デアリマス、故ニ案ノ内容及解釋等ニ付キマシテハ、相當理解ヲ有ツテ居ルト考ヘテ居リマス、併ナガラ第一回當時ノ政府、及其後ノ改正案提出ノ政府、即チ歷代各政府當局者ハ、此法律ノ内容ノ解釋ニ付キマシテハ、各、異ツタル意見ヲ有ツテ居リマシテ、所謂不統一ヲ極メ、一貫セル斷定的ノ解釋ハ未ダ無イト言ウテ宜イノデアリマス、故ニ私ハ未ダニ幾多ノ疑問ヲ有ツテ居ル一人デアリマス、此意味ニ於キマシテ、現小原司法大臣ハ、是等ノ解釋ニ對シテ如何ナル御意見ヲ有スルカ、是レ本改正案提出ニ際シマシテ、此際大臣ノ答辯ヲ求メテ置クノ必要アル所以デアリマス

第一國體ノ變革ノ問題ニ付テハ、私ヨリ今更申上ゲル必要ハアリマセヌ、我が日本ハ萬世一系ノ天皇ヲ戴キ、實ニ世界ニ類例ノナイ金甌無缺ノ國體デアリマス、即チ憲法ノ第一條ニ依リ萬世一系ノ天皇ガ我國ヲ統治サレルト云フ此根本ノ國體ノ變革ニ向ツテハ、斷ジテ吾々ハ擁護シナケレバナラナイノデアリマス、要スルニ國體ノ變革トハ天皇ト統治關係ノ連絡ヲ斷絶スル事デアリマス、即チ我が日本ノ天皇ト我國ノ統治權トノ關係ヲ破壞スル事ガ國體變革デアリマシテ、之ニ臨ムニ極刑ヲ科スルコトハ當然ナリト言ハナケレバナリマセヌ、併ナガラ私ガ是ヨリ御同致サントスルコトハ、此法律ノ解釋ノ範圍ノ問題デアリマス、天皇ハ

統治權ヲ有セラレテ居リ、憲法ニ列記セラレタル所ノ天皇ノ大權ガアリマス、憲法ノ改正ニ依ツテ天皇ノ大權ノ一部ヲ變更セントスルガ如キ意見ニ對シテ、國體變革ト解釋ヲ致シテ本法ヲ適用スルヤ否ヤノ問題、是ガ第一點デアリマス、天皇ノ大權ヲ不合法ノ手段ニ依ツテ變更スルコトハ、是ハ斷ジテ許スベキデナイコトハ勿論デアリマス、併シ若シ合法手段ニ依リマシテ大權ノ一部ヲ變更センコトヲ主張スルコトハ、國體變革ト解スルヤ否ヤト云フノガ、此法律ノ解釋ニ對シテハ重大問題ト思フノデアリマス、然ラバ合法手段トハ何デアルカ、勿論憲法改正ノ問題デアリマス、憲法自體ニ於テ、憲法七十三條ニ依リマシテ憲法改正ガ豫想セラレテ居ルノデアリマス、併シ憲法改正ノ發案ハ勅令ニ依ルノデアリマス、議院ニハ發案權ハナイノデアリマス、併シ議院ニハ上奏權ガアリマス、憲法改正ヲ希望スル上奏案ハ提出シ得ルノデアリマス、上奏其モノハ憲法改正其モノデハアリマセヌ、憲法改正ヲ希望スルコト云フ上奏手續ニ依ツテ、議會ヲ通ジテ合法的ニ憲法ノ改正ヲ要望スル意見ハ不合法デアリマセヌ、例ヘバ憲法十三條ノ、條約ノ締結ハ天皇ノ大權デアリマシテ、今後若シ條約ノ締結ニ際シテハ、帝國議會ノ協贊ヲ要スルト云フコトニ改正ヲ致サントスルナラバ、現在ノ大權ノ一部ヲ變更スルコトニナルノデアリマス、大權ノ内容ノ變更ハ國體變革ト解釋ヲスルヤ否ヤ、之ニ對シテ司法大臣ノ明快ナル御答辯ヲ得タイノデアリマス

諸君、從來之ニ對シテ歷代ノ政府ハ、二様ノ見解ヲ有ツテ居タノデアリマス、抑、第一回ノ提案ニ際シマシテ、時ノ政府委員ハ

斯ノ如キ意見ヲ有ツテ居タノデアリマス、當時ノ速記録デアリマスルガ、此速記録ニ依リマスルト云フト、政府委員ノ説明ニ曰ク、統治權ノ一ツノ内容ヲ變更スルコト「ソレハ國體變革ト云フコトニハナラナイ」デアリマス、即チ大權ノ縮小變更ト云フコトニナルノデアリマス、大權ハ即チ天皇親裁ノ權限デゴザイマス、天皇ガ親裁ニナル國務ト親裁ニナラナイ國務トガアルノデアリマシテ、御親裁ノ件ヲ移シテ御親裁ニナラナイ部分ニ換ヘルト云フコトガ、憲法ノ變更ニ依ツテ行ハレタ場合ニ於テハ、少シモ差支ナイコトデ、毫モ國體變更ニナラヌノデアリマス、何故ナラバ親裁ヲ爲サラナイ所ノ國務ハ第一條ニ於ケル「天皇之ヲ統治ス」ト云フコトニ對シ間接統治ニナルノデアリマス、第一條ニ少シモ影響ハナイノデアリマス」ト答辯サレテ居ルノデアリマス、然ルニ之ニ對シテ正反對ノ意見ヲ有ツテ居ル政府委員ガアリマス、即チ第一次改正案ノ當時ニ於ケル政府委員トシテ泉二博士ハ、此問題ニ對シテ斯様ナ答辯ヲ致シテ居ルノデアリマス、大權ノ縮小又ハ制限ハ國體變革ニ入ルヤ否ヤト云フ問題ニ對シマシテ、泉二博士ハ「ソレハ矢張り國體ノ變革或ハ方法ニ依リマシテハ内亂罪等ニ入ルダラウ、ト思ヒマス、只今オハ話ニナツタヤウナコトハ總テ國體變革ト云フ中ニ入ルモノト廣ク是ハ解釋スルモノト信ジテ居ルノデアリマス、君主政體ト云フコトニナツテ居リマシテモ、其名有ルモ實ナキモノニナツテシマツタナラバ、是ハ矢張り非常ナ國體ノ變革、日本ノ國體トシテハ天皇之ヲ統治セラレルト云フ名義ダケデナクシテ、實質ガ憲法ニ認メラレテ居ル、其實質ヲ變更シヨ

ス

ウト云フコトデアリマシタナラバ、矢張國體變革ノ中ニ入ルモノト思フノデアリマス」ト明ニ答辯サレテ居ルノデアリマシテ、此兩者ノ政府委員ノ答辯ハ、相互ニ相反スル答辯ヲ致サレテ居ルノデアリガ、司法大臣ハ之ニ對シテ如何ナル御意見ヲ有テ居ルカ、御伺ヒ致シタイノデアリマス、尙ホ御參考ノ爲ニ申上ゲテ置キマスガ、昨年吾々ガ、此治安維持法改正法律案ノ委員會ニ於テ、此問題ニ對シテ前小山司法大臣ハ、斯様ニ御答ヲ致シテ居ルノデアリマス「大權ノ一部ヲ制限セントスル議論デアリマスルガ、其立論ノ根據ガ統治權ノ總攬デアル事實ヲ變更シヨウトスルノニアリマス點ハ、其場合ハ國體變革ヲ目的トスルト云フコトニナルト云フ場合ハアルト思ヒマス、併ナガラ政治上ノ見解カラシテ大權ノ一部ヲ御制限アラセラルベキガ相當ナリト云フヤウナ議論ラスル場合ハ、是ハ別問題ダト思フテ居リマス、詰リ憲法ノ規定ノ一部ヲ勅命ヲ以テ御變更遊バサレルヤウニ希望スルト云フ一ツノ意見デアリマスルト、先ヅ大體ニ於テ申スノデスガ、犯罪性ヲ帶ビルモノデハナイト思ヒマス」斯様ニ小山前司法大臣ノ答辯ノ如キハ、其點ニ付テ洵ニ曖昧デアリマシテ、明確ナル解釋デハナイノデアリマス、以上ノ點ニ付テ小原司法大臣ノ明快ナル御答辯ヲ受ケタイノデアリマス

ルガ、大審院ノ判例其他ニ於キマシテモ、此私有財産制度否認ニ對スル具體的ノ明確ナル確定義ト云フモノハ、未ダニ認メルコトハ出來ナイノデアリマス、或ハ私有財産否認トハ、私有財産制度ト相容レザル事項ヲ企畫スルコトナリト言ヒ、或ハ私有財産制度ヲ根本的ニ破壊スル思想ヲ名ケテ、私有財産制度否認ナリト言テ居リマスケレドモ、是レ洵ニ空漠タルモノデアリマス、今日迄政府委員自身サヘ「私有財産制度ノ觀念ハ洵ニ人々ニ依ッテ皆見ル所ガ違フノデアアツテ、實ニムヅカシイ問題デアリマス」ト、泉二博士ガ政府委員トシテ自ラ告白シテ答辯ヲ致シテ居リマス、又前小山司法大臣モ「私有財産制度ノ否認ノコトハ、難カシイ觀念デアリマスカラシテ、各縣ノ裁判所ノ檢事ナリ判事ナリノ適用ガ區別ニナルト云フコトハ是ハアリサウナコトデ、誰モ考ヘテ居ルコトデス」ト委員會ニ於テ答辯ヲサレテ居ルノデアリマス、之ニ對シ私ハ明確ニ二三ノ點ニ付テ、司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、第一私有財産制度ノ否認ト云フコト、所有權ノ否認トノ關係デアリマス、箇々ノ所有權ヲ否認スルコト、私有財産制度ト云フ制度其モノ、否認トハ、別箇ノ觀念デアルト思ヒマスガ、司法大臣ハ如何ニ御考ニナリマスカ、勿論前小山司法大臣ハ、此法律ハ制度ト云フ方ニ立法ハ力ヲ入レテ居リマスト明言致シテ居リマス、故ニ根本的ニ私有財産制度ト云フモノヲ無クスルト云フコトハイケナイノデアリマスカラ、生産機關ノ一部、土地ノ一部ノ國有、或ハ鐵道ノ國有ト云フ議論迄絕對ニ禁止スル意味デハナイノデアリマスト答辯サレテ居リマス、然ラバ制度ト

ハ一體如何ナルモノヲ言フノデアアルカ、即チ國法ニ依ッテ保護サレテ、茲ニソレガ一ツノ纏ツタ觀念トナリシモノガ制度ト思フノデアリマス、法律ニ依ッテ保護サレ、秩序ガ總括サレテ、初メテ制度ナルモノガ生ズルノデアリマス、私有財産制度トハ民法其他ノ法律ニ依ッテ、廣ク國法ニ依ッテ保護サレ、統制サレタモノガ制度デナケレバナリマセヌ、制度ハ國法ニ依ッテ保護サレタモノトスルナラバ、法律ハ合法的ニ立法的手段ニ依ッテ、常ニ變更改正又ハ廢止サレルノデアリマス、故ニ一定不變ノ制度ト云フモノハアリマセヌ、隨テ私有財産制度ト云フモノモ、絕對的ノモノデハアリマセヌ、即チ私有財産制度ハ相對的ノモノデアリマス、民法第二百六條ノ所有權ハ法令ノ範圍内ニ於ケル使用、收益、處分ノ權利デアリマス、立法的手段ニ依ッテ制度ヲ變更スルト云フコトハ、制度ガ如何ニ變革サレテモ畢竟制度ノ變更ニ外ナラナイノデアリマス、即チ制度ノ否認トハナリマセヌ、即チ本法ハ此制度ノ變更ニ對シテハ制裁ガ及ビマセヌ、唯單ニ制度ノ否認ノ場合ニ於テ、本法ノ對象トナラナケレバナリマセヌ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ憲法ノ二十七條ニ「日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ」トアリマスルガ、所有權制度ノ否認ト私有財産制度其モノ、否認トハ、是レ明カニ別箇ノ觀念デアリマスルガ故ニ、憲法二十七條ノ所有權ヲ否認スルト云フコト、所謂總括的ノ制度デアアル私有財産制度ノ否認トハ、同一觀念ナリヤ否ヤ、過去ノ五十議會及五十六議會ニ於ケル政府委員ハ、制度ト所有權ト云フモノヲ混同シテ居ッタコトハ事實デアリマス、私

ハ私有財産制度ノ否認ト云フ問題ト、是等ノ問題トニ付テ、司法大臣ノ明確ナル御答ヲ受ケタイノデアリマス、例ヘバ所有權否認ハ直チニ私有財産制度ノ否認ト云フ結論ハ生ジマセヌ、土地其他生産手段ノ國有ニスルト云フ意見ニ對シテ、否認トナル場合ト、否認ニナラザル場合トヲ生ズルノデアリマス、例ヘバ所有權全部ヲ否認セバ、私有財産制度ノ餘地ガナクナツテシマフ、茲ニ於テ所謂否認ト云フ問題ガ起ルガ、其處ニ否認トナル場合ト否認トナラナイニツノ場合ノ、其限界ヲ明確ニ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス、第二ニ五十議會ニ於キマシテ國務大臣ハ其答辯ニ於テ、所有權即チ私有財産制度ヲ尊重シテ、所有權ニ對スル賠償ヲヤツテ、之ヲ公營ニスルト云フコトハ、是ハ一寸モ差支ナイ、所有權ヲ認メズニ、唯公營ニスルト云フコトニナレバ、即チ所有權ノ否認ト云フコトニナルカラ、本法律ニ觸レルト答辯ヲ致シテ居ルノデアリマス、是レ明ニ所有權ト私有財産制度ヲ混同セル觀念ナリト思フノデアリマス、例ヘバ生産機關ノ公營デモ、所有權即チ私有財産制度ヲ認メテ、之ニ相當ノ賠償ヲヤツテ公有ニスルトカ、國有ニスルトカハ、是ハ少シモ差支ナイ、是ガ有名ナ其當時ノ小川司法大臣ノ賠償論デアリマス、賠償シテ土地ヲ國有ニスル、生産機關ヲ公有ニスル、根本ニ於テ私有財産制度ヲ認メテ、賠償ヲスレバ、私有財産制度否認ノ觀念ニハナラヌト、洵ニ單調ナル御意見ヲ持ッテ居ッタノデアリマス、賠償ヲスレバ否認ニナラヌトスルナラバ、賠償ニ依ッテ土地其他ノ生産手段ヲ悉ク國有ニスルトカ、合法的ナリト云フ結論ガ生ズルノデアリマス、司法大臣ハ此結

論ニ御同意爲サルヤ否ヤ、賠償手段ニ依レバ否認ニアラズト云フ論ヲ以テスルナラバ、賠償ニ依テ土地其他總テノ生産機關ヲ公有ニスルト云フコトハ、不法デハナイノデアリマス、ソレヲ推進メマスト云フト、賠償ト云フ事實ガアレバ、有ユル大部分ノ私有財産ハ或ハ國有トナリ、或ハ公有トナリ得ルノデアリマス、隨テ私有財産ガ結論ニ於テハ無イヤウナ社會ガ現レルコトニナルノデアリマス、然ラバ此法律ヲ極論スルナラバ、其結果ハ結局私有財産ノ無イヤウナ社會ガ現レルコトヲ、取締ルコトガ出來ナイト云フ結論ニナルト思フノデアリマス、之ニ對シテ司法大臣ノ明確ナル御答辯ヲ受ケタイノデアリマス、更ニ憲法二十七條ニ「公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル」トアリマス、此二十七條ノ第二項ハ、第一項ノ但書デハアリマセズ、第一項第二項獨立シテ解釋スベキモノデアルト思フノデアリマス、古キ時代、古キ學說ニ因ハルル者ハ卒サ知ラズ、世ノ進運ト共ニ公益ナル文字ハ、廣義ニ解釋サル、ノハ當然デアリマシテ、公益觀念ノ擴充ト共ニ、所有權ニ對スル制限ガ擴大サル、ノデアリマス、近代の趨勢ト致シマシテ、所有權ハ獨リ所有者デアアル個人ノ爲ニ認メラレルモノニアラズト云フ見地カラ、所有權ノ社會的機能ガ高調セラレ、其制限ガ増大セラレ、社會正義ノ上ヨリ所有權ハ制限セラレルモノデアリマス、所有權觀念ガ個人本位ヨリ社會本位ニ推移スルト云フコトハ、近代的ノ傾向デアリマス、公益觀念ノ擴充ト共ニ、所有權ノ縮小又ハ一部ノ否認、即チ賠償無シニ沒收徵發、即チ一部ノ否認ハ認メラル、ト言ハナケレバナリマセズ、是ハ

現在ノ法制其他ニ於テサヘモ、無賠償ノ事實ヲ明ニ事實トシテ現ハシテ居ルコトハ、御承知ノ通りト思フノデアリマス、故ニ賠償論必シモ所有權是認、又ハ否認ト云フ唯一ノ根據ニハナリマセズ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス

最後ニ經濟組織改造意見ト本法ノ關係デアリマス、資本主義經濟機構ノ改革ト云フコトガ叫バレテ居リマス、又資本主義經濟組織ノ修正ト云フコトヲ言ハレテ居リマス、又ハ統制經濟ト云フコトヲ言ハレテ居リマスルガ、結局統制經濟論モ資本主義經濟組織ノ改革ト云フコトガ眼目デアリマス、又社會政策、是ハ漸進的ナルモノデアリマスルケレドモ、社會政策モ窮極スル所ハ、矢張經濟組織ノ改革問題ニ到達スルノデアリマス、今後ノ政黨ハ斯ノ如キモノガ其重要ナル政策ノ一トナルノデアリマス、私有財産制度否認ト、是等改革意見トノ關係如何、諸君、私ノ考ヲ以テスルナラバ、私有財産制度ト資本主義經濟機構トハ別箇ノ觀念デアリマス、之ヲ同一ノ觀念ト見ルコトハ誤リデアリマス、資本主義經濟機構ト云フモノハ私有財産制度ヲ基礎トシテ、其上ニ出來上ツタル經濟上ノ一現象デアリマス、私有財産制度ヨリ產出サレタルモノガ、資本主義經濟機構デアッテ、此資本主義經濟機構ハ過去ノ社會ニ於キマシテハ、非常ニ社會進運ノ爲ニ寄與シタルコトハ事實デアリマス、併ナガラ其發達ト共ニ、同時ニ往々弊害ガ伴フト云フコトハ、必然ノ趨勢デアリマス、即チ富ノ集中、富ノ偏在、企業ノ獨占、貧富ノ絶大ナル懸隔、混沌タル社會情勢ノ醸成サレルコト、斯様ナ現象ガ現ハレテ來ルノデアリマス、隨テ資本主義經濟機

構ノ上ニ種々ナル改革ヲ加ヘ、或ハ改良ヲ加ヘ、或ハ修正ヲ加ヘナケレバナラヌト云フノガ、今ヤ現在ノ政治上ニ於ケル傾向デアリマス、是等ヲ改革スルコトガ、學者政治家ノ考究スベキ重大ナル題目ト私ハ思フテ居ルノデアリマス、斯ルモノニ對シテ國家的見地ニ立脚致シテ、公正ニ眞劍ニ其解決ニ努力スベキガ政治ノ要諦デナケレバナラヌト考ヘテ居リマス、然ルニ之ニ對シテ政府委員ハ、委員會ニ於テ斯ウ云フコトヲ言ッテ居リマス、資本主義經濟機構ヲ改良スルトシテモ、其結果私有財産制度ヲ根柢カラ無クスルト云フコトハ、法ノ許サヌ所デアアル、資本主義經濟機構ノ修正若クハ統制經濟ト致シマシテモ、ソレ等ノ範圍ニ於テ資本主義經濟機構ニ一大修正ヲ加ヘマシテモ、私有財産制度ヲ根本ヨリ破壊スルヤウナ結果ヲ招來シナケレバ差支アリマセズ

ト、答辯サレテ居ルノデアリマス、併シ資本主義經濟組織ニ大斧鉞ヲ加ヘルナラバ、私有財産制度ノ本質ヲ失フ場合アリト云フコトハ、吾々豫想シナケレバナリマセズ、然ラバ私有財産制度否認トナラザル經濟組織ノ改革ト云フモノハ、如何ナルモノヲ言フノデアルカ、即チ資本主義經濟機構ノ改革問題ト、私有財産制度否認ノ問題ト、如何ナル點ニ於テ相齟齬スルノデアルカ、若シソレ等ニ對スル限度ガアレバ其限度ヲ明確ニ御示テ願ヒタイノデアリマス

最後ニ簡單ニ御尙致シテ置キマス、今マデノ政府委員ノ御説明ニ依ルト、我が日本ノ國體ト私有財産制度ハ、同一ノモノト答辯サレテ居ルコトガアツタノデアリマス、國體ノ尊嚴ニシテ侵スベカラザルモノ、吾日本國民ハ斷ジテ我が世界ニ類例ノナイ

日本帝國ノ精神デアリマス、併シ必シモ國體ト云フモノト、私有財産制度ナルモノハ離ルベカラザル觀念ナリヤ否ヤ、治安維持法ノ事犯ニ現ハレタ事件カラ申シマシテモ、國體變革ト、私有財産制度否認ト、二ツノモノガアツタノハ事實デアリマス、國體變革ヲ目的トセズシテ、唯單ニ私有財産制度否認其モノヲ目的トシタモノガアツタコトハ事實デアリマス、私ハ必シモ此會嚴ニシテ吾々ガ絕對ニ擁護シナケレバナラヌ國體ト、私有財産制度ヲ、必シモ離ルベカラザル觀念トシテ置クベキガ善イカ惡イカ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ我が日本ノ歴史ヲ見マシレバ、大化ノ新政ノ如キハ大改革ヲ行ッテ、所謂土地國有ヲ行ッテ居リマス、御承知ノ通り大化二年ニ於キマシテ、今ヨリ約千二百年前、此大化ノ新政ニ於テ第一ニ行ツタルモノハ、政治上ノ大改革デアリマスルガ、第一ノ要點ハ私有地ノ撤廢デアリマス、第二ハ班田收授ノ法ヲ行ツタコトデアリマス、即チソレニ依リマスルト、人ガ生レテ六歲ニ至レバ、男女ノ差別ニ依ッテ田地ヲ賜ウタノデアリマス、一定ノ土地ヲ貸與シタノデアリマス、サウシテ六年毎ニ所謂人口調査ヲ行ヒマシテ、實情ニ即シテ、之ヲ收授スル、是ガ班田收授ノ法デアリマス、即チ生活問題ノ基本タル土地國有ヲ斷行シテ、サウシテ班田收授ノ法ヲ行ツタ、此時ニ於テハ我が日本ノ歷史上有名ナル此當時ニ於テ、土地國有ハ斷行サレテ居ツタノデアリマス、昔ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニ非ザルハ莫シト云フ觀念デアツタノデアリマス、所謂民ヲシテ菜色ナカラシムルノガ政

國體ノ下ニ、此國體ヲ擁護スルノハ、我が日本帝國ノ精神デアリマス、併シ必シモ國體ト云フモノト、私有財産制度ナルモノハ離ルベカラザル觀念ナリヤ否ヤ、治安維持法ノ事犯ニ現ハレタ事件カラ申シマシテモ、國體變革ト、私有財産制度否認ト、二ツノモノガアツタノハ事實デアリマス、國體變革ヲ目的トセズシテ、唯單ニ私有財産制度否認其モノヲ目的トシタモノガアツタコトハ事實デアリマス、私ハ必シモ此會嚴ニシテ吾々ガ絕對ニ擁護シナケレバナラヌ國體ト、私有財産制度ヲ、必シモ離ルベカラザル觀念トシテ置クベキガ善イカ惡イカ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ我が日本ノ歴史ヲ見マシレバ、大化ノ新政ノ如キハ大改革ヲ行ッテ、所謂土地國有ヲ行ッテ居リマス、御承知ノ通り大化二年ニ於キマシテ、今ヨリ約千二百年前、此大化ノ新政ニ於テ第一ニ行ツタルモノハ、政治上ノ大改革デアリマスルガ、第一ノ要點ハ私有地ノ撤廢デアリマス、第二ハ班田收授ノ法ヲ行ツタコトデアリマス、即チソレニ依リマスルト、人ガ生レテ六歲ニ至レバ、男女ノ差別ニ依ッテ田地ヲ賜ウタノデアリマス、一定ノ土地ヲ貸與シタノデアリマス、サウシテ六年毎ニ所謂人口調査ヲ行ヒマシテ、實情ニ即シテ、之ヲ收授スル、是ガ班田收授ノ法デアリマス、即チ生活問題ノ基本タル土地國有ヲ斷行シテ、サウシテ班田收授ノ法ヲ行ツタ、此時ニ於テハ我が日本ノ歷史上有名ナル此當時ニ於テ、土地國有ハ斷行サレテ居ツタノデアリマス、昔ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニ非ザルハ莫シト云フ觀念デアツタノデアリマス、所謂民ヲシテ菜色ナカラシムルノガ政

國體ノ下ニ、此國體ヲ擁護スルノハ、我が日本帝國ノ精神デアリマス、併シ必シモ國體ト云フモノト、私有財産制度ナルモノハ離ルベカラザル觀念ナリヤ否ヤ、治安維持法ノ事犯ニ現ハレタ事件カラ申シマシテモ、國體變革ト、私有財産制度否認ト、二ツノモノガアツタノハ事實デアリマス、國體變革ヲ目的トセズシテ、唯單ニ私有財産制度否認其モノヲ目的トシタモノガアツタコトハ事實デアリマス、私ハ必シモ此會嚴ニシテ吾々ガ絕對ニ擁護シナケレバナラヌ國體ト、私有財産制度ヲ、必シモ離ルベカラザル觀念トシテ置クベキガ善イカ惡イカ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ我が日本ノ歴史ヲ見マシレバ、大化ノ新政ノ如キハ大改革ヲ行ッテ、所謂土地國有ヲ行ッテ居リマス、御承知ノ通り大化二年ニ於キマシテ、今ヨリ約千二百年前、此大化ノ新政ニ於テ第一ニ行ツタルモノハ、政治上ノ大改革デアリマスルガ、第一ノ要點ハ私有地ノ撤廢デアリマス、第二ハ班田收授ノ法ヲ行ツタコトデアリマス、即チソレニ依リマスルト、人ガ生レテ六歲ニ至レバ、男女ノ差別ニ依ッテ田地ヲ賜ウタノデアリマス、一定ノ土地ヲ貸與シタノデアリマス、サウシテ六年毎ニ所謂人口調査ヲ行ヒマシテ、實情ニ即シテ、之ヲ收授スル、是ガ班田收授ノ法デアリマス、即チ生活問題ノ基本タル土地國有ヲ斷行シテ、サウシテ班田收授ノ法ヲ行ツタ、此時ニ於テハ我が日本ノ歷史上有名ナル此當時ニ於テ、土地國有ハ斷行サレテ居ツタノデアリマス、昔ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニ非ザルハ莫シト云フ觀念デアツタノデアリマス、所謂民ヲシテ菜色ナカラシムルノガ政

國體ノ下ニ、此國體ヲ擁護スルノハ、我が日本帝國ノ精神デアリマス、併シ必シモ國體ト云フモノト、私有財産制度ナルモノハ離ルベカラザル觀念ナリヤ否ヤ、治安維持法ノ事犯ニ現ハレタ事件カラ申シマシテモ、國體變革ト、私有財産制度否認ト、二ツノモノガアツタノハ事實デアリマス、國體變革ヲ目的トセズシテ、唯單ニ私有財産制度否認其モノヲ目的トシタモノガアツタコトハ事實デアリマス、私ハ必シモ此會嚴ニシテ吾々ガ絕對ニ擁護シナケレバナラヌ國體ト、私有財産制度ヲ、必シモ離ルベカラザル觀念トシテ置クベキガ善イカ惡イカ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ我が日本ノ歴史ヲ見マシレバ、大化ノ新政ノ如キハ大改革ヲ行ッテ、所謂土地國有ヲ行ッテ居リマス、御承知ノ通り大化二年ニ於キマシテ、今ヨリ約千二百年前、此大化ノ新政ニ於テ第一ニ行ツタルモノハ、政治上ノ大改革デアリマスルガ、第一ノ要點ハ私有地ノ撤廢デアリマス、第二ハ班田收授ノ法ヲ行ツタコトデアリマス、即チソレニ依リマスルト、人ガ生レテ六歲ニ至レバ、男女ノ差別ニ依ッテ田地ヲ賜ウタノデアリマス、一定ノ土地ヲ貸與シタノデアリマス、サウシテ六年毎ニ所謂人口調査ヲ行ヒマシテ、實情ニ即シテ、之ヲ收授スル、是ガ班田收授ノ法デアリマス、即チ生活問題ノ基本タル土地國有ヲ斷行シテ、サウシテ班田收授ノ法ヲ行ツタ、此時ニ於テハ我が日本ノ歷史上有名ナル此當時ニ於テ、土地國有ハ斷行サレテ居ツタノデアリマス、昔ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニ非ザルハ莫シト云フ觀念デアツタノデアリマス、所謂民ヲシテ菜色ナカラシムルノガ政

國體ノ下ニ、此國體ヲ擁護スルノハ、我が日本帝國ノ精神デアリマス、併シ必シモ國體ト云フモノト、私有財産制度ナルモノハ離ルベカラザル觀念ナリヤ否ヤ、治安維持法ノ事犯ニ現ハレタ事件カラ申シマシテモ、國體變革ト、私有財産制度否認ト、二ツノモノガアツタノハ事實デアリマス、國體變革ヲ目的トセズシテ、唯單ニ私有財産制度否認其モノヲ目的トシタモノガアツタコトハ事實デアリマス、私ハ必シモ此會嚴ニシテ吾々ガ絕對ニ擁護シナケレバナラヌ國體ト、私有財産制度ヲ、必シモ離ルベカラザル觀念トシテ置クベキガ善イカ惡イカ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ我が日本ノ歴史ヲ見マシレバ、大化ノ新政ノ如キハ大改革ヲ行ッテ、所謂土地國有ヲ行ッテ居リマス、御承知ノ通り大化二年ニ於キマシテ、今ヨリ約千二百年前、此大化ノ新政ニ於テ第一ニ行ツタルモノハ、政治上ノ大改革デアリマスルガ、第一ノ要點ハ私有地ノ撤廢デアリマス、第二ハ班田收授ノ法ヲ行ツタコトデアリマス、即チソレニ依リマスルト、人ガ生レテ六歲ニ至レバ、男女ノ差別ニ依ッテ田地ヲ賜ウタノデアリマス、一定ノ土地ヲ貸與シタノデアリマス、サウシテ六年毎ニ所謂人口調査ヲ行ヒマシテ、實情ニ即シテ、之ヲ收授スル、是ガ班田收授ノ法デアリマス、即チ生活問題ノ基本タル土地國有ヲ斷行シテ、サウシテ班田收授ノ法ヲ行ツタ、此時ニ於テハ我が日本ノ歷史上有名ナル此當時ニ於テ、土地國有ハ斷行サレテ居ツタノデアリマス、昔ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニ非ザルハ莫シト云フ觀念デアツタノデアリマス、所謂民ヲシテ菜色ナカラシムルノガ政

國體ノ下ニ、此國體ヲ擁護スルノハ、我が日本帝國ノ精神デアリマス、併シ必シモ國體ト云フモノト、私有財産制度ナルモノハ離ルベカラザル觀念ナリヤ否ヤ、治安維持法ノ事犯ニ現ハレタ事件カラ申シマシテモ、國體變革ト、私有財産制度否認ト、二ツノモノガアツタノハ事實デアリマス、國體變革ヲ目的トセズシテ、唯單ニ私有財産制度否認其モノヲ目的トシタモノガアツタコトハ事實デアリマス、私ハ必シモ此會嚴ニシテ吾々ガ絕對ニ擁護シナケレバナラヌ國體ト、私有財産制度ヲ、必シモ離ルベカラザル觀念トシテ置クベキガ善イカ惡イカ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ我が日本ノ歴史ヲ見マシレバ、大化ノ新政ノ如キハ大改革ヲ行ッテ、所謂土地國有ヲ行ッテ居リマス、御承知ノ通り大化二年ニ於キマシテ、今ヨリ約千二百年前、此大化ノ新政ニ於テ第一ニ行ツタルモノハ、政治上ノ大改革デアリマスルガ、第一ノ要點ハ私有地ノ撤廢デアリマス、第二ハ班田收授ノ法ヲ行ツタコトデアリマス、即チソレニ依リマスルト、人ガ生レテ六歲ニ至レバ、男女ノ差別ニ依ッテ田地ヲ賜ウタノデアリマス、一定ノ土地ヲ貸與シタノデアリマス、サウシテ六年毎ニ所謂人口調査ヲ行ヒマシテ、實情ニ即シテ、之ヲ收授スル、是ガ班田收授ノ法デアリマス、即チ生活問題ノ基本タル土地國有ヲ斷行シテ、サウシテ班田收授ノ法ヲ行ツタ、此時ニ於テハ我が日本ノ歷史上有名ナル此當時ニ於テ、土地國有ハ斷行サレテ居ツタノデアリマス、昔ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニ非ザルハ莫シト云フ觀念デアツタノデアリマス、所謂民ヲシテ菜色ナカラシムルノガ政

國體ノ下ニ、此國體ヲ擁護スルノハ、我が日本帝國ノ精神デアリマス、併シ必シモ國體ト云フモノト、私有財産制度ナルモノハ離ルベカラザル觀念ナリヤ否ヤ、治安維持法ノ事犯ニ現ハレタ事件カラ申シマシテモ、國體變革ト、私有財産制度否認ト、二ツノモノガアツタノハ事實デアリマス、國體變革ヲ目的トセズシテ、唯單ニ私有財産制度否認其モノヲ目的トシタモノガアツタコトハ事實デアリマス、私ハ必シモ此會嚴ニシテ吾々ガ絕對ニ擁護シナケレバナラヌ國體ト、私有財産制度ヲ、必シモ離ルベカラザル觀念トシテ置クベキガ善イカ惡イカ、之ニ對スル司法大臣ノ御意見ヲ承リタイノデアリマス、例ヘバ我が日本ノ歴史ヲ見マシレバ、大化ノ新政ノ如キハ大改革ヲ行ッテ、所謂土地國有ヲ行ッテ居リマス、御承知ノ通り大化二年ニ於キマシテ、今ヨリ約千二百年前、此大化ノ新政ニ於テ第一ニ行ツタルモノハ、政治上ノ大改革デアリマスルガ、第一ノ要點ハ私有地ノ撤廢デアリマス、第二ハ班田收授ノ法ヲ行ツタコトデアリマス、即チソレニ依リマスルト、人ガ生レテ六歲ニ至レバ、男女ノ差別ニ依ッテ田地ヲ賜ウタノデアリマス、一定ノ土地ヲ貸與シタノデアリマス、サウシテ六年毎ニ所謂人口調査ヲ行ヒマシテ、實情ニ即シテ、之ヲ收授スル、是ガ班田收授ノ法デアリマス、即チ生活問題ノ基本タル土地國有ヲ斷行シテ、サウシテ班田收授ノ法ヲ行ツタ、此時ニ於テハ我が日本ノ歷史上有名ナル此當時ニ於テ、土地國有ハ斷行サレテ居ツタノデアリマス、昔ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、普天ノ下率土ノ濱王土王臣ニ非ザルハ莫シト云フ觀念デアツタノデアリマス、所謂民ヲシテ菜色ナカラシムルノガ政

治ノ要諦トスルナラバ、其當時王道政治ハ行ハレテ居タトテ言ウテ宜シイノデアリマス、即チ我ガ國體ト私有財産制度ト云フモノハ、離レベカラザルモノデアリヤ否ヤ、之ニ付テ司法大臣ノ明確ナル御答辯ヲ求メマシテ、之ヲ以テ私ノ質問ノ大要ト致ス次第デアリマス(拍手)

(國務大臣小原直君登壇)

○國務大臣(小原直君) 比佐君ノ御質問ニ御答致シマス、第一ノ御尋ハ、我が帝國憲法ノ改正ニ依ッテ、憲法規定ノ大權ノ一部ヲ變更セントスルコトハ、果シテ國體ノ變革トナルカドウカト云フ御尋デアリマス、更ニ之ニ關聯シテ、憲法上許サレタル議會ノ權能ニ依ッテ、大權ノ一部ヲ變更スルヤウニ憲法ノ改正ヲ上奏スルコトガ、治安維持法ニ所謂國體ノ變革ニナルカト云フ御尋デアリマス、憲法ノ改正ハ申上ゲルマデモナク、勅命ニ依ッテ、憲法ニ定メラレタル手續ニ依ッテ行ハル、ノデアリマス、私ハ今日此壇上ニ於テ、勅命ニ依ッテ天皇ノ大權ノ一部ニ變更ヲ加ヘントスル、憲法改正ノ議ガ果シテアルベキモノナリヤ否ヤト云フコトヲ申上ゲルコトハ、甚ダ恐懼ニ堪ヘナイ所デアリマス、茲ニ其答辯ヲ差控ヘタイト存ジマス、隨テ之ニ關聯致シマス上奏權ノ問題ニ關シテモ、同様ニ答辯ヲ差控ヘタイト存ジマス

第二ハ、私有財産制度ノ否認ト云フコトハ、如何ナルコトデアルカト云フ御尋デアリマス、是ハ第五十議會ニ治安維持法ガ議會ノ議ニ上リマシタル以來、議會ニ於テ度々論議セラレタル所デアリマスガ、歴代ノ政府當局ハ之ニ對シテ、私有財産制度ノ否認トハ、根本的ニ私有財産制度ヲ破壊ス

ルコトヲ言フノデアルト、答辯ヲ致シテ居ルノデアリマス、今日治安維持法ノ解釋適用ニ於キマシテモ、亦此解釋ニ依ッテ法律ヲ運用致シテ居ルノデアリマシテ、此事ヲ詳シク申上ゲマシルト、一々色々ノ事例ニ付テ申上ゲナケレバナラヌ事ガアルノデアリマス、根本ノ理論ハ、結局根本的ニ私有財産制限ヲ破壊スルコトガ、所謂私有財産制度ノ否認デアルト云フコトニナルノデアリマス、現實ニ於キマシテ、色々ノ事實ヲ證據ニ依ッテ判斷致シマシテ、之ヲ此觀念ニ當嵌マルヤ否ヤニ依ッテ、時々ニ判斷シテ行クヨリ外仕方ガナイと思フノデアリマス

第三ハ、第五十議會ニ於テ、時ノ政府當局者ガ、所有權ニ對スル賠償ヲシテ、所有權ヲ國家ニ取上ゲル場合ニ於テハ、ソレハ私有財産制度ノ否認ニナラナイト云フコトヲ答辯シタルデアアルガ、果シテ同様ノ意見ヲ有ッテ居ルカト云フ御尋ニ歸著スルヤウデアリマス、只今申上ゲマシタ如ク、私有財産制度ノ否認ハ、根本的ニ私有財産制度ヲ破壊スルコトヲ言フノデアリマス、ノデ、賠償ノ有無ト云フコトハ、多少ノ關係ハアリマセウガ、是モ亦具體的ノ事實ニ依ッテ判斷センケレバナラヌコト、思フノデアリマス、若モ賠償ヲシテ所有權ノ大部分ヲ取上ゲテ、之ニ依ッテ私有財産制度ヲ根本的ニ否認スルト云フコトニナリマスレバ、賠償ヲシテモ矢張私有財産制度ノ否認ガアリ得ルト思フノデアリマス

第四ハ、經濟組織ノ改造ト、治安維持法トノ關係ニ付テノ御尋デアリマス、資本主義經濟機構ヲ改革スルトカ、或ハ資本主義ノ修正ヲスルトカ、又ハ統制經濟ヲ唱ヘル

ト云フヤウナコトハ、本法ニ所謂私有財産制度ノ否認ニナルカト云フ御尋デアリマス、所謂資本主義ト云フコトハ、私ガ御説明申上ゲルマデモナク、私有財産制度ヲ根本トシテノ建前カラ生ズル一ツノ集リタル制度ノ觀念デアリマス、所謂私有財産制度ハ營業、自由、企業、是等ノモノガ綜合シテ茲ニ所謂資本主義ト云フモノガ出來ルト思フノデアリマス、此内容ノ一部ニ對シテソレレ、改造ヲ加ヘ、變更ヲ加ヘマシテモ、是ガ全體ニ見テ私有財産制度ノ破壊ニナラナイ限リニ於テハ、其議論ハ私有財産制度ノ否認トハナラナイト解釋シテ居リマス(ヒヤ〜)

第五ハ、從來ノ政府當局ノ中ニ、國體ト私有財産制度トハ同一デアルト云フヤウナ説明ガアツタガ、現政府ハ果シテ如何ニ考ヘルカト云フ御尋デアリマス、是ハモウ申上ゲルマデモナク、國體ト私有財産制度トハ別個ノモノデアリマス、全ク觀念ノ違フモノデアリマス、唯偶、我國ニ於ケル共產主義者ガ、國體ノ變革ト、私有財産制度ノ否認トヲ其綱領ト致シマシテ、犯罪ヲ行ヒマスル上ニ於テ、是ガ共ニ現ハレテ參リマスカラ、其結果トシテ我國ノ共產主義者ノ唱ヘル私有財産制度ノ否認ハ、同時ニ國體ノ變革ヲ來スト云フ場合ガ多クアルノデアリマス、唯併ナガラ現ニ提案致シマシタ今度ノ改正案ニ、國體ノ變革ト私有財産制度ノ否認トハ、別條ニ之ヲ規定シテ居リマス、ガ如ク、觀念ハ全ク違フコトデアリマス、國體ノ變革ヲ企テナガラ、私有財産制度ノ否認ニナラナイ場合モアルカモ知レマセヌ、併シ反對ニ、又私有財産制度ヲ否認スル共產主義者ガ、國體ノ變革ヲ企テナイト

云フ場合モアルカモ知レナイノデアリマス、是ハ矢張時々ノ犯罪ノ現ハレニ依ッテ決メルヨリ外ニ仕方ガナイと思フノデアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 比佐君、モウ御尋ハアリマセヌカ

○比佐昌平君 是レ以上ハ議論ニ互ル場合モアリマスカラ、委員會ニ讓ルコト、致シマシテ、本日ハ之ヲ以テ私ノ質疑ハ終リマス

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者中村不二男君

○中村不二男君 私ハ只今ノ議場ノ有様ニ鑑ミマシテ、私ノ質問ヲ他日ノ機會ニ讓リマス、但シ此機會ニ一言申上ゲテ置キタイノハ、議長ノ今日ノ取扱振リカラ申上ゲマシタルナラバ、將來私共ハ今日ノ程度ヲ慣例ト認メテ、有ユル機會ニ於テ私共ノ發言ヲ要求致シマス、願クハ今日ト異タル御取扱ノナイコトヲ期待シ、希望致シテ置キマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ハ結局致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○青木雷三郎君 日程第八、第九ノ兩案ハ一括シテ、議長指名二十七名ノ委員ニ付託セラレコトヲ希望致シマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)
○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第十、公立學校職員年功加俸國庫補助法中改

正法律案ノ第一讀會ヲ開キマス——文部大臣松田源治君

第十 公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案

公立學校職員年功加俸國庫補助法中左ノ通改正ス

第一條中「實業學校、」ノ下ニ「青年學校、」ヲ加ヘ「實業補習學校教員養成所」ヲ「青年學校教員養成所」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣松田源治君登壇)

○國務大臣(松田源治君) 只今議題ニナリマシタ公立學校職員年功加俸國庫補助法中改正法律案ノ提出ノ理由ヲ説明致シマス、今回實業補習學校及青年訓練所ノ兩青年教育機關ヲ統合シテ青年學校トスルト共ニ、實業補習學校教員養成所ヲ改メテ、青年學校教員養成所トスルコトニ相成ツタノデアリマス、仍テ公立學校職員年功加俸國庫補助法中、學校ノ名稱ヲ改メル必要ガアリマスノデ、本案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上協賛アラントヲ希望致シマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 別ニ質疑ノ通告ハアリマセヌ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リヲ致シマス

○青木雷三郎君 本案ハ政府提出、市町村立尋常小學校費臨時國庫補助法中改正法律案委員ニ併セ付託セラレントヲ望ミマス
○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——此際陸軍大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、議院法第四十二條ニ依リ之ヲ許可致シマス(國務大臣林銑十郎君登壇)

○國務大臣(林銑十郎君) 私ハ先程本議場ニ於キマシテ、砂田豫算委員長ノ追加豫算審査ノ經過報告中ニ、陸軍ニ關シテ述ベラレマシタコトニ付テ、此際一言致シタイト

思ヒマス、其當時陸軍ノ態度ニ付キマシテ若干ノ御意見ガアリマシタガ、私ハ其新聞ノ記事ナルモノモ承知致シマセズ、其内容等モ能ク存ジナカッタ爲ニ、其當時發言ヲ致シマセヌデゴザイマシタガ、爾後調査致シマシタ所ニ依ルト、軍方軍ノ名前ヲ以テ、申サレタヤウナ所見ヲ發表シタル事實ハアリマセヌ、或ハ二月十五日ノ電報通信、其他單ニ一二ノ新聞ノ記事ニ、サウ云フ意味ノコトガアルヤウデアリマスガ、是等ヲ指サレタモノカトモ考ヘマス、併ナガラ是ハ決シテ軍方指示シテ、サウ云フ記述ヲサセタ譯デアアリマセヌ、由來責任アル軍當局ノ發表シマスル意見以外ノコトガ、恰モ軍ノ意見デアルカノ如ク傳ヘラレテ、爲ニ幾多ノ誤解ヲ招キ、軍トシテ相當迷惑ヲ感ジテ居ルコトハ多數アリマス、軍ト致シマシテハ、軍ノ意見ヲ發表致シマス場合ニハ、通常陸軍省發表トカ、或ハ陸軍當局談トカ云フヤウナ形式ヲ以テ、相當多數ノ新聞ニ一齊ニ發表スルコトニナツテ居リマス、將來モ亦サウ云フ形式ヲ採ルノデゴザイマスルカラ、軍ノ意見トシテ論議セラル、場合ニ於キマシテハ、此發表ノ形式ニ御注意アラントヲ御願致シテ置キマス(拍手)

○青木雷三郎君 殘餘ノ日程ヲ延期シ、本日ハ是ニテ散會セラレントヲ望ミマス
○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス
午後六時三十四分散會

衆議院議事速記録第二十三號

中正誤

頁段 行 誤 正
四七八 四二五 綜合意思 綜合意思
四七九 四二四 御異議ナシト 御異議ナシト